

令和4年度

研究 くり た

研究主題

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり
～「協働的な学び」の充実を通して～



秋田県立栗田支援学校

目 次

◇はじめに	校 長 佐 藤 博 司	
◇全校研究	-----	1
◇小学部研究	-----	9
◇中学部研究	-----	23
◇高等部 普通科研究	-----	37
◇高等部 総合サービス科研究	-----	50
◇寄宿舎研究	-----	64
◇資料 研究のあゆみ	-----	70
◇おわりに	副校長 諸 岡 美 佳	

はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、ここ数年は学校における教育活動も様々な制限があるなど、教育環境への影響も大きくありました。こうした中、学校は、地域の感染状況を踏まえ、学習活動を工夫しながら、可能な限り教育活動を継続し、子どもたちの学びを保証するように努めてまいりました。少しずつではありますが、以前の生活にも戻りつつあり、子どもたちの元気な声が学校中に響き渡るのもあと少しと感じています。

そのような中、特別支援学校の学習指導要領については、小学部・中学部の全面実施に続き、今年度からは高等部においても年次進行で実施されています。より一層改定の基本的な考え方を踏まえて、確実に実施することが求められています。

また、令和3年1月には、中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』が出され、目指す共生社会の実現に向けて、地域で豊かに生きていく力を育成するために、思考力・判断力・表現力の学力の三要素を大切に、開かれた教育課程を具体化していく実践が必要とされています。

本校は開校以来、地域との関わりを大切にしており、学校経営の重点の一つに「地域と共に育つ地域学習の充実」を掲げ、地域の特性を生かした活動や地域に貢献する活動を推進してきました。全校としての取組が、小学部・中学部・高等部の一貫した教育課程の編成へとつながり地域で豊かに生きていくために必要とされる力が育まれていると考えています。

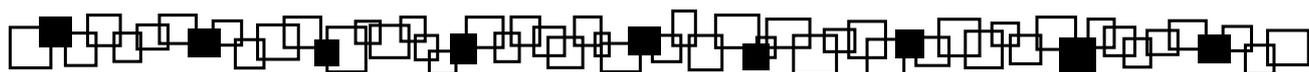
今年度、研究主題を新しく設定し、『自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり～「協働的な学び」の充実を通して～』と題して3年間の研究に取り組むこととしました。昨年度は各学部等の課題を解決し教育課程の改善につなぐ研究から、成果として学んだことを「活用・発揮」できる子どもたちの姿が見ることができました。そして今年度は、これまでの「学び」をさらに「学び続ける姿」に発展させるため、子供たちの自己肯定感を育み、他者との関係から自らの学びを確かなものにできる「協働的な学び」の充実を目指してきました。

今年度の研究実践を通して、研究テーマである「自ら学び続ける子ども」の実現のためには、協働的な学びが密接に関連していると感じています。各学部等において、研究主題を受けた研究テーマで授業実践等に取り組んできたことにより、児童生徒の変容をより具体的に見取ることができました。子どもたちの協働的な学びにより、より良い考えが生まれ、他者との関係性が変わるだけでなく、自らの学びを深める場面が多く見られました。今年度の成果と課題を整理し、次年度以降の研究に生かしてまいります。

本校の実践研究においてたくさんのご指導ご助言をいただきました秋田県教育庁特別支援教育課指導主事の先生方を始め、日頃から本校教育活動にご理解、ご協力を頂いている皆様方には深く感謝申し上げますと共に、この場を借りて御礼申し上げます。

校長 佐藤博司

全校研究



自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり〈1年次／3年〉 ～「協働的な学び」の充実を通して～

1 主題設定理由

(1) 学校の現状と児童生徒の実態から

本校の児童生徒数は246名(小学部63名、中学部75名、高等部108名)、職員数も150名を超え、秋田県内一の大規模校である。児童生徒の障害も多様化しており、生活全般に介助を要する児童生徒、情緒の安定やコミュニケーション、集団参加に課題がある児童生徒をはじめ、不適応行動や生徒指導上の問題を有する生徒も少なくない。

また、本校の特色ある教育活動の一つである「地域学習」では、地域行事の参加に加え、学校周辺の環境整備や店舗の清掃、地域の学校や施設との交流活動や共同活動など、日常の学習のねらいを達成するために、地域を学習の場や教材として活用する取組を展開している。しかし、学習のねらいをしっかりと整理できないまま地域活動を実施することだけが優先されてしまう状況や、近年の新型コロナウイルス感染症対策による活動の制限が見られてきたこともあり、従来の学習活動や学習展開が難しくなっているという現状がある。

(2) 昨年度までの研究から

令和3年度は「一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善～学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して～」をテーマに研究を進めた。学校教育目標と日々の授業とのつながりを意識し、教科横断的な視点で授業づくりができるよう「目指す姿と学習内容の一覧」と「単元配列表」、「単元計画案」の作成に取り組んだ。児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた授業づくりが実現し、教育課程全体で児童生徒を育てるという意識が高まり、教育課程を核とした教師同士の協働が図られた。

また、生活自立、職業自立に向けた授業づくりや寄宿舎での指導において、学校が有する人材や施設の有効活用、教職員間の連携を深めることで、卒業後の生活を視野に入れ、自分のできることを増やしていこうとする生徒の意欲や態度の育成につながった。

表1 昨年度までの研究の成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の多様な教育的にニーズに応じた授業づくりの実現と活用・発揮する力の育成 ○「事前授業検討」による学ぶ姿の共有と授業改善 ○校内人材等の活用・連携によるキャリア教育の充実と専門性の高い教育実践 	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育の充実を目指した学部間及び社会との接続の検討 ●より深い児童生徒理解に導くための授業研究の在り方の検討 ●児童生徒の資質・能力の育成に向けたマネジメントサイクルの構築とキャリア教育の視点に立った支援の充実

(3) 学習指導要領から

学習指導要領前文では、急激に社会が変化する中で育むべき資質・能力について、新学習指導要領の着実な実施とICTの活用を通し、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な

社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている」と記されている。また、実現すべき子どもの学びの姿に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善につなげていくことが必要とされている。このことから、児童生徒個々の教育的ニーズに応じた学びと、多様な他者と関わり合いながら学びを深める協働的な学びを充実させ、授業改善をしていくことが必要と考える。

以上のことから、昨年度の研究の成果である個別の教育的にニーズに応じた授業づくりの継続を図りつつ、児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、多様な他者と協働する「協働的な学び」の充実を図ることが必要と考え、本研究主題を「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり～「協働的な学び」の充実を通して～」とした。

2 研究の目的

- ・多様な他者との関わりの中で、よりよい考えを生み出したり、よりよい自分の在り方を考えたりする「自ら学び続ける児童生徒」の育成を図る
- ・学校全体のキャリア教育の視点から、各学部の指導内容のつながりを確認し、小学部・中学部・高等部を通して系統的で発展的な学びを積み重ねる。
- ・本校の地域学習の成果や課題を踏まえ、学校内外の資源を活用した協働的な学びの充実を図る

3 研究仮説

キャリア教育の視点に立った系統的で発展的な学びの積み重ねと、地域を含めた学校内外の資源を活用した協働的な学びの充実を通して、自ら学び続ける児童生徒の育成が図られるであろう。

4 研究の内容と方法（1年次）

（1）資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と児童生徒の姿を通じた評価・改善

- ・令和3年度の成果の一つである「育成を目指す資質・能力と各教科等の目標や学習内容の一覧（以下「目指す姿と学習内容の一覧」と記載）の作成と、それを活用した学期ごとの評価・改善

（2）「キャリア教育で育成したい資質・能力」の視点から学年間・学部間の指導内容のつながりの確認

- ・キャリア教育の視点で「目指す姿」や「指導内容」の学部間のつながりについて、共有するための全校縦割りグループでの話合いの実施

（3）協働的な学びの充実に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善

- ・各学部の授業づくりにおいて、「協働的な学び」についての職員間の意識の共有と、「協働的な学び」の充実に向けた単元計画や学習活動の工夫と改善

5 研究の実際

(1) 「目指す姿」の明確化と定期的な評価・改善を行う学年会

昨年度の成果を受け、「学校教育目標」、「学部目標」を各学年の児童生徒の目指す姿として具体化し共有した。さらに、各教科等で学ぶ内容や育成される資質・能力、学習活動との関連を学年職員で確認し、年間指導計画の作成に役立てた。(図1) また今年度は、具体的な児童生徒の姿を通して各学年の「育成を目指す資質・能力」について、具体的な評価場面や評価規準を設定して、夏季休業中、冬季休業中、年度末と年3回の学年会を実施し、定期的に評価・改善を図った。(図2)

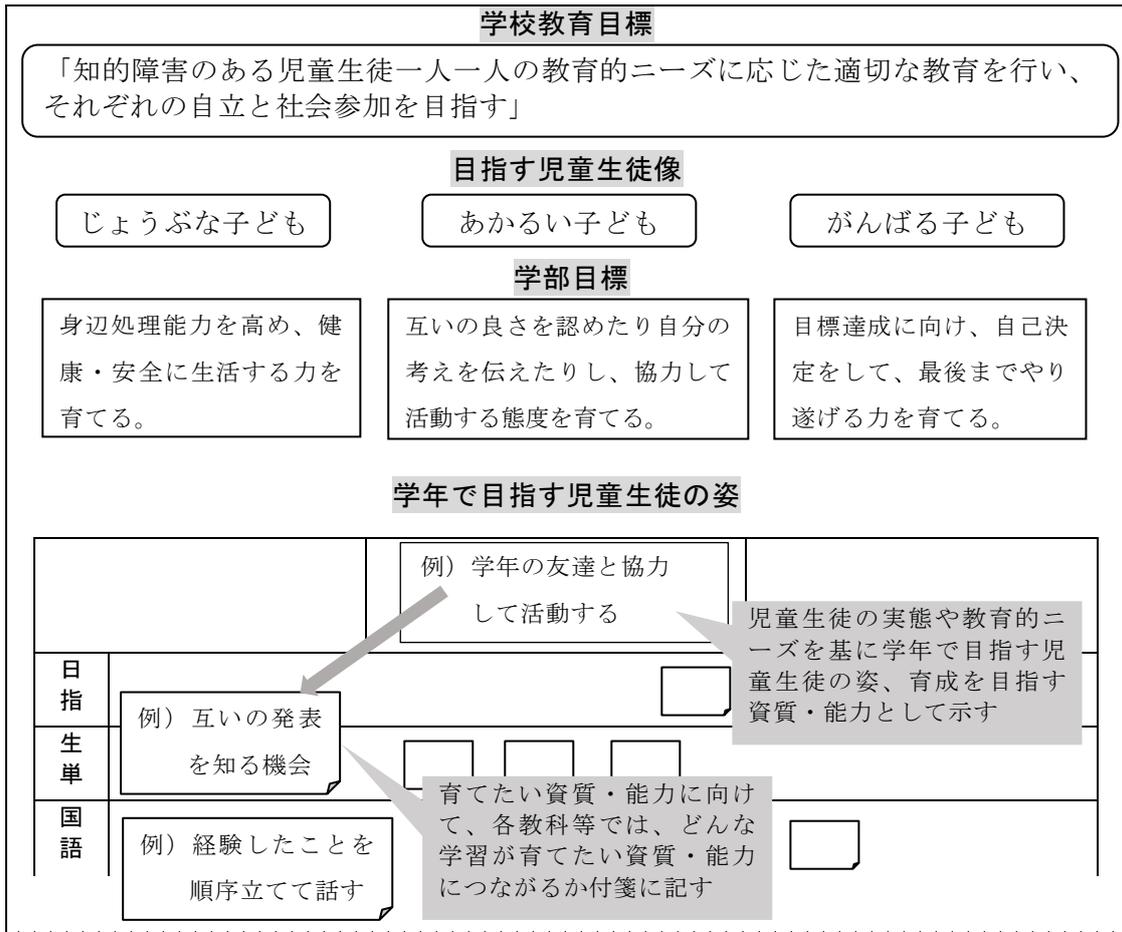


図1 「目指す姿と各教科の目標と学習内容の一覧」(中学部の一例)

学部目標	学年で育てたい資質・能力	学期の評価
		評価基準・評価場面

図2 学年で育てたい資質・能力 評価枠

(2) キャリア教育の視点で学部間をつなぐ確認する全校研究会

全校縦割りグループでの話し合いを3回実施した。学校教育目標とキャリア教育とのつながりを確認する中で、学部間で共通している「育成を目指す資質・能力」や、それに向けて各学年でどんなことに取り組んでいるのかを共有した。

学部学年	具体的な取組	共通する言葉やキーワード
総サ3		
総サ2		
小2		
小1		
共通する力		

図4 全校研究会の話し合いの項目

(3) 各学部の授業研究会

学部内授業研究会は、昨年度同様、事前授業検討、提示授業の参観、授業協議で構成した。小・中学部では、事前授業検討に授業シミュレーションも加えることで、学部職員全体で授業について検討する機会を多く設けた。授業協議では、「学ぶ姿に着目した授業研究」に重点を置き、「期待する姿」を基に、児童生徒の発言や行動から、どんな学びをしていたのかを丁寧に読み取ることができた。

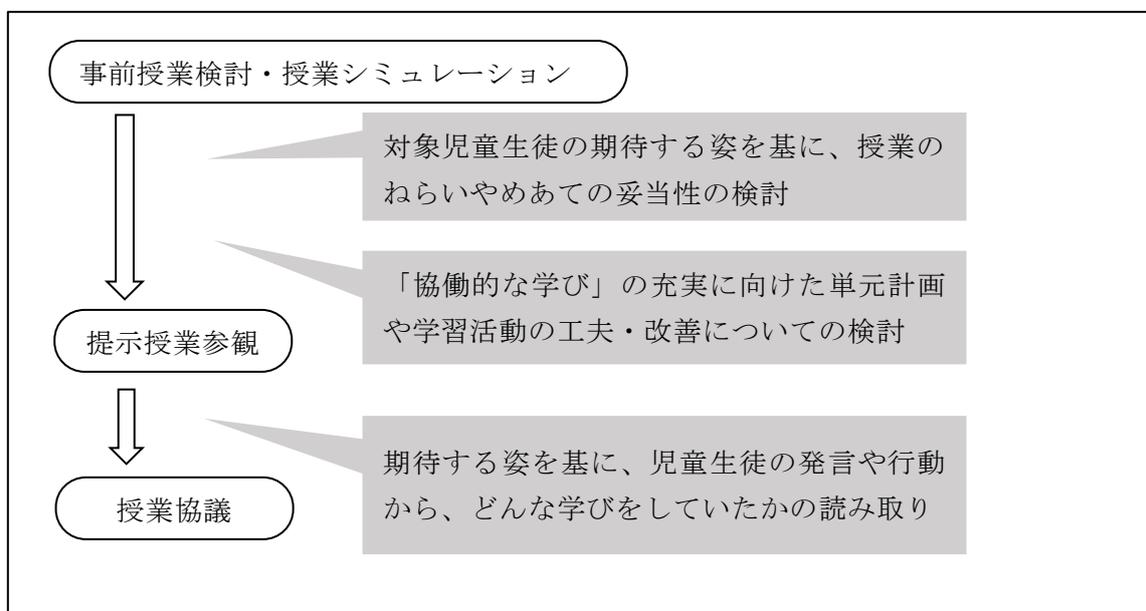


図5 各学部の授業研究会の流れ

(4) 研究の日程

月	学部研究		全校の研究会 (研究全体会、全校研究会)
	学部研究日で実施	学年会などで実施	
4	27日(水) ○「育成を目指す資質・能力と各教科等の目標や学習内容一覧」作成 →個指、年計へ	研究部と学年で設定 ○単元検討会 学年職員+主事+研究部員+専門監	20日(水) ○研究全体会 ・研究の方向性の確認
5	27日(金) ○今年度の学部での取組について説明 ・研究対象授業について ・授業研究会の提案授業 ・研究対象児童生徒の設定	16日(月) ○各教科等の年間指導計画の目標や学習内容を関連付けた単元配列の検討 ・単元配列表 ・児童生徒の評価規準や評価場面の確認	
6	22日(水) ○研究対象授業について各学年の取組の報告と検討 ・学習目標や学習内容 ・学習活動 ・学習グループ		
7		25日(月) ○1学期の評価と2学期の目標 ・学年児童生徒の変容 ・評価規準や評価場面の確認	1日(金) ○全校授業研究会 ・キャリア教育の視点から各学部の単元配列表を見合う
8	3日(水) ○学部の研究テーマに沿った取組 ・協働的な学びの捉え ・研究テーマに沿った授業づくり		24日(水) ○研究全体会 ・各学部の研究経過報告
9	20日(水) ○学部の研究テーマに ・協働的な学びの捉え ・研究テーマに沿った授業づくり ・対象児童生徒の変容		2日(金) ○全校授業研究会 ・キャリア教育の視点から、「キャリア教育で育成したい資質・能力」の確認
10			17日(月) ○全校授業研究会 ・キャリア教育の視点から、「キャリア教育で育成したい資質・能力」の確認
11	18日(金) ○学部の研究テーマに ・協働的な学びの捉え ・研究テーマに沿った授業づくり ・対象児童生徒の変容		
12	20日(火) ○学部の研究テーマに ・協働的な学びの捉え ・研究テーマに沿った授業づくり ・対象児童生徒の変容 ・今年度の学部の研究成果と課題の検討		
1 ・ 2	1月25日(水) ○今年度の学部の研究成果と課題の確認	1月11日(水) ○2学期の評価と3学期の目標 ・学年生徒の変容 (児童生徒の自己評価含む)	
			2月17日(金) ○研究全体会 ・全校研究及び学部研究の1年次の報告
		3月中 ○「育成を目指す資質・能力」の評価と次年度への引継事項確認	

6 まとめ（成果と今後に向けて）

（1）成果

①学部間・学年間の「目指す姿」のつながりの明確化

昨年度の成果を継続し、学年の教師全員で共有した各学年の児童生徒の目指す姿を基に、全校研究会を通して学部間で共通する力について導き出した。（表6）

表6 目指す児童生徒像と学部間で共通する力

目指す児童生徒像		
じょうぶな子ども	あかるい子ども	がんばる子ども
学部間で共通する力（縦割りの話合いで導き出したこと）		
自分のことに自分で取り組む （体の使い方、身辺処理の技能） ↓ 望ましい生活習慣や安全な行動の 理解 （基本的な生活習慣、健康管理、安全な行動） ↓ 自分の状態を理解して、自分を 律して行動する気持ちや体力	自分の気持ちを知る、表す、伝える （快・不快、好き・嫌い、得意・不得意） ↓ 様々な集団の中での適切な関わり （気持ちのやりとり、挨拶、依頼や相談など） ↓ お互いを認め合い活動する力	自分で選択する （自己選択） ↓ 目的や目標をもって行動する （自己決定） ↓ 目的や目標に向かい考えながら 行動する （工夫したり、試行錯誤したり） ↓ 最後までやり遂げる力
各学部目標		
小学部		
様々な体の動きの獲得や体力の向上を目指し、基本的な身辺処理能力や健康的に生活する力を育てる。	自分の意志や考えを伝えようとする意欲および技能を育て、他の人と関わりながら活動する態度を養う	興味・関心及び見通しをもって学習し、夢中になって活動したり、自分で考えて選択・実行したりする力を育てる
中学部		
身辺処理能力を高め、健康・安全に生活する力を育てる。	互いのよさを認めたり自分の考えを伝えたりし、協力して活動する態度を育てる。	目標達成に向け、自己決定をして、最後までやり遂げる力を育てる。
高等部		
健康に生活する力を最後まで根気強くやり遂げる力を培い、働く体力を高める。	互いのよさを認め合い、協力しながら活動する態度を育てる	主体的に考え判断して行動し、自分の思いや考えを相手に伝える力を育てる

②児童生徒の目指す姿を見据えた教育課程を支えるマネジメントサイクルの構築

全校職員で学部間の児童生徒を見通す中で、授業づくりの中で大切にしてきた児童生徒の「思いの変化」や「内面の育ち」を複数の目で丁寧に見取ることの大切さを改めて実感し、自分の担当学年の目指す姿について再考し、確認する機会となった。全校職員のアンケートでは、目指す姿が明確になることで、年間指導計画や個別指導計画の作成に役立てることができたという意見が多かった。この成果を研究だけの取組で終わらせるのではなく、教務部と連携して教育資料作成スケジュールに組み込み、年間の定期的な学年会の実施につなげていくこととした。このことから、学校教育目標、学部目標を根拠とした個々の児童生徒の目指す姿の設定や、学校教育目標と日々の授業とのつながりを明確化していくことができ、児童生徒の目指す姿を見据えた教育課程を支える仕組みが整った。

③自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの整理

今年度は、多様な他者と協働する「協働的な学び」の充実を図ることが必要と考え、各学部の授業づくりを通して、単元計画や学習活動の工夫・改善に取り組んできた。各学部の実践から、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりについて、以下に示す項目をポイントとしてまとめることができた。

1) 児童生徒一人一人が自ら活動したり、考えたりすることができる状況づくり

小学部では、「自分で」というキーワードで、中学部では既習事項の活用や自分の意見を整理するための手立て、高等部では生徒の興味関心に即した自分の役割の明確化、個々の生徒の知識・技術の定着など、児童生徒一人一人が自ら活動したり、考えたりすることができる状況づくりがなされていた。これまでの研究の成果である教科横断的な視点をもった授業づくりが、既習事項の活用につながっていたり、ICTの活用の推進が個々の学びやすさにつながっていたりなど、これまでの本校の実践の積み重ねが授業づくりを支えていると考える。

2) 自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫

協働的な学びのために、今年度はどの学部においても、学級の仲間や学部の仲間など校内の児童生徒同士で、どう協働性を高めていくかを中心に取り組んできた。小学部では、それぞれがしっかり見通しのもてる朝の活動を取り上げたり、寄宿舎では同じ目標をもつ生徒同士が教え合う場面を設定したりした。このことから、共通の目標やテーマに沿って、それぞれの活動が同じ学びの方向に向かっていることが大切なのではないかと考える。そのためには、自然な協働性を生むテーマの設定や、学習集団のグルーピングの工夫が必要である。また、各学部の成果である教える側の学びの定着やグループ学習後の個別の振り返り活動などからも分かるように、個々の学びを協働的な活動の中で発揮し、そこで得られた学びを個々の学びに生かしていくという「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」も大切な要素であると実感できた。

3) 多様な場や人材の活用

学級や学部の児童生徒同士での学び合いの中で、中学部では寄宿舎職員をアドバイザーとして迎えたり、寄宿舎では地域のクリーニング店の方からの指導を受けたり、総合サービス科では、本校の食堂の清掃を担ったりなど、学部外・学校外の人材や場の活用があった。これまで児童生徒同士で学んできたことについて、新たな視点からの助言や新たな場で発揮する機会を得ること

で、児童生徒自身が新しい課題や発見に気付くことへつながった。本研究の目的である「多様な他者との関わりの中で、よりよい考えを生み出したり、よりよい自分の在り方を考えたりする」ためには、協働する相手の広がりも大切であり、本校の特色ある教育活動の一つ「地域学習」が担う役割についても、改めて考える機会が必要である。

(2) 今後に向けて

①各学部の授業実践と「自ら学び続ける子ども」の具体的な姿とのつながり

全校研究会での全校職員の話合いを基に、キャリア教育の視点に立った本校児童生徒の目指す姿のつながり、学部間で共通する力が明確になった。(表6)この共通する力が、研究主題である「自ら学び続ける子ども」を、本校の児童生徒の姿として具現化する重要なキーワードであるのではないかと考える。来年度はこのキーワードを基に、「自ら学び続ける子ども」を具体的な児童生徒の姿として全校に提示し、今年度の成果である授業づくりのポイントを取り入れた実践を積み重ねていきたい。

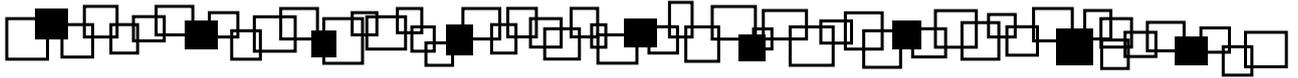
②教師同士が互いに学び合える授業研究及び授業研修の在り方の検討

これまでの研究の取組により「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)、「何を学ぶか」(教科横断的な授業づくりと学部間の目指す姿のつながり)、「どのように学ぶか」(協働的な学び)という学びのサイクルを学校全体で深めることができてきた。また「学ぶ姿に着目した授業研究」から、多様な児童生徒の学びに向き合う教師の姿勢が高まってきているとも感じている。しかし、児童生徒の思考の流れや学びの過程を読み取るためには、子どもの学びを意味付け、価値付けていく、より「質的な評価」が必要であり、児童生徒一人一人の発達をどのように支援するかは教職員全体がチームとして取り組んでいくべき課題である。教師同士が互いに「対話」しながら授業研究を進めていく環境を整えるために、既存の授業研修の在り方を活用し、学部の実状に応じたより柔軟な授業研究の進め方を提案していきたい。

<参考文献>

- 1 文部科学省(2017)「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」
- 2 文部科学省中央審議会(2022)「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～答申」中央審議会
- 3 菊地一文(2021)「知的障害教育における学びをつなぐキャリアデザイン-本人の思いや願いを踏まえた深い学びの実現に向けて-」ジアース教育新社
- 4 新井英靖(2022)「知的障害特別支援学校『各教科』の授業改善 学習指導案実例&授業改善に向けた提言」
- 5 名古屋恒彦(2022)「知的障害教育における『個別最適な学び』と『協働的な学び』」

小学部研究



<小学部 研究テーマ>

「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する児童の育成 ～日常生活の指導における個別最適な学びと協働的な学びの視点から～

1 学部研究テーマ設定理由

小学部の児童の実態が多様化している。コミュニケーション面では、教師との関わりが主であるが、友達のまねをしたり、友達の様子を気に掛けたりする姿も見られる。日常生活の面では、基本的な生活習慣においても教師の部分的な言葉掛けの支援を要する児童が多いが、毎日の繰り返しの活動で見通しをもつと、一人で活動したり、自分の役割を果たそうとする様子も見られたりする。

小学部では、キャリア教育の充実を目指して、自分から挨拶や返事をする、「コミュニケーション力の定着・習慣化の徹底」、「自分のことは自分で」を合言葉に「基本的な生活習慣の徹底」、「誰かのために役立つ経験」を積み重ねる機会の設定を重点項目に挙げている。この重点項目を達成するために、毎日行われる「日常生活の指導」を取り上げ、次の3つのポイントで授業の見直し、検討、評価を積み重ね充実させていくことが必要と考えた。

「自分で」・・・その活動が児童の実態や課題に適しているのか、自分でできるようになるための支援になっているのかどうか、将来の自立に向けてどのような力に結びつくのか、そのための適切な支援の方法など個別最適な学びの視点から整理する。

「自分たちで」・・・友達との関わりの中で、児童同士が教え合う、友達を見て気付く、まねる、誘いを受ける等の姿がより多く見られるような場面の設定をする。そして児童同士の関わりを増やすためにどのようにしていくのか協働的な学びの視点から整理していく。

「誰かのために」・・・児童が果たした役割が誰かのために知っていることを知ったり、気付いたりするための支援や「誰かのために」を意識して役割を果たそうとする気持ちを育てる支援と活動内容を検討していく。

このような実践を繰り返すことで、自分のことは自分で最後までやる、児童同士で協力したり、助け合ったりしながら活動を進めていく、人の役に立つ喜びややりがいのある役割を積み重ねることができ、その達成感や意欲が、将来の自分から学び続ける姿につながると考え、本テーマを設定した。

2 研究仮説

日常生活の指導（朝の活動）を通して、「自分で」「自分たちで」「誰かのために」の3つのポイントから授業の検討、評価、改善を積み重ね、児童の学習内容、支援方法を整理することで、自分のことは最後まで自分で取り組んだり、児童同士で協力したり助け合ったり、誰かのために役立つために役割を果たそうとする児童が育つ。その達成感や意欲が育ち、将来、自分で学び続ける子どもの姿につながるのではないかと考えられる。

3 取組の実際

研究の流れは、図1のように授業実践や研究会を基に、最終的に教師の支援を少なくし、児童が「自分で」「自分たちで」朝の活動を進めていけるように検討し、授業改善を繰り返していく(図1)。

研究の実際

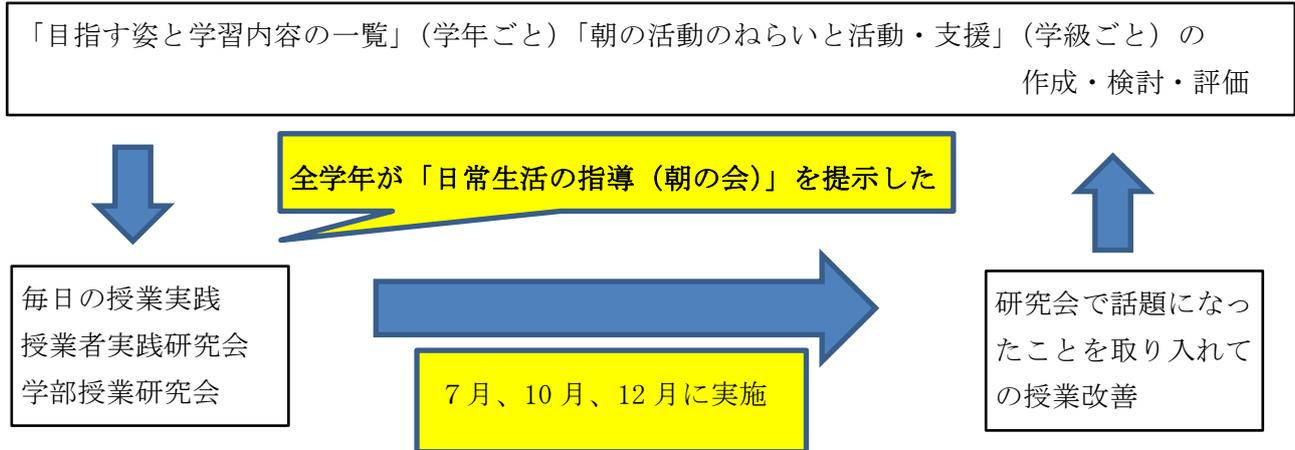


図1 研究の実際

(1) 資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と児童の姿を通した目指す資質・能力の評価・改善

学部目標を基に設定した「学年で育てたい力」を、年間指導計画や日常生活の指導・遊びの指導・生活単元学習の中心単元に盛り込むために、「目指す姿と学習内容の一覧」を作成し、学年で育てたい資質・能力、各教科等ではどのような力を育てたいのかの確認を行った。

その後、学年ごとに単元配列表を作成し、「学年で育てたい力」を身に付けるためにどのような授業を行うかのアイデアを出した(写真1)。特に、日常生活の指導では、日々の指導の中でどのような内容をどのような方法で指導するのかを確認した。



写真1 話合いの様子

(2) 「キャリア教育で育成したい資質・能力」の視点から学年間の指導内容のつながりの確認

①学級ごとに日常生活の指導についての児童の目標と学習内容と支援の確認

小学部で考えるキャリア教育の項目から設定した「コミュニケーションの充実」「基本的な生活習慣の徹底」「誰かのために役立つ経験」を3つのポイントに、児童個人のねらいを達成するためにどのような学習内容と支援を行うのかを「朝の活動のねらいと活動・支援」のシート(資料1)を使用し作成した。特に学習内容と支援を書き込む部分には、「自分で」「自分たちで」の視点で考えるようにした。

次に、学部の授業研究会を行った後に話題になったこと、他の学年で行っている自分たちの学年に取り入れたい学習内容、支援を取り入れて見直しをし、朝の活動を充実させていった。特に、「自分で」「自分たちで」の視点で考えたことで、自分で分かる教材の工夫、友達や担当外の教師との関わりを増やすなどの改善が行われた。

②学年間の指導内容のつながりの確認

授業者実践研究会を利用しながら、日常生活の指導「朝の活動・朝の会」の授業で各学年1授業を提示した。学級ごとに「朝の活動のねらいと活動・支援」を検討し、児童個々の学習内容を

充実させ、それを達成するための支援を考えて授業提示を行った。全学年の朝の活動の様子を知ることによって、学年で取り入れなくてはならない課題や次に目指す課題が明確になり、活動に取り入れていった。また、同じねらいや活動内容でも児童の実態や学年に応じたねらいや支援方法があることが明確になってきた。

(3) 協働的な学びの実現に向けた学習活動の工夫・改善

授業研究会では、次の協議内容で行った。

協議1 「自分で」「自分たちで」「誰かのために役立つ経験」の3つの視点から、個別の学習内容について、支援について。

協議2 協議1を踏まえ、3つの視点から学年で参考にしたい学習内容・支援や授業の改善点について話し合う。

①第1回学部内授業研究会

1) 提示授業・協議内容

第2学年 「日常生活の指導（朝の活動・朝の会）」 7月 6日(水) 1校時

朝の活動では身の周りのことや係活動に毎日取り組むことで、基本的な生活習慣を身に付け、一人でできることが徐々に増えてきている。また朝の会は一日の流れに見通しをもち、自分の役割を果たそうとする気持ちが高まってきている。さらに少ない支援や一人で係活動に取り組めるような場面設定を検討していきたい。

成果：教師の言葉掛けが少なくても、自分の活動（着替え、係など）を進めている。

活動に対する具体的な称賛の場面がある。

課題：児童同士で名前カードを受け渡して呼名する活動だったが、教師がはっきりと名前を呼び、返事をする練習がより必要である。

第3学年 日常生活の指導「朝の活動・朝の会」 6月29日(水) 1校時

日常生活において基本的な生活習慣を習得しながら一人でできることを増やすこと、自分の気持ちや要求を伝えるためのよりよい手段を身に付けること、友達と一緒に体験的な学習活動を積み重ね、満足感や達成感を味わうとともに、新しいことに挑戦する姿を育てていきたい。

成果：朝の会は児童主導となり、自分たちで進んでいた。

課題：友達を見て一緒に行く、まねして行くことを意識して活動を設定して見てはどうか。

例えば、児童同士で一緒に何かをやる活動（同じ係など）を取り入れるなど。

第5学年 日常生活の指導「朝の活動・朝の会」 6月22日(水) 1校時

基本的な生活習慣を身に付け一人でできることを増やすこと、自分の役割が分かり進んで行くこと、教師や友達との適切な関わり方を身に付けることに取り組んだ。その成果や取り組みを引き継ぎ、今年度は決まった活動や自分の役割を自らやり遂げる力の育成を目指したい。

成果：役割をもって一人で行っていた。欠席の友達の係を進んで行ったり、流れを忘れてしまった友達に教えてあげたりするなど、協力場面が見られた。

課題：「誰かのために」「役立っている」が児童に分かる言葉掛けにしてはどうか。例えば「みんな助かっているよ」「ありがとう」など。

2) 授業協議と指導助言

【協議の概要】

低学年は「自分で」の比重が高く、高学年になると「自分たちで」の比重が高くなる。低学年でしっかり自分の係活動などを行うことが、「誰かのために役立つ経験」につながる。また、高学年には、「ありがとう」「〇〇のため」と教師が言葉を掛けることも必要。そのことを通して、児童の意識も変わってくる。

【指導助言：伊藤教頭、黒澤中学部主事、工藤高等部総合サービス科主任】

支援を減らすことについては、「この支援についていつまで行うのか」「どこでどんなタイミングで支援を減らすのか」の視点を持つ。また、スキルだけでなく、なんのためになんの力を付けさせたいのかをより意識するとステップアップにつながる。

【研究会後の授業改善】

研究会で話題になったことから、低学年では自分のことを自分で行うための支援、中学年では友達と関わりながら活動するための支援、高学年では「誰かのために役立つ経験」について、再度検討し、2学期に向けて改善を図った。

②第2回小学部授業研究会

1) 提示授業・協議内容

第1学年 日常生活の指導「朝の活動・朝の会」 9月28日(水) 1校時

「できた」「褒められた」「うれしい」など達成感や満足感を味わい積み重ねながら、「自分で・自分から」「友達と一緒に」「友達(誰か)のために」という気持ちを少しずつ育てていきたい。

成果：分かりやすい言葉遣いで、言葉が精選されていた(朝の会の先生の話、指示の仕方)。

即時評価が分かりやすかった

課題：視覚支援の効果的な使い方を今後も考えていく。

第6学年 日常生活の指導「朝の活動・朝の会」 9月21日(水) 1校時

朝の会では、できるだけ教師の支援を控え、自分たちで友達と関わりながら進めていくようにしている。教師の言葉掛けをきっかけに言葉を発したり、活動したりすることをできるだけ減らしていくことを目指している。

成果：学部のために一人でやっている係活動がよかった。

人のために役立っているという達成感が見られた。

課題：教師からだけでなく、友達同士で「ありがとう」と感謝される場面があるとよい。

2) 授業協議と指導助言

【協議の概要】

自分で活動するために、児童の実態に合わせて、「実物で示す」「絵カード」「文字カード」などを準備することで、自分で出来ることが増えていく。そこを丁寧に行うことが大切。それをいつまで使うのかなど、児童の実態に合わせて考えていかなければならない。また、友達同士の関わりの中でお互いに役に立っていることが分かるのではないかな。

【指導助言：伊藤潤教頭、沖口ICT活用推進リーダー】

T2やT3の位置取りや支援の量が自分たちで働く子どもたちを育てる。子どもの変化への対

応も大切。ずっと同じ働き掛けでなく、変化させていってほしい。

- ・「自分で」・・・次のステップに移る兆しの見定めをT T間で共有すること。
- ・「自分たちで」・・・協力のために、必然性の場面設定。
- ・「誰かのために」・・・教師の承認する働きかけを子供に分かりやすく→次の行動につながる。

【研究会後の授業改善】

教師の支援や指示を少なくして朝の活動を行うために、児童が自分で気付いて活動できるための教材の工夫を行う。また、他学年の実践を参考にしながら、自分たちの朝の活動に取り入れて実践した。

③第3回学部内授業研究会

1) 提示授業

第4学年 日常生活の指導「朝の活動・朝の会」 12月6日(水) 1校時

本授業では、朝の会を通して

- ・児童一人一人が活動に見通しをもち、一人でまたはできるだけ少ない支援で活動する
- ・自分の意思を身振りや絵カード、言葉などそれぞれに合った方法で伝える
- ・友達と一緒に活動する

ことを身に付けさせたいと考え、指導した。自分から気付いて行動したり、みんなの役に立ち、感謝されることのうれしさを感じたりしてほしいと思っている。

2) 事前授業検討・シミュレーション

以下のことについて意見を出し合い、改善を行った。

○自分から発信するために

- ・言葉のカード「いってきます」等のカードを入りに貼る。
- ・カードは必要な時に使えるようにシンプルに。声の小さい児童は教師の近くで話すでもよいのではないか。

○報告について誰に伝えたらよいのか

- ・T1の教師に伝え、T2、T3は指示を出さずに静かに称賛し、児童の見本になるようにする役割分担があればよい。
- ・逆にカードや手順が多すぎる。報告もするため手続きが多いので整理する。

○朝の活動でスムーズに気持ちを持続させるために

- ・朝の活動の係の量が多いのかどうか検討する。
- ・個の活動をしっかりやらせたいのか、集団で行動することをやってほしいのか、ねらいをしっかりと決める。

この後、学級で話し合い、教材の工夫、教師の動きの検討をし、T1が中心に動き、T2、T3は静かに見守ることとした。また、朝の会はT1が児童を中心にしながら進めることとした。

3) 授業協議と指導助言

【協議概要】

活動を一人一人が理解していて、教師の見守りの姿勢と少ない支援で活動が進められていたこ



写真2 教室入り口のカード

と、モップ掛けの活動では、3人の児童で声を掛け合っていることがよかったという意見があった。また、各係で活動したことを朝の会で友達に伝えることで、友達に役立つ内容になっていることがよかった。今後、児童の現状を踏まえて、活動内容、支援の量をステップアップしていく必要があるのではないか。



写真3 モップ掛けの様子

【指導助言：伊藤教頭、石垣教育専門監、齊藤小学部主事】

子どもの自主的な取り組み姿勢を大事にし、教師の「見守る姿勢」「少ない支援」の対応がよかった。児童の「仲間ときちんと向かい合う姿勢」が身についていた。また、朝の会の教師を減らしたことで、児童が落ち着いて参加する場面がよかった。

【研究会後の授業改善】

朝の会で、教師の支援を少なくしてT1を中心に朝の会を進めてみた。各学級で実践してみると、児童が教師の様子を注目するようになった。また、教師がいなくても自分で活動しようとする様子や教師のまねをして友達と関わる様子が見られた。

4 まとめ

(1) 協働的な学びの充実に向けて

「自分で」「自分たちで」を意識して教師がいなくてもできるように教材と環境を整えて授業を行ってきた。児童は、自分と教師の関係から自分と友達の間を意識するようになり、周囲を意識しながら、友達から学んだり、自分たちで教え合ったりしながら活動していた。このような姿が積み重なることで、いろいろな人と関わり、自分で考えて行動することが増えていった。また、「みんなのために」「誰かのために」という意識も育ちつつある。以下に朝の活動の中で有効だった指導について挙げる。

①「自分で」個別最適化の視点から

カードやICT機器等、それぞれの児童の実態に応じた教材の工夫が行われた。そして、研究会の後、各学年の実践を参考にしながら内容や教材を取り入れていったことで、学部全体で教材が充実していった。

小学部の全学年の朝の会を検討したことで、児童一人一人の指導内容も充実した。また、同じ学習内容でも、学年が上がるにつれて児童の狙いをステップアップさせたり、少しずつ支援を減らしたりすることが大切であることが分かった。



写真4 アプリを使った係活動

②「自分たちで」協働的な学びの視点から

児童同士が、友達を意識したり、教え合ったりするために、関わり合ってほしい児童同士の座席を隣同士にする、係活動でペアを組み一緒に活動させるなどの関わる機会を設定した。そうすることで、教師の支援が少なくなっても自分たちで朝の活動を進めたり、教師の代わりに友達に教えたりする様子が見られた。

③「誰かのために」キャリア教育の視点から

低学年の段階では、「誰かのために」活動をするのは難しいが、その素地となる経験が大切であることを学部で共通理解した。そのために、自分でできる係活動を増やしていきながら、できたときは教師にできたことを褒められてうれしい、感謝の気持ちを伝えられて達成感を感じるなどの経験を積み重ねて指導を行っていく。高学年においても、「誰かのために」が意識できるような係活動を設定し、みんなのためになっていることを感じるようにする。また、友達がやっている仕事を自分もやってみたいと思うような場面設定をしていくことが大切である。



写真5 ふきん配り

(2) 児童の変容

一人でできることが増え、自信が付くと友達のやっていることにも興味をもつようになった。そして、友達と一緒に活動したり、自分で考えて友達のまねをしながら課題解決したりする様子が見られた。また、教師の指示、支援を少なくすると児童が教師のまねをして友達に教えるなどの場面が増えた。そして、今まで教師の言葉掛けを待っていた児童も周囲の友達の様子をよく見るようになり、自分から活動に取り組む様子が見られた。以下に、児童のエピソードを挙げる。



写真6 友達と一緒にたより係

- ・友達の行っていた係活動の様子を見て覚え、自分が係になったときに一人でスムーズに行った。
- ・教師の指示待ちだった児童が、教師の代わりに友達に注意をするなど、友達とやり取りをしながら朝の会を進めるようになった。
- ・友達に無関心だった児童が、友達と一緒に活動し、友達を待ったり、「行くよ」と声を掛けたりしていた。
- ・モップ掛けの活動で、児童同士が合図を出し、友達とペースを合わせて取り組んだ。
- ・友達同士の挨拶が増えた。対教師だったものが子ども同士の挨拶が多く見られるようになった。
- ・一人が朝の会の準備（片付けをして椅子を前に並べる）を始めると、他の子どもも倣って始める様子が見られた。

(3) 次年度に向けて

①「自分で」「自分たちで」を意識した授業づくりの継続

「自分で」「自分たちで」を意識して教師の少ない支援でできるように教材と環境を整えて日常生活の指導（朝の会）を行ってきた。児童は、自分と教師の関係から友達を意識するようになり、友達から学んだり、自分たちで教え合ったりしながら活動していた。このような姿が積み重ねることで、いろいろな人と関わり、自分で考えて行動することが増えていくのではないかと考える。今後、生活単元学習や音楽、体育等の教科の指導にも「自分で」「自分たちで」を意識した授業づくりを行うことで、様々な場面でも自分で考えて行動する、自分のことは最後までや

る、友達と協力したり、助け合ったりしながら活動する児童に育つのではないかと考える。

②個々の児童の学びの質を高め、人との関わりを広げていけるような学習内容の計画と支援の設定

個々の児童のねらいに応じた課題の準備と適切な支援を行うことで、児童が「できた」という達成感を感じ、自信を付けてきた。今後も、個々のねらいを教師が十分に吟味し、適切な課題と支援を考えていきたい。また、今年度の「日常生活の指導（朝の活動）」で積み重ねてきた教師と友達との関わりを基に、学年の友達、他学年の友達や教師、他学部などと広がっていくように学習内容の計画と支援を考えていきたい。

③「誰かのために」役立とうとする意識の広がり

低学年の係活動では教師から「ありがとう」と感謝されることが、自分でできたという達成感につながり、教師の役に立っているという気持ちが育ってきていた。また、高学年は、友達から「ありがとう」と言われることで「みんなのために」や「誰かのために役立っている」という意識も育ちつつある。このように今後、学級の友達から、学年の友達のために、小学部の友達のために、家族のためにと意識する相手が広がっていくように学習活動を考えていきたい。このような積み重ねが、誰かのために役立とうとする意識をもたせ、中学部へ向けての力となっていくと考える。

「朝の活動」のねらいと活動内容について 書き方例

朝の活動ねらいと活動について

児童名	コミュニケーションの定着・習慣化の徹底		基本的な生活習慣の定着の徹底		誰かのために役立つ経験	
	何をねらうのか	そのためにどんな活動・支援	何をねらうのか	そのためにどんな活動・支援	何をねらうのか	そのためにどんな活動・支援
	個々に付けた力	そのために何をするのか？ どのように指導するのか？ (協働的学びの観点も含めて)	個々に付けた力	そのために何をするのか？ どのように指導するのか？ (協働的学びの観点も含めて)	個々に付けた力	そのために何をするのか？ どのように指導するのか？ (協働的学びの観点も含めて)

「朝の活動」のねらいと活動内容について (4年1組で作成)

児童名	コミュニケーションの定着・習慣化の徹底		基本的な生活習慣の定着の徹底		誰かのために役立つ経験	
	何をねらうのか	そのためにどんな活動・支援	何をねらうのか	そのためにどんな活動	何をねらうのか	そのためにどんな活動
B	話し方、読み取り方(メモの取り方) 声量	栄養教諭に給食一品の材料を聞く機会を設定する。 「今日の勉強」係として、授業担当の教師に質問しに行き、メモをとる活動を設定する。	衣服の調整(半袖?長袖?どっち?)	着替え前に天気や気温について問い、どうすればよいかを一緒に考える。	友達に食材を伝える(「Aーそろなんだと困ってもらう」) 友達に分かりやすく伝える。 場所や持ち物等について、友達に知ってもらう。(友達が困らない)	朝の会で食材を発表する(写真を掲げる)機会を設定する。 メニューの写真を指さしながら、話すときよいことを提案する。 「今日の勉強」係として、朝の会で発表する機会を設定する。
E	あいさつ トイレの確実な伝え方 教師への話しかけ方 自分から「せ(て)んせ(て)い」と話し掛ける 返事(声を出して、手を挙げる)	教室の入り口で、立ち止まってあいさつするように促す。 一緒にあいさつする。 トイレの手話をして、トイレに行くことを伝える。 教室の入り口に行き先カードを貼り トイレに行くことを伝える。 「せ(て)んせ(て)い」の口形を見せる(パズルをもらう際、「先生」と話す機会を設定する。 友達が名前を読んだら起立して返事をするように言葉を掛ける。	下着の始末 正しい手の洗い方 手の拭き方 お尻を出さずにおしっこをする 衣服のたたみ方	シャツをズボンの中に入れるように指示する。 石けんを手にとったとき、泡立ててから水で流すように話す。 「そこで手を拭くよ」と繰り返し伝える。 小便器に立った時に言葉掛けをする。ズボンを下げすぎないように手を添える。 脱いだ服を広げて、両手で袖と端を重ねることを一緒に言い、徐々に支援を減らす。	「きれいになったよ」「ありがとう」と言われる経験 給食のメニューを友達に知ってもらう。	廊下の掃除、ゴミ捨てを当番として毎日行う機会を設定する。 「今日の給食」係として、メニューをなぞり書きし、メニューカードをボードに貼る活動を設定する。
C	大きな声で話す。	朝の例会(当番をする) 今日の日付を書いて、みんなに発表する。 栄養教諭に給食の材料(主に野菜)に	姿勢正しく座る	朝の会で「きをつけ」をしていずに座る。 姿勢が悪いときには、名前を呼んで、直すまで待つ。	みんなのために日付カードを貼る。	みんなのために日付カードを貼る。(カレンダーを見て、日付カードを書き、難しい日付の読み方も書いて貼る。)

小学部 4 年 日常生活の指導 学習指導案

日 時：令和 4 年 12 月 6 日（火）8：50～9：35
 場 所：小 4－1 教室
 児 童：男子 4 名、女子 3 名、計 7 名
 指導者：高久貴子（T 1）、渡部大樹（T 2）
 宮野佳代子（T 3）

1 題材名

朝の活動・朝の会

2 児童と題材

(1) 児童について

本学級は、男子 4 名、女子 3 名の計 7 名の学級である。身辺処理に関しては、排便のふき取りなど部分的な支援を要する児童がいる。言語理解に関しては、教師と言葉でやりとりを楽しんだり質問や依頼をしたりする児童、教師の簡単な指示が分かり、不明瞭であるが発声や絵カードで気持ちを伝えようとしたりする児童など様々である。朝の活動が終わった後の時間は、絵を描いたりパズルをしたり各々自分の好きなことをして過ごしていることが多い。

本学級の児童はこれまで、朝の活動や朝の会を通して、挨拶や返事、報告、身の回りの準備などができるようになってきた。手順表を個別に用意したり、毎日同じ流れで繰り返し行ったりすることで、見通しをもって取り組むことができるようになってきた。教室から出る際の「〇〇に行ってきます」「戻りました」などの報告も徐々に定着し、教師からの言葉掛けがなくてもできるようになってきた。

しかし、活動の途中で注意がそれてしまい、準備に時間が掛かったり、自分のやりたいことを優先してしまい途中で朝の活動への意欲をなくしてしまったりする児童もいる。また、朝の活動や係活動で困ったときに、上手く教師に支援を求められずに、その場で黙ってしまったり、言葉やカードで伝えずに教師の手を引っ張ったりする。

(2) 題材設定理由

本学級では、朝の活動や朝の会を通して①児童一人一人が活動に見通しをもち一人でまたはできるだけ少ない支援で活動する②自分の意思を身振りや絵カード、言葉などそれぞれに合った方法で伝える③友達と一緒に最後まで活動するということを身に付けてほしいと考える。

朝の活動では、朝の準備や着替え、係活動などの活動全体の流れが分かるように、活動の順番を表に表したのものや、一つ一つの活動が終わるたびに活動名を示したプレートを裏返すと「おわり」と書かれた絵が出てくるものなどを用いることで教師の支援がなくても活動に取り組めるようになる。また、児童に困った様子が見られたときに先回りして言葉を掛けることを控え、自分から発信するまで待つことで児童が自分から教師に相談や依頼ができるようになることを考えた。体育館掃除では、3人でお互いを意識して気持ちを合わせてモップを動かしたり、モップが上手く進まないときにどうしたらよいか考えたりすることで、3人で協力して、まっすぐモップ掛けができるようになる。

朝の会では、会の進行をめぐりカードを用いて毎回同じ流れで繰り返し行うことで、児童が見通しをもち安心した気持ちで進行できるようになる。また、発声が不明瞭な児童も、タブレットのボタンを押すと司会の言葉が流れるようにすることで、一人で進められるようになる。

また、学習係が集合場所や時刻、持ち物について調べたことをみんなに伝える機会をつくることで、みんなのために役立つ仕事だと意識できる。そして、みんなのために頑張ってくれたことに対して、他児にその頑張りを紹介したり、「ありがとう」の言葉を児童に伝えたりしていくことで、自己肯定感や達成感を感じられるようにし、働く喜びや意欲につなげていきたい。

以上のことから、児童ができることは自分で取り組み、自分の気持ちを伝えたり、みんなと協力して係活動や朝の会に参加したりする場面を多く設定できると考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

- ・自分の次の活動が分かり教師の言葉掛けがなくても活動できるように、ホワイトボードやめくりなど、それぞれに合った方法で活動の順番を示す。
- ・児童が困ったときに、自分から教師に依頼や相談ができるように、教師からの言葉掛けを減らし児童からの発信を待つ。
- ・発音が不明瞭な児童であっても自分の意思を伝えられるように、発声と同時に提示する写真や絵カードを準備する。
- ・児童が次の活動に気付いて進んで行動できたときは称賛する。
- ・児童の関わりを広げるために学年以外の教師とやりとりをする係活動を設定する。
- ・児童が誰かのために役に立っていることを意識できるような係活動を設定する。児童が自ら積極的に係活動に取り組んだときに、大いに称賛したり、周りの児童にその児童の頑張りを伝えたりする。

3 題材目標 知: 知識及び技能 思: 思考力・判断力・表現力等 学: 学びに向かう力・人間性等

- (1) 基本的な生活習慣を身に付け、一人のできることを増やす。・・・知
- (2) 文や言葉、身振りや絵カードなどで自分の意思を友達や教師に伝えようとする。・・・思
- (3) 活動に見通しをもち、自分の役割を最後まで果たそうとしている。・・・知 学

4 題材計画 ※別紙参照

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・挨拶や着替え、排せつ、係活動など、できることを一人で行う。	・身振りや言葉、絵カードなどで自分の意思を友達や教師に伝えている。	・活動に見通しをもち、学級の一員として最後まで活動に取り組もうとしている。 ・学級の一員であることに気付き、自分の役割が分かって友達と一緒に朝の会に参加する。

6 本時の計画 (200 時中の 130 時)

(1) 本時のねらい

- ①朝の準備や係活動を一人でまたは少ない支援で行う。
- ②文や言葉、身振りや絵カードで教師の援助を求めたり、自分の気持ちを伝えたりする。
- ③朝の活動に見通しをもち、自分から朝の準備や係活動に取り組み、友達と協力して朝の会を進める。

(2) 児童のねらいと手立て

No	氏名・性別	実態	個別のねらい	手立て
1	A (女)	・朝の準備や身の回りのことは一人で行うことができる。 ・活動の途中で、友達のことが気になり話し掛けたり、自分のやりたいことを優先してしまったりする。	・一人で、朝の準備や係活動を最後まで行う。	・朝の準備が全て終わってから、友達や教師と話すことが分かるようなイラストと手順表を準備する。 ・朝の準備を一人でできたときは大いに称賛する。
2	B (女)	・一人で朝の活動を進める。 ・着替えの際半袖か長袖かを迷い、教師に尋ねることがある。 ・発表で、自信がない場	・学習係として、メモをもとに自分で考えて丁寧な言葉で話す。	・自信をもって朝の会で発表することができるように、自分で練習して不安な場合は教師に「どうやって話せばいいですか」と聞きにく

		合もじもじしてしまうことがある。		るように伝える。
3	C (女)	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会の司会で、「これから」と「これで」を使い分けて話すことが難しい。 やりとりがオウム返しになってしまうことが多く、声量も小さい。呼名されても、返事をせずに自分の活動を続けてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「これから」と「これで」を使い分けて朝の会の始まりと終わりの挨拶をする。 献立係で、「先生、メニューを教えてください。」と話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 始めの挨拶と終わりの挨拶のときに、正しい話し方を目で確認できるように、見えるところに話形を掲示する。 目的語を入れて話すことができるように、話形を献立ボードに貼る。
4	D (男)	<ul style="list-style-type: none"> 発声が明瞭ではないものの、指さしや身振り手振りで伝えようとする。教室を黙って出て行ってしまうことがある。 やるべきことは分かっているものの、気持ちが続かず活動が止まってしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室を出る際に、出入り口で立ち止まり、行き先を伝える。 活動の流れが分かり、すぐ取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の出入り口の床に足型を貼る。出入り口に「ってきます」と書いた短冊を貼り、自分で行き先カードを貼れるようにする。 次の活動が視覚的に分かるように、イラスト入りの手順表を机に貼っておく。
5	E (男)	<ul style="list-style-type: none"> やることは分かっているが次の活動に進めないことがある。 教師に依頼する時絵カードを使うことに慣れてきた。依頼のきっかけとなる「先生」がまだ定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から「せんせい」と話して、絵カードを使って依頼をする。 教室のドアに行き先を貼ってから、教室を出る。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の活動にスムーズに移れるように手順カードを準備する。 自分から「て(せ)んて(せ)い」と話し掛けるまで待つ。「先生」と言うことを思い出すことができるように、吹き出しに「せんせい」と書いたイラストを提示する。
6	F (男)	<ul style="list-style-type: none"> 友達とコミュニケーションをとろうとする姿が見られるものの、関わりは一方的である。 朝の活動の流れが分かり、一人でスムーズに進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話聞き、うなずいたり、返答したりする。 困ったときに教師に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな返答や話し掛け方をしたらいいのか、隣で見本を見せる。 教師からは言葉掛けをせずできるだけ待つ。自分から伝えられるように、話形を準備し、教室に掲示する。
7	G (男)	<ul style="list-style-type: none"> 一人で着替えや準備などができるが、時間が掛かってしまい係活動や朝の会に間に合わないことがある。言葉掛けをすると、急いで取り掛かろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動や朝の会の開始に間に合うように、時間内で素早く着替えや準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動や朝の会の開始に間に合うことができたら、頑張り表に教師がスタンプを押す。活動への意欲を高めるため、スタンプがたまったら、休み時間に本児の好きなことができるチケットを準備する。

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点
25	1 朝の活動をする。 ・挨拶 ・持ち物の整理 ・出席カード ・検温 ・着替え ・係活動 ・自由時間 (A)掃除係 (B)学習係 (C)献立係 小体育館のモップ掛け係 (D)お便り係 (E)ゴミ捨て係 給食係 (F)廊下掃除係 電気係 日付係 天気係 (G)小体育館のモップ掛け係 健康観察簿係	<ul style="list-style-type: none"> ・ T 1 と T 3 は教室で児童それぞれの活動の様子を見て、できるだけ声を掛けず、児童からの発信を待つようにする。滞っている児童には、カードや手順表を見せたり、できたことを称賛し、励ましたりする。T 3 は (D) が一人で活動できるか見守り排便のふき取りなどの支援をする。T 2 は (C) (G) 2 組の (H) と小体育館に行き、モップ掛けの指導をする。 ・ 教室の前に立ち止まり、元気に挨拶ができたときは、大いに称賛する。無言で入ってきたときは、「気を付け」と言ったり、「お」と挨拶の言葉の一部を言ったりすることで発声を促す。 ・ 朝の活動の流れが分かり、見通しをもって自分から活動できるように、手順表や活動を表した写真を順番に貼っためくりを準備する。 ・ (D) 次の活動に気付き、自分で活動しようという気持ちになれるように、教師が本児の活動を代わりにやろうとする姿を見せる。 ・ 誰かのために活動できたときに、大いに称賛したり、周りの児童にその児童の頑張りを伝えたりする。 ・ (E) 自分から「て(せ)んて(せ)い」と話し掛けるまで待ち、「先生」と話し掛けることを忘れている場合は、「せんせい」と書いたイラストカードを見せる。教師の手を引っ張るときには、「どれかな」と絵カードを持ってくるように促す。 ・ (G) 5分以内に着替えを終え、戻ってこることができるように、視覚的に時間の経過が分かるタイマーを着替えに行く際に持たせる。時間に間に合ったときは称賛する。
20	2 朝の会をする。 ・挨拶 ・健康観察 (A) ・日付と天気 (F) ・今日の給食 (C) ・今日の勉強 (B) ・教師の話 ・掛け声 (D) (E) (G)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自信をもって朝の会の進行ができるように、めくりを担当児童の顔写真を貼ったり、話形を掲示したりする。安心して発表することができるように、発表する内容が書いてあるものをホワイトボードに掲示する。 ・ 健康観察で大きな声で返事をし、相手の顔を見て体調を答えられるように、教師が返事の手本を見せたり、「日直さんを見るよ」と言葉を掛けたりする。 ・ (B) は学習係で調べた内容が友達に伝わるように、集合場所の写真カードや集合時刻を示した時計を見せる機会を設定する。 ・ (C) 友達に聞こえる声で話すことができるように、「大きな声で話すよ」と言葉を掛けたり、教師が一文字目や文の一部を大きな声で話し、真似するよう促したりする。 ・ 教師の礼に合わせて礼ができるように、児童全員と視線が合うまで待ち、礼をする。友達を見て姿勢を直せるよう、正しい姿勢をしている児童を称賛する。

(4) 評価

<児童生徒の評価>

- ・ 朝の活動の流れが分かり見通しをもって、できるだけ少ない支援または一人で活動できたか。
- ・ 身振りや絵カード、発声など自分に合った方法で、意思を伝えたり援助を求めたりしていたか。

<教師の手立ての評価>

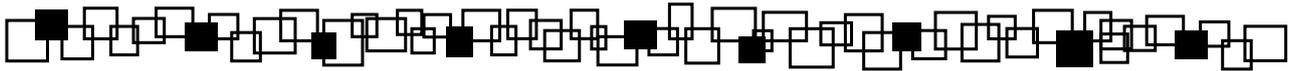
- ・ できるだけ少ない支援または一人で朝の活動を行うための手立て、T T間の連携は適切であったか。
- ・ 身振りや絵カード、発声など自分に合った方法で、意思を伝えたり援助を求めたりできるような手立てや環境設定は適切であったか。

4 題材計画（総時間数 200 時間／本時 130 時）

※ゴシックは2学期から取り組んだもの

時	学習内容（各教科の内容） ※各教科等合わせた指導においては、 合わせている教科の内容	学習活動	育成を目指す資質・能力 (知 思 学)
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の仕方 ・身辺処理の方法 生ア 基本的生活習慣 生オ 人との関わり ・やることと流れの理解 ・身辺処理の方法 ・教師への依頼の仕方 生ア 基本的生活習慣 生ウ 日課・予定 算C 測定 体G 保健 ・自分の役割の理解 ・清掃用具の正しい使い方 ・健康管理のための運動 ・他者とのかかわり方 ・文字・数字の理解 ・活動の手順の理解 生ウ 日課・予定 生オ 人との関わり 生キ 手伝い・仕事 生カ 役割 国A 聞くこと話すこと 国B 書くこと 国C 読むこと 体C 体づくり ・時間を意識した行動 ・集団としての意識 ・姿勢保持 ・挨拶、返事の仕方 ・話し方・聞き方 ・自分の役割の理解 ・一日の見通しをもつこと 生ウ 日課・予定 生オ 人との関わり 生カ 役割 生ケ きまり 生サ 生命・自然 国A 聞くこと話すこと 算A 数と計算 	<ul style="list-style-type: none"> ○登校 ・挨拶 ・靴の履き替え ○朝の活動 ・教室への移動 ・持ち物の整理 ・出席カード ・検温 ・着替え、片付け ○係活動 (岡・灯) ・廊下掃除 (川・茜) ・今日の学習調べ (小・優) ・給食の材料調べ ・小体育館のモップ掛け (齊・蓮) ・お便り (佐・琉) ・ゴミ捨て ・給食 ・廊下掃除 (戸・蒼) ・廊下掃除 ・電気 ・日付と天気 (渡・瑞) ・健康観察カード ・小体育館のモップ掛け ○朝の会 ・挨拶 ・健康観察（呼名） ・日付と天気 ・今日の給食 ・今日の勉強 ・教師の話 ・掛け声 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や身の回りの人に気づき、視線を合わせて挨拶をしたり、礼をしたりする。知 学 ・朝の活動の流れを覚え、一人で見通しをもって順番に沿って行動したり、自分から教師に援助を求めたりする。知 学 ・自分の係活動の内容が分かり、自分から進んで行おうとする。知 学 ・分からないことや難しいことがあったときに、会話や身振り、カードなどを使って、自分から教師に援助を求める。知 思 ・集団の様子に気づき、見通しをもって最後まで参加し、自分の役割を果たそうとする。思 学 ・相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けながら、今日の学習や給食について発表をする。知 思 ・教師や友達からの話し掛けに、視線を合わせて注目したり、応じたりする。知 思

中学部研究



< 中学部 研究テーマ >

他者との関わりの中で、考えを深めたり
自ら行動したりするための学習活動と手立ての工夫
～進路学習の授業づくりを通して～

1 学部研究テーマ設定理由

令和3年度は進路学習の教育課程への位置付けと3年間を見通した学習内容表の作成について検討を重ねてきた。教育課程に位置付けた方がよいという意見が半数以上あった。一方、「今年度作成した学習内容表をもとに、3年間を見通した学習をしっかりと積み重ねてから検討したらよいのではないか」「入学後間もない1年生と卒業を控えた3年生など、学年や学習グループの実態の違いを考えると、生活単元学習の中で取り扱い、必要な時数を各学年で考えて行く方がよいのではないか」という意見もあった。

そこで中学部では引き続き進路学習を研究対象授業とし、学年ごとに生活単元学習の中で適切な授業時数の検討をすることにした。その中で、進路学習内容表を活用した学習計画の作成と学習内容の精選、個の学びと、他の人や物・環境との関わりを通した学びを関連させて積み重ね、他者との関わりの中で生徒が考えを深めたり自ら行動したりする姿勢を育てることを目指した授業づくりを行うことにした。具体的には、人や物との関わりから「これをやってみたいな」「〇〇してみたらどうだろう」など自ら取り組んだり、気づきやよりよい考えを生み出したりする姿などを目指す姿と想定し、それらを引き出すための効果的な単元構成、学習活動、手立てを検討した。

2 研究仮説

進路学習内容表を活用した学習計画の作成と学習内容の精選、個の学びと、他の人や物・環境との関わりを通した学びを関連させて積み重ねることで、考えを深めたり、自ら行動したりする姿勢を育てることができるのではないかと考えた。

3 取組の実際

(1) 資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と生徒の姿を通した評価・改善

① 「目指す姿と学習内容の一覧」の作成と活用

学年ごとに「育てたい資質・能力と学習内容の一覧」を作成した。2、3年生は昨年度の評価を基に話し合ったことで、より具体的に目指す生徒の姿や学習内容を考えることができた。夏休みと冬休みに達成度や次学期の目標や手立てを共通理解し、学年での一貫した指導につなげた。

② 進路学習と他教科とのつながりの検討

単元配列表を作成し、進路学習と他教科と学習の効果的な配置について検討した。

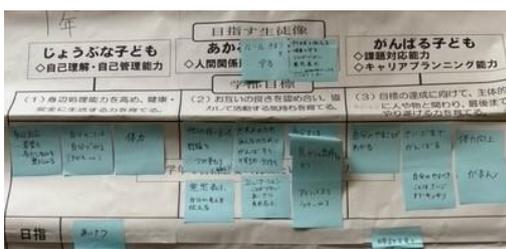


写真1 目指す姿と学習内容の一覧

学部目標	学年で育てたい資質・能力	1学期の評価と今後に向けて
身辺処理能力 を高め、健康・安全に生活する力	・体力をつける。○ ・自分のことは自分でやる。(着替え、身だしなみを整えること)○	・体トレ、作業学習、新原の探求などで、体力がついてきた。 ・時間はかかるが、自分でやらなきゃ!と意識してがんばっている。(支援必要な3人) ・シャツの裾、履帯など細かい部分はもうちょっと、が、意識してきている。
互いの良さを認め合い、協力して活動する力	・自分のことを知る。(できること、できないこと)△ ・自分の考えを伝える、意思表示する。○	・言い訳はまだまだ。今後も経験を増やす! ・「自分、友達の良いところ探し」をきっかけに、友達の実態を詳しく知り自分について知ったりできた。相互理解が身生えた。 ・選択肢があればきている。授業コマ-使用などで終わる学習などで、自分から聞く、お願いするなど自分から発信!
		・誰かのため、みんなのために頑張る経験積み重ねる(委員会、総合など)○ ・「朝支援会議準備などで全員が自分から動くことを目指

写真2 目指す姿と評価

(2) 「キャリア教育で育成したい資質・能力」の視点から、学年間・学部間の学習内容のつながりの確認

進路学習内容表を活用した年間指導計画作成と単元検討会を実施した。年間指導計画作成者、学年主任、主事、副主事、教育専門監、研究部員が参加した。話題になったことは以下のとおりである。

【1年生】

働くことだけでなく、自分の好きなことや余暇の紹介を3年間継続して取り上げることで、自分の意識の変化や仕事への興味・関心につなげていく。1年生のうちに寄宿舎を活用して家事の体験をし、身の回りのことを自分でやる意識付け、生活に必要な力の力量を知る機会にする。



写真3 単元検討会の様子

【2年生】

内容によってはグループ編成を変えるなど柔軟な対応をする。仕事の分類では、「運転手」ではなく「作る人」「運転する人」など大きなカテゴリーで分ける。生徒の実態にかかわらず、生活リズムを見直す学習の大切さなども必要。

【3年生】

単元が変わっても授業は毎回同じ流れで行った方が身に付きやすいグループもあるのではないかと。「〇〇検定」と称して繰り返し練習したり合否をはっきりさせたりするのも効果的。生活介護や就労継続支援Bを目指すグループでは作業能力だけでなく、挨拶やコミュニケーションの基礎などを大切にする。

(3) 協働的な学びの実現に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善

① 学部内授業研究会

第2学年 単元名「バランスのよい食事～黄のなかま、赤のなかま、緑のなかま～」

7月12日(火)

1) 学部内事前授業検討

いろいろな食品カードを野菜、果物などの仲間に分ける、栄養素ごとに3色(黄、赤、緑)に分ける、3色の食品群の働きを知るなどの学習を通して、食品名や食品のもつ働きについて知識を増やしたり、自分の考えを友達や教師に伝えたりすることをねらいとした単元である。本時は既習事項の「食品の働きによる3つの仲間分け」を活用し、やきそばやカレーに入りたい食品を、3色の栄養素がそろるように選んだり発表したりする学習活動である。

事前検討会では、以下のことが話題になった。

○学習活動について

- ・一人一人が手元で操作できるシートがあるとよい。
- ・自分たちが考えたことがバランスがよいかどうか一目で分かるように視覚的支援を充実させる。
- ・3色の食品群と自分の体調(これを食べると風邪をひかないなど)と結びつけて考える。
- ・自分が食べたい具材(好きな物)だけを選び、バランスのよい具材と比較する活動を設定する。



写真4 事前検討会の様子

○対象生徒への手立て

- ・グループの中でリードしていけるような場面をつくる。
- ・給食の献立をチェックして分類したり、普段から食材を話題に取り上げたりする。

2) 授業提示

自分の生活経験に基づいた食材の提案をすることができていた。小グループの中で友達の意見に同意したり反対意見を伝えたりする姿がみられた。また、グループごとに発表する場面では他のグループに注目したり、周りを見てやることが分かって動いたりする様子が見られた。



写真5 意見を伝え合う様子

3) 授業協議と指導助言

【協議の概要】

生徒の実態を踏まえ、「話し合いの姿」を職員同士で明確にする必要性、話し合いが進むような座席の配置の工夫、生徒が進行役を務めるやり方、などが話題になった。

【指導助言：菊地高等部主事】

学習の進め方をパターン化することで、生徒の役割分担ができてくるのではないかと。学習のゴールを明確にするために、栄養教諭からよい例を聞いておいて自分たちが考えたものと比較してみる方法もあるのではないかと。

【指導助言：諸岡副校長】

自分が食べたい焼きそばと、今の自分に必要な栄養が入っている焼きそばとの違いなど、生活の中で広がっていく題材。本時のねらいが目指す資質のどこに結びつくのかを考えることで、更にならぬや活動が精選されていくのではないかと。

4) まとめ

生徒が手元で操作できる教材や学習の流れのパターン化などが、教師や友達との関わりを促したり、生徒の自ら学ぶ姿を引き出したりすることに有効だった。

②学部内授業研究会

第3学年 単元名「働くこと」を考えよう～自分に向いている仕事～ 10月27日(木)

1) 学部内事前授業検討、授業シミュレーション

「働くモデル図」を活用し、いろいろな職業について関心をもち、職種ごとに必要な力や自己理解を深め、進路選択に向けて自分は何を頑張るのかを考えることをねらいとした単元である。本時は既習事項の活用や友達との意見交換を通して、人と関わる仕事に必要な力について、自分で考えたことを基にグループで話し合う学習活動である。

事前検討会では、以下のことが話題になった。

○学習内容について

- ・仕事の仲間分けよりも、何かの仕事を取り上げ、どんな力が必要か考えたり自分の生活でどうしたいか考えたりすることを優先したらどうか。
- ・グループ分けした仕事について、今日は「〇〇な仕事」、次回は「〇〇な仕事」など、取り扱う時数と学習の流れをパターン化するとよい。

○対象生徒への手立て

- ・選択肢などの手掛かりがあるとよい。

- ・同じ意見をもった友達と一緒になど、グルーピングを工夫する。
- ・何回か学習を繰り返すことで、前のプリントなどに考えるためのヒントがあり、それを見つけて書いたり発表したりできるのではないか。既習事項の活用方法を工夫する。

2) 授業提示

ロールプレイを見たり職業準備性ピラミッドを参考にしたりして、「人と関わる仕事」に必要な力を考えて付箋に書いたり、グループで話し合ったりした。既習事項を生かして、自分の考えをいくつも付箋に書いていた。また、互いの考えを認め合い、似た意見をペンで囲んでグループの意見を分かりやすくまとめる姿が見られた。



写真6 考えを伝え合う様子

3) 授業協議と指導助言

【協議の概要】

特に大切だと思う項目や生徒の発言を可視化する電子黒板や実物投影機の効果的な活用、学習ファイルを手元に置くなど既習事項の活用、生徒同士のやり取りを促し思考を深める発問などが話題になった。また、付箋を貼り合せて、生徒達で同じ言葉を見付けるようなまとめの仕方、友達の意見を聞いて自分の考えを振り返ることができるようなワークシートの工夫など、他者との関わりから得た気づきや学びの積み重ね方についても意見が出た。

【指導助言：安藤高等部普通科主任】

話し合い中心だったが、生徒の参加率が高く、普段からの繰り返しの学習の成果を感じた。対象生徒は考えをもっているが自信がないということだが、少人数グループで話し合うことで自分の意見が固まって発表につながった。自己理解は高等部でも継続している内容である。中学校段階から仕事について調べたり、自分の得意不得意を知ったりするという授業は高等部につながる大切な内容だと思う。

【指導助言：相場教頭】

小さい頃から、仕事をしている人を見ることを積み重ねていくことで、仕事をするために必要な力を考える段階に来ている。グループでの学習も勤労観、職業観を育てる上で重要である。最初は個別、次はグループというアクティブラーニングの形態で行っており、実態に合った学びの場が提供されていた。グループの中で意見を伝える、他者の考えを知る、認めるなど、普段からの学習の積み重ねが出ていたと思う。

4) まとめ

生徒の実態に応じたグルーピングによるアクティブラーニングの形態が、協働的な学びを促していた。既習事項の生かし方、友達や教師とのやり取りから、気づきや考えの変化などを実感できるような教材やまとめ方について考えることができた。

③学部内授業研究会

第1学年 単元名「自分でできる家の仕事発見！～やってみよう！家庭の仕事～」

12月8日（木）

1) 事前授業検討、授業シミュレーション

家庭にはどのような仕事があるかを知り、洗濯や掃除、簡単な調理の実践を通して、家庭の一員としての役割を果たしたり、目的に応じたよりよい方法を考えたりする単元である。本時は衣服の収納について考えたり友達と話し合ったりして、どんな収納の仕方がよいかを考える

学習活動である。

事前検討会では、以下のことが話題になった。

○対象生徒への手立てについて

- ・話し合いの中の生徒の活動を精選する。生徒は考えることに集中する→教師は出した意見をホワイトボードに書いて可視化する→話し合いの進行を教師が行い、「〇〇さんの考えはどう？」など意見を引き出す。
- ・「いろいろな畳み方を知る時間」と「収納するための畳み方を考える時間」があるとよいのではないか。
- ・収納サイズの違う箱を用意することで、グループごとに違う意見が出て学び合えるのではないか。

2) 授業提示

洗濯物の収納の仕方について、自分の考えを付箋に書いたり友達に伝えたりする姿が見られた。また、よりよい収納の仕方について話し合い、洗濯物を収納ケースに入れたりグループで発表したりした。



写真7 衣服を畳む様子

3) 授業協議と指導助言

【協議の概要】

ミニホワイトボードや付箋を活用した思考の整理、本時の学びを振り返るために映像を活用したまとめの工夫、実際に体験することによる気づきなどが話題になった。

【指導助言：小野地域学習コーディネーター】

思考する場、表現するためのツールがたくさんあった授業だった。「自分ができる家の仕事発見」は、分かりやすく、自分ができていることに気付くことにつながる。どのように実践につなげていくかが今後の課題である。できることを考える、家でやった仕事を紹介するということも、今後に生かすことにつながるのではないか。

【指導助言：相場教頭】

今回の授業は、技能+進路学習になっている。生活に関連することを繰り返すことが実生活に結び付いていくのではないかと。中2、中3になっても積み重ね、繰り返すことが大切だと考える。一人で考える→グループで話し合う→全体で共有するという流れができていた。続けて主体的に学ぶ生徒を育ててほしい。

4) まとめ

自分の意見を付箋に書いたり、ホワイトボードに表したりすることが思考の整理や考えを伝えるために有効だった。寄宿舍の先生など第三者の活用、体験しながら考えをまとめていく学習が、他者との違いやよりよい考えを知ることにつながった。

4 まとめ

(1) 協働的な学びの充実に向けて

①自分の考えを整理したり、友達に伝えたりするための手立ての工夫

既習事項を活用した学習活動を積み重ねること、必要な情報が見やすい位置に掲示されていること、ミニホワイトボードや付箋を使って自分の考えを表出する時間を設けること、書く活動では何を書くか分かりやすいような項目立てをすること、少人数で実態に合ったグループ

グにすることなどが有効だった。

②自ら学習活動に臨むための手立て

毎回同じ流れで繰り返し学習すること、友達や教師との関わりを促すために4～5人の小グループにすること、分かりやすい言葉で問い掛けたり、発言を待ちながら教材を提示したりすること、実際に体験したことをベースに学習を展開すること、自分の考えを表出しやすいように、個に応じた教材（操作できるもの、映像、既習したプリントなど）を取り入れることなどが有効だった。

③人との関わりから、気付きやよりよい考えを生み出すための手立ての工夫

自分の考えを話したり選択したりする場面を多く設けること、自分の考えをまとめてから友達と意見交換し、グループごとに発表する場面を設けること、ゲストティーチャー（第3者）などから意見や感想をもらうなど他者の視点から評価してもらう場面を設けることが有効だった。

（2）生徒の変容

①やるべきことが分かり、自分から行動する姿

- ・教師の話をしっかり聞き、食材の名前を書いたり仲間分けをしたりした。
- ・友達と相談しながら仲間分けした三食食品群の円を参考にバランスのよいメニューにするために必要な食材を選択した。

②理由を添えて自分の意見をまとめる姿

- ・これまでの学習を手掛かりにしながら、「人と関わる仕事」に必要な力について考え、自信をもって付箋に書いた。
- ・洗濯物の収納の仕方について、ミニホワイトボードを使って自分の考えをまとめたり、理由を付箋に書いたりした。

③友達の意見を聞いたり、自分の考えを友達に伝えたりする姿

- ・自分の考えをグループの友達に伝えたり、友達と相談しながら洗濯物をケースに収納したりした。
- ・グループの話合いで、付箋に記入したことについて理由を添えて発表したり、同じグループの友達の意見を聞いたりして、共通している言葉や似ている言葉を見付けようとしていた。

（3）次年度に向けて

①職業・家庭の教育課程の位置付けに向けた指導計画の作成と時数の検討

今年度のうちに、進路学習内容表を使って次年度のおおよその学習内容や時期、学習グループなどの検討を進める。

②他者との関わりから学ぶ授業づくりの推進

協働的な学びの充実のために、今年度有効だった手立てを活用する。また、人や物との関わりを通して気付いたことや、自分の考えや行動がどのように変化したのか（しなかったのか）生徒自身が分かるようなまとめの仕方なども検討していく。

中学部 2 学年 A グループ 生活単元学習（進路学習）学習指導案

日 時：7 月 12 日（火）13:10～14:20
 場 所：中学部多目的コーナー
 生 徒：男子 10 名、女子 3 名、計 13 名
 指導者：信太真喜子（T1）原 和馬（T2）
 市川奈津子（T3）熊谷理香子（T4）
 高橋ひな子（T5）加賀奈津子（T6）

1 単元名

バランスのよい食事 ～黄のなかま、赤のなかま、緑のなかま～

2 生徒と単元

（1）生徒について

13 名（男子 10 名、女子 3 名）のグループである。自分の考えを言葉で伝えることができる生徒、選択肢の中から選んで伝える生徒と様々である。普段から食べることや食べ物に興味があり、休み時間には料理の雑誌や給食の献立表を見ている様子が見られる。食べ物の好き嫌いもあまりなく、ほとんどの生徒が給食を残さず食べている。

進路学習「バランスのよい食事」では、色々な食材のカードを野菜、果物などの仲間に分ける、栄養素ごとに 3 色（黄、赤、緑）に分ける、3 色の食品の働きを知るという学習に取り組んできた。少人数で教師や友達とやり取りしながら知識を定着できるように、3 つのグループに分かれて学習を進めてきた。1 グループは、自分の言葉で意見を話したり、「三色食品群の円」を参考に、仲間分けをしたり、食品の働きを考えながらワークシートにまとめたりするメンバー、2、3 グループは、教師の問い掛けに応えながら、食品カードを選択肢から選ぶなどして学習するメンバーとした。グループで食品の仲間分けなどの活動を繰り返し行ってきたことで、色々な食品の名前を覚え、意欲的に活動に向かう様子が見られるようになってきた。生徒一人一人が食品名や食品のもつ働きなどの知識を増やし、より興味関心をもって学習に取り組む姿を目指したい。

（2）単元設定理由

前単元の「1 日の生活」では、健康な体をつくるためには食事の時間が大切であること、また、赤ちゃんから中学 2 年生の体に成長するためには、栄養のある食べものをとることが必要であるということ学習した。この流れで食に関する単元に入ることで、食べ物に興味をもっている A グループの生徒にとって、意欲をもちやすい学習活動と考える。色々な食品の名前を覚えたり、栄養素ごとに黄、赤、緑の仲間に分けたりする活動は、食品を変えて繰り返し学習できる。また、毎日食べている給食の献立に使われている食品を取り上げることで、給食を食べる際に、3 色の栄養素のことを思い出したり、友達や教師と話題にしたりすることができるようになることも期待できる。食品の仲間分けの活動では、言葉で伝えることが難しい生徒も、食品カードを選択することで、自分の考えを友達や教師に伝えることができる。以上のような理由から本単元を設定した。

（3）指導について

- ・学習活動に見通しをもち、知識を定着するために、「グループで食品の仲間分け→個々のワークシートで食品の仲間分け」の流れで繰り返し学習する。
- ・友達や教師と関わりながら活動できるように、グループ活動にし、自分の意見を話したり、選択したりする場面を多く設ける。
- ・生徒の考えを引き出せるように、分かりやすい言葉で問い掛けたり、発言を待ちながら、教材を提示したりする。
- ・友達の考えを知ることができるように、グループごとに食品の仲間分けを紹介する場面を設定する。
- ・個々のワークシートにまとめる活動では、完成までに掛かる時間に個人差があるため、食材カードに色を塗って切ったり、立体的な食材を作成したりして活動量を調整する。

・「栄養素の働きの理解」の学習では、より生徒が興味関心をもって理解を深められるよう栄養教諭の話聞く機会を設定する。

3 単元目標 知：知識及び技能 思：思考力・判断力・表現力等 学：学びに向かう力・人間性等

- (1) 食品がもつ働きによって、3つのグループに分けられることを知る。知
- (2) 色々な食品が、3色の栄養素のどのグループに分けられるか考え、選択肢の中から選択する。思
- (3) 食事や食品に興味をもって、給食や身近な料理の献立の一部を考える。学 思

4 単元（題材）計画（総時間数14時間／本時11・12時）

時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力 (知 思 学)
1・2	・食事の大切さの理解 ・色々な食品の名前の理解と仲間分け 職・家(家) Bア 国Aイ、オ	・食事の必要性を「成長する私たち」の表を参考に考える。 ・食品のイラストを見て名前を答えたり、野菜や果物等の仲間に分けたりする。	・健康な生活と食事の大切さを知る。知 ・色々な食品が、仲間分けされていることを知る。知
3・4	・色々な食品の名前の理解と仲間分け 職・家(家) Bア 国Aイ、オ	・グループで色々な食品を野菜や果物等の仲間に分ける。 ・個々に食品カードを作り、ワークシートで仲間分けする。	・色々な食品がどう仲間分けされているか知る。知 ・食品がどの仲間に入るか考えて答えたり、選択したりする。学 ・食品の色を考えながらイラストに色を塗ったり、食品の名前を書いたりする。学
5・6	・栄養素の働きの理解 職・家(家) Bア、イ ・栄養素ごとの仲間分け 職・家(家) Bア 国Aイ、オ	・栄養教諭から食品の働きについて話を聞く。 ・仲間分けの三色の台紙から食品カードを、三色食品群の円に移す。 ・給食献立の写真を見て、食品を三色食品群の円に、仲間分けする。	・色々な食品が栄養素ごとに分かれていることを知る。知 ・食品をどの栄養の仲間に入るか考えて答えたり、選択してカードを移動したりする。学
7・8	・給食献立の食品の仲間分け 職・家(家) Bア 国Aイ、オ	・給食の写真を見て、食品を選ぶ。 ・食品を仲間分けする。 ・グループごとに三色食品群の円を紹介する。	・食品が黄、赤、緑どの栄養の仲間に入るか考え、伝える。学 ・グループの友達や教師と協力したり、相談したりする。思
9・10	・給食献立の食品の仲間分け 職・家(家) Bア 国Aイ、オ	・給食の写真を見て食品を選ぶ。 ・食品を仲間分けする。 ・グループごとに三色食品群の円を紹介する。	・食品が3色のどの仲間に入るか考えて伝える。学 ・グループの友達や教師と協力したり、相談したりする。思
11・12 (11・12/14時)	・身近な料理の材料選び(焼きそば、カレー) ・食品の仲間分け 職・家(家) Bア 国Aイ、オ	・焼きそばやカレーに入りたい食品を考える。 ・食品を三色食品群の円に仲間分けし、バランスがよいか話し合う。	・自分の考えを選択したり、話したりして友達や教師に伝える。思 ・食品をどの栄養の仲間に入るか考えて答えたり、選択したりする。学

			<ul style="list-style-type: none"> ・グループの友達や教師と協力したり、相談したりする。 [思]
13・14	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な料理の材料選び（サンドウィッチ） ・食品の仲間分け 職・家（家）Bア 国Aイ、オ 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドウィッチに入れる食品を考える。 ・食品を三色食品群の円に仲間分けし、バランスがよいか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを選択したり、話したりして友達や教師に伝える。 [思] ・食品をどの栄養の仲間に入るか考えて答えたり、選択したりする。 [学] ・グループの友達や教師と協力したり、相談したりする。 [思]

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・食品の名前を覚えたり、野菜や果物等と仲間分けしたりする。 ・食品を3つの栄養素（黄、赤、緑）ごとに分けたり、食品のもつ働きを覚えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の献立や身近な料理にどんな食品が使われているか話したり、黄、赤、緑があるか考えたりしている。 ・食品カードを作る際、食品の色を思い出しながら色塗りをしたり、食品の名前を書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の献立や身近な料理に興味をもちながら仲間分けをしたり、自分の考えを教師や友達に伝えたりしようとしている。 ・三色食品群の円や給食の写真などに注目したり、教師からの問い掛けに応え、食品カードを選んだりしようとしている。

6 本時の計画（14時中の11、12時）

（1）本時のねらい

①焼きそばやカレーに入れたい食品を、これまで仲間分けした食品から3つの栄養素がそろうように選ぶ。 [知] [思]

（2）生徒のねらいと手立て

No	氏名・性別	実態	個別のねらい	手立て
1	A (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・料理の写真を見て、入っている食品の名前を答えたり、仲間分けをしたりすることができる。 ・仲間分けに迷ったときは、友達の意見も聞きながら仲間分けしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼きそばやカレーに入っている食品を想像しながら、三色食品群の各色から食品を選ぶ。 ・グループで決めた食品を、三色食品群の円を見ながらワークシートに書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼きそばやカレーに入れる食品を考えられるように、三色食品群の円を示す。 ・ワークシートに書き写せるように、食品の名前を確認してから文字で示す。
2	B (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な食品を知っており、色別に仲間分けをすることができる。 ・友達の話を聞かずに自分の意見を話すことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼きそばに入れたい食品を3色あるか考えて話す。 ・友達の話を聞いて、どう思ったか自分の意見を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具なしの写真を提示し発言するまで待つ。 ・友達の話を聞けるように、「○○さんが何て話したか聞きます」と言葉掛けする。
3	C (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・たまに間違えて覚えていることがあるが、基 	<ul style="list-style-type: none"> ・3色の食品が全て入るように、三色食品 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼きそばやカレーに入れる食品を考えられる

			<p>本的な食品の名前が分かり、仲間分けができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分らない食品の場合は、友達の話を聞いて食品の名前を覚えようとする。 	<p>群の中から食品を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで決めた食品を、三色食品群を見ながらワークシートに書き写す。 	<p>ように、三色食品群の円を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書き写せるように、食品の名前を確認してから文字で示す。
4		D (男)	<ul style="list-style-type: none"> 食品や料理の写真を見て、名前を答えることができる。 グループ全体への問い掛けに対して発言することは少ないが、個別で尋ねることで食品の名前を答えたり、仲間分けをしたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三色食品群の円を見ながら、焼きそばやカレーに入れる食品を選ぶ。 自分が考えた食品の名前を友達に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品を自分で選んで伝えられるように、具なしの焼きそばを見せながら「何を入れたいですか」と尋ねる。
5		E (女)	<ul style="list-style-type: none"> 食べることに興味があるが、メニューの名前を聞いても、入っている食品の名前が分からないことが多い。 自分が食べている食品に関心をもち、食品の名前や何色の仲間が考えたり、質問したりすることが増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 三色食品群のそれぞれの色がどんな働きをしているか考えながら食品を選ぶ。 自分が考えた食品の名前を友達に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 黄、赤、緑色のそれぞれの働きが分かるように、イラストや言葉で提示する。 食品の名前を友達に伝えられるように、自信がないときはこれまでのワークシートを参考にしよう伝える。
6	2 グループ (4名)	F (男)	<ul style="list-style-type: none"> 食品の名前をたくさん覚えていて、話す。 食品の黄・赤・緑の仲間分けは指さしで示し、ほぼ正確にできる。 色塗り、書字に時間が掛かるが、正確に丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤・黄・緑の仲間から食品が入るように、焼きそばやカレーに入れたい食品を選ぶ。 友達と選んだ食品イラストを見て、食品名を仲間ごとに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つずつ色を取り上げ「赤から何を入れますか」と問い掛け、赤の仲間だけを示す。 食品イラストを貼った円を示し、「赤に何ありますか」と聞き、色を塗るところや文字を書くところを色や線を引いて示す。
7		G (男)	<ul style="list-style-type: none"> 食品の名前をたくさん覚えていて、話す。 教師の質問をよく聞き、画像もよく見ていて、食品の仲間分けを早くやりたがる。仲間分けはほぼ正確にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤・黄・緑の仲間から食品が入るように、焼きそばやカレーに入れたい食品を選ぶ。 友達と選んだ食品イラストを見て、食品名を仲間ごとに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つずつ色を取り上げ、「赤から何を入れますか」と問い掛ける。 食品イラストを貼った円を示し、「赤に何ありますか」と聞き、書く場所が分かるように、線を引く。

8		H (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・食べることに興味があり、食品のイラストや給食の写真をじっくり見る。 ・自分の言葉で伝えることが難しいが、食品カードを色分けしたり、食品のイラストと名前をマッチングしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と選んだ食品を三色食品群の円に色分けする。 ・グループの友達と選んだ食品名をイラストとマッチングしながら自分のワークシートに貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色分けできるように、これまで色分けしたワークシートを提示し「○○は何色にありますか」などと質問する。 ・イラストとマッチングできるように「○○はどれですか」と質問しながら選択肢を提示する。
9		I (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の名前を言葉で伝えることは少ないが、選んだり、書いたりして伝える。 ・三色食品群の緑の仲間が野菜、果物など大まかな分類が分かり、食品カードを分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三色食品群の全ての色に食品が入るように焼きそばやカレーの具材を選ぶ。 ・グループの友達と選んだ食品名を自分のワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足りない色の食品が分かるように、選んだ食品を色分けする円を準備する。 ・食品名をワークシートに記入できるように、教師が食品名を文字や音声で伝える。
10		J (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・理解している食品名が少ないが、教師の言葉の模倣や文字のマッチングをする。 ・教師の指さしを見て、食品のイラストを貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と選んだ食品を三色食品群の円の決められた場所に貼る。 ・食品名を話してから、文字のマッチングをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三色食品群の円の中に貼ることが分かるように、「○○はどれですか」と色名を伝えたり、指さしをしたりする。 ・食品名を覚えられるように、言葉で伝えて音声模倣を促す。
11	3 グループ (4名)	K (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が話す色名を聞いて食品を三色食品群の円に貼る。 ・自分の言葉や文字で書いて伝えることは難しいが、知っている食品が多く、食品のイラストと文字で書かれた名前をマッチングする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師の話を聞いて、食品を選び、三色食品群の円に色分けをする。 ・イラストに合う食品名を選んでワークシートに貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品や色を選ぶことができるように、「○○はどれですか」と質問をする。 ・自分でワークシートの活動を進めることができるように、イラストや食品名シールを準備する。
12		L (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・理解している食品は少ないが、給食や料理に興味がある。 ・教師が言葉で伝えると、食品を選んだり、三色食品群円に貼ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼きそばやカレーにどんな具材が入っているのか大きな三色食品群の円から選び、小さな円に移す。 ・ワークシートに書かれている食品の名前と、自分が書いたシールとマッチングして貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな円から小さな円に移す際、「○○は何色でしたか」などと言葉を掛け、色を意識できるようにする。 ・字をよく見てマッチングできるように、食品名をあらかじめワークシートに書いておく。

13	M (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に興味があり、食品の名前もよく理解している。 ・三色食品群の円に、自分なりに考えて食品を貼ったり、食品に合った色を的確に塗ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼きそばやカレーにどんな具材が入っているのか選び、三色食品群の円に貼る。 ・小さな三色食品群の図を見て、自分のワークシートの仲間分けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな円から小さな円に移す際、「○○は何色でしたか」などと言葉をかけ、色を意識できるようにする。 ・小さな円とワークシートの色の向きをそろえて提示し、悩んでいる様子が見られたら、「○○はどこですか」などと言葉を掛ける。
----	----------	--	--	---

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 <u>囲み部分</u> はねらいに対する手立て
5	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習を知る。 めあて:焼きそばやカレーに入りたい食べ物を選ぼう。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品が3色あると栄養のバランスがよいということが分かるように、前時に仲間分けした円を提示する。 ・見通しをもって学習できるように活動の順番を分かりやすく話し、掲示する。
50	3 グループで焼きそば、カレーに入れる食品を考える。 ① 入りたい食品を選ぶ。 ② 三色食品群の円に移し、確認する。 ③ グループで考えたことを個々でまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品が3色あるか考えながら選べるように、始めに具のない焼きそばを3色食品群の円に当てはめ、バランスが悪いことを知らせる。 ・入りたい食品をイメージできるように、具のないカレー、焼きそばの写真を提示する。 ・食品を考える際に参考になるように、三色食品群の円を見える場所に置く。 ・生徒の考えをグループ全員で共有できるように、発した言葉を教師が分かりやすく知らせたり、全員が発言できるように指名したりする。 ・知識を定着したり、最後まで活動に集中したりできるように、グループ活動の後、個々に学習についてまとめる活動を設定する。 <u>1グループ</u>: (T2) 食品のもつ働きを覚えられるように、ワークシートに食品名や食品のもつ働きを記入する活動を設定する。 <u>2グループ</u>: (T4、T6) 食品に興味をもち、活動に集中して取り組めるように、色を塗ったり、切ったりして食品カードを作成する活動を設定する。 <u>3グループ</u>: (T3、T5) 食品に興味をもち、活動に集中して取り組めるように、毛糸や布などを使って立体的な焼きそばを作る活動を設定する。
15	4 グループごとに考えた焼きそば、カレーを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が各グループで考えた焼きそば、カレーの紹介に注目できるように、電子黒板を使用する。 ・T1は、各グループで考えた焼きそば、カレーに入れる食品が3色そろっているか電子黒板の画面に丸印を付けながら確認する。

(4) 評価

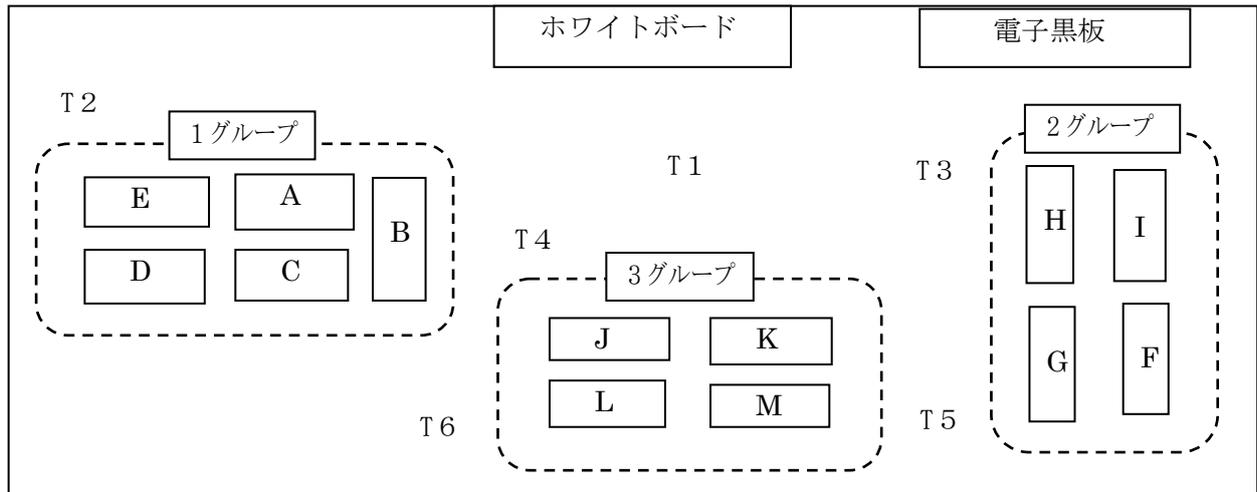
<生徒の評価>

- ・焼きそばやカレーに入れたい食品をこれまで仲間分けした食品から3つの栄養素がそろうように選んでいたか。

<教師の手立ての評価>

- ・焼きそばやカレーに入れる食品を3つの栄養素がそろうように選ぶための教材の準備や提示、言葉掛けができていたか。

(5) 配置図



- ・学習活動3では、1グループ、2グループ、3グループに分かれる。
- ・1グループはT2、2グループはT3、T5、3グループはT4、T6が指導する。T1は全体の様子を見る。

対象生徒について

- (1) 対象生徒の実態（障害特性や得意なこと、学習面や生活面で困っていることや、その背景にあること、自立活動の目標など）
- ・様々なことに興味、関心があり、学習活動に意欲的に取り組む。
 - ・どの活動にも意欲的に取り組むが、分からないことがあったり、できないことがあったりしても「はい」と返事をすることが多い。
 - ・自分の考えや思いを言葉にすることが苦手で、なかなか伝えられずにいることがあるが、国語の宿題などで繰り返し日記や作文を書くことで、少しずつ伝えられるようになってきている。
 - ・話をしているうちに、何について話しているのかが分からなくなることがある。順を追って教師と一緒に確認しながら話をすることで伝えたいことを最後まで伝えられることが増えてきた。
- (2) 本単元における育みたい資質能力

学びに向かう力・人間性等

- ・健康な体をつくるために必要な食材やバランスのよい食事について興味
 - ・関心をもち、日常生活に生かそうとする。
- ・友達の意見を聞きながら食材の仲間分けや、献立の一部を考える。

知識及び技能

- ・普段口にしていてる食材が野菜、肉などどの仲間に分けられるか知り、仲間分けをする。
- ・仲間分けや教師の説明を通して、健康な体を作るための主な3つの栄養素について知る。



生徒E

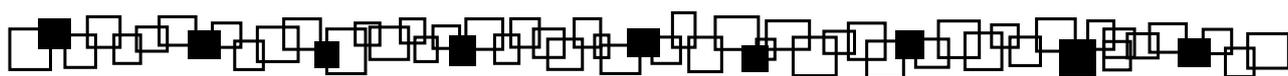
思考力・判断力・表現力等

- ・仲間分けをした三色食品群の円を見て、どの色が足りないか、何を足せばよいか考え発表する。
- ・学習したことを生かし、三色食品群の円を参考にしながらバランスのよい献立を考える。

- (3) 対象生徒のこれまでの学習の様子と本時の期待する姿（本時のねらいを達成した姿）

これまでの学習の様子	期待する姿
<ul style="list-style-type: none"> ・食材の仲間分けで、食材の名前が分からないこともあるが、教師や友達に聞きながら名前を書いたり、仲間分けをしたりした。仲間分けをしたことをきっかけに、給食の食材を見て、「これは野菜かな」「何の仲間かな」などと興味をもって考えることが増えた。 ・好きな活動(食材のイラストに色を塗ること)に夢中になり、仲間分けまでいかないことがあったが、本時の活動を繰り返し伝えたり、グループみんなで一緒に進めたりすることで、頑張るポイントが分かり、活動できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話をしっかり聞き、やらなければいけないことが分かり、食材の名前を書いたり、仲間分けをしたりする。 ・友達と相談しながら仲間分けした三色食品群の円を参考に、バランスのよいメニューにするために必要な食材を選択している。

高等部 普通科研究



<高等部普通科 研究テーマ>

よりよい自分を目指して、自ら行動する生徒を育成する授業づくり ～「協働的な学び」に重点を置いて～

1 学科研究テーマ設定理由

高等部普通科では、昨年度、「学びや経験を生かして考えたり、行動したりする姿を育む教育課程の工夫・改善～職業科を中心とした授業づくりを通して～」をテーマに、学科研究を行った。生徒が学んだことや経験を他の学習や生活に生かして考え、行動する姿を目指して、「分かる」「考える」「生かす」に焦点をあてた授業づくりについて計画、実施、改善が進められた。成果として、学年ごとに作成した「学年で育てたい資質・能力表」と「単元配列表」を授業づくりや改善に活用することで、教科横断的な視点での授業づくりや、異なる学習場面でも同じ視点で生徒を見取り、学習内容の検討をするなど、教師の意識の高揚が図られた。加えて、生徒の姿として、自分に必要なことを知ったり次にどうするとよいかを考えたりするなど、学びや経験を他の場面につなげる姿が見られた。一方で課題として、中学校から進学してきた生徒と特別支援学校で学んできた生徒では、積み重ねてきた学習経験や内容、環境が異なるため、学習に向かう習慣、見方や考え方に幅があることが挙げられてきた。個に対する支援の充実が図られてきた一方で、集団活動や社会経験、生活経験が乏しく自信の低さから受動的で、挑戦することや自己を表現することに消極的な生徒が多い集団であるという現状がある。

以上のことから、今年度は、生徒個々の進路実現、つまり、「よりよい自分」に向けて、主体的に考え、行動するために必要な資質・能力を育むために、他者との協働により様々な見方や考え方、表現に触れることができる学習に重点を置いた授業づくりの充実を目指して、本研究テーマを設定した。また、前年度に引き続き、個々の教育的ニーズに沿った学びをつなげていくために、教科横断的なつながりを意識した指導計画と見直しの基で、生徒の見取りと授業づくりを進めることとした。

2 研究仮説

育成を目指す資質・能力を基に、教科横断的な視点で、各教科等の目標、指導内容を検討、実施、改善することと、生徒が様々な見方や考え方に触れ、自分の知見を広げることができる協働的な学習の充実を図ることで、自己の進路実現に向かってよりよい自分、よりよい生活のために、学びや経験を生かして考えたり自ら行動したりする生徒を育むことができるだろう。

3 取組の実際

(1) 資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と生徒の姿を通した目指す資質・能力の評価・改善

① 育成を目指す資質・能力の検討と学習内容の確認

育成を目指す資質・能力を明確にするために、年度はじめに学部目標に沿って学年で目指す生徒の姿を出し合った。(写真1)

1年生では、高等部入学年度として新しい学習及び生活環境に順応することを前提とし、自己実現のための基盤となる基礎的生活習慣や自己理解の重要性についても話題にした。2、3年生では、昨年度の評価も参考にした意見交換ができ、継続する内容と自己実現に向けて一段階前進させた資質・能力について

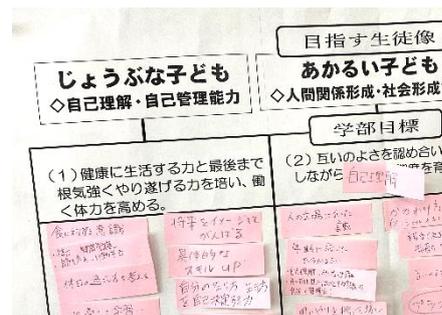


写真1「育成を目指す資質・能力表」

具体的な指導場面を挙げながら共有できた。

また、学期ごとに学年全体や学習グループに分かれて、育成を目指す資質・能力に沿った指導の振り返りを行った。生徒の学習の様子や行動の変化などを共有したり、その学習の成果と課題を受けて学習計画の見直しや次期の学習の重点について検討したりしたことを、授業の組み立てや指導に反映させた。(表1)

表1 学期の評価と次期の目標について話し合い(例 高1 抜粋)

学部目標	学年で目指す資質・能力	2学期の評価と3学期の重点	
<p>強く力を高める。 健康に生活する力と最後まで根気よく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 生活リズムと体力 ・ 情緒の安定 ・ 体力の向上 ・ 正しい姿勢を保って、話を聞く、挨拶をする。 	<p>2学期の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢について、朝や帰りの会、学年全体での始業時に繰り返し指導したことで、自分で意識し直すようになった。 ・ 視覚的支援により、自分からスムーズに活動した。 ・ 体トレで積極的に運動する姿が増えた。 ・ 登校後の流れを統一したり、個別の場所を確保したりすることで、落ち着いて過ごせることが増えた。 <p>△体力向上の必要性を理解していても、実践が難しい。 △情緒が不安定なときに、周りへの影響を考え踏ん張る力がほしい。</p>
<p>活動する態度を育てる。 互いのよさを認め合い、協力しながら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己肯定感を高める。 ・ 自己理解を深める。 ・ 根気強く課題に向かう力の獲得 ・ 集団でのルールやマナーの定着 ・ 友達のよさに気付く、認める。 ・ 仲間意識、協力 ・ 自分のよさを知り、自己有用感を高める。 ・ 優しい心をもつ。 	<p>2学期の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動のゴールに向けて、自分のやるべきことに最後まで責任をもって取り組む姿が見られるようになった。 ・ 月ごとに個人目標を振り返り、友達からも評価や助言をもらった。互いの頑張りや励まされたりする言葉が増えた。また、友達の頑張る姿から自己の不足を自覚した。 ・ 学級の仲間意識が深まり、友達の得意なことを認めたり、苦手なところを手助けしたりする様子が増えた。 ・ 学級での役割分担や協力の場がスムーズになった。 <p>△正しい自己理解。過大評価や課題を見付けられない。 △経験上、苦手な活動や人から逃げようとする。どう振る舞えばお互いによいか等を考え、実践するのが難しい。</p>
<p>主体的に考え判断して行動し、 自分の思いや考えを相手に伝える力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で考えて行動する力の獲得 ・ 自己理解(よいところ、苦手なこと) ・ 自分の「頑張りどころ」を見付ける。 ・ 自分の考えや思いを文字にしてみる。 ・ 自分で立てた目標を振り返る。 	<p>2学期の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情緒が不安定なとき、自主的に対処する姿が増えた。 ・ 自分で選択した活動に自信をもって臨み、達成を感じる経験を重ねた。 ・ 自分の役割を越えた自主的な活動や言動が増えた。 ・ めあての振り返りで、自他の成果を詳しく書いた。 <p>△自分の気持ちや考えを表現することが難しい。 △自分の目標に対する具体的な行動の姿を想像できない。 △「自分で考える」が難しい。</p>
		<p>3学期の重点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋力増進ではなく、働くために必然となる「粘り強さ」「食事」を意識した「体力」に関する目標設定や実践を行う。 ・ 心の乱れにどう対処すべきかを自覚し行動を起こしてほしい。(対応の経験、言語化に係る時間の確保など) <p>→お楽しみ企画で、プレゼンや学級対抗の場を取り入れる。</p>
		<p>3学期の重点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の気持ちや考えを文字で伝える。 ・ 学習のめあてや学期の目標の達成に向けて、その意図を知ることによって具体的な行動を考える。 ・ 「自分で考える」活動の場面を増やす。

(2) 「キャリア教育で育成したい資質・能力」の視点から学年間・学部間の指導内容のつながりの確認

① 「単元配列表」の作成と振り返り

学年で育成する資質・能力を確認した上で、学習指導要領と照らし合わせて作成した各教科等の学習計画の内容を一覧に列挙し、学ぶ内容や時期を検討した。学校行事や学年の中心単元を軸にして各教科等の単元のつながりを視点に整理するとともに、学習の進捗に応じて学習の継続や見直しを図った。

写真2 「単元配列表」

② 「生徒一人一人の将来の目指す姿に向けた、学年間・学部間の連携」についての話し合い

学期ごとの指導の振り返りの際に、学年間・学部間の連携の必要性について話題となり、次の意見が挙げられた。

- ・ 学部間で他学部の授業に入る場を設定し、まずは教師が他学部を知る機会をつくってはどうか。
- ・ 中学部である程度、高等部について学習してから入学すると比較の見通しをもって生活できる。また、中学部での学習や生徒の活躍を生かす場面の設定も効果がある。
- ・ 学部間で共通した指導の充実が重要である。また、学習習慣は全校で見通す必要がある。
- ・ 学級や学年での対応が、作業学習や部活動にも反映されるべきである。

(3) 協働的な学びの実現に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善

① 学部内授業研究会

普通科1年Dグループ（一般就労希望） 単元名「働く人から学ぼう①」 9月7日（水）

1) 学部内事前授業検討会

本単元では、校内で働いている大人、家族に仕事内容や、仕事と生活に対する考えや思いに関することを尋ね、見聞きした情報を友達と整理することを主な学習活動とする。身近な働く大人や友達と意見を交えることを通して、職業や進路についての知見を広げ、現在や将来の自分について考えを深めることをねらっている。

事前授業検討会では、以下の点について検討し、共有した。

○本単元の指導計画について

- ・ 単元の目的や本時のねらい、学習内容が精選されるよう、単元で目指す生徒の姿や育成を目指す力を明確にするとうい。
- ・ 職業科の学習の入り口として、生徒の興味・関心を学習の発端にし、生徒自身が「インタビューしたい」「会いたい」と思う人を対象に入れるとうい。

○将来と今をつなぐ学習の工夫について

- ・ 卒業生からも聞き取り、在学中にどんな段取りを踏んで現在に至るのかを知る機会をつくるとよい。より身近な存在として捉え、自分の将来や今を想定して思考できるのではないかと。
- ・ 「〇〇のために働きたい」と思えるだけでも十分である。楽しく働いているモデルを示し、将来に希望をもてるようにしてほしい。

○「協働的な学び」の場の工夫について

- ・ 「自分なりに考える」→互いに発表し合うことを通して「他者の考えに触れる」→「再度自分



写真3 身近な働く大人へのインタビュー活動

なりに考える」などの学ぶ過程を工夫し、活動を組み立てると思考の深化となる。

2) 授業提示

本時では、働くことについて自分たちが挙げた疑問点を身近な大人にインタビューし、聞き取った内容を「仕事／心／お金／余暇」の4つのカテゴリー分けて記して「働くモデル図」を作成した。生徒同士の協働的な学習を重視し、学校生活の様子を参考に2～3人の活動グループを組んで、安心して友達と関わる経験を重ねることで、意欲的に課題解決に向けて作業を分担したり、グループの発表事項について意見交換したりする姿が見られた。また、「自分は〇〇だから、～なところがよいと思った」など、他者の考えを自分と関連付けて意見を述べる発言もあり、自分の理想の姿や自分に必要な力について考える機会となった。



写真4 グループの友達とインタビューの内容を整理する

3) 授業協議と指導助言

【協議の概要】

協議では、①対象生徒の「期待する姿」を基に、何をどのように学んでいたかという事実の解釈を話し合い、②生徒の捉えを基に、「協働的な学び」につながる授業展開、学習環境、教材、教師の働き掛けなどについての改善策を挙げ、各グループから一押し案として全体で共有した。よかった点として、活動グループを固定して話し合い活動を繰り返したことや、話し合いの手段として付箋を活用したことが安心感をもって協働する姿に結び付いたことが挙げられた。

一方、「協働的な学び」につながる授業の組立てや教師の手立ての改善案として次のことが挙げられた。

- ・活動グループ内での役割を決めた方が、よりスムーズに課題解決に臨めるのではないかと。
- ・提示する情報量が多いとどこに着目して考えるべきか分からなくなるため、活用する情報を精選したり、思考の整理をサポートしたりする手立てが必要である。
- ・「理想の働き方」「おすすめポイント」「ベストワーカー」など様々な言葉があり、生徒の思考を整理するためには、授業で扱う言葉を精選することが重要である。
- ・考える観点を絞られるような発問や選択肢を提示するなどの工夫をすることで、個々の中での理想になりたい自分をもう少し具体化できるのではないかと。

【指導助言：菅原教諭（兼）教育専門監】

学習計画や活動の流れがパターン化され、活動の視覚的な手掛かりや協働的・対話的なグループワークなどもあり、多くの生徒が学習に見通しをもって主体的な様子が見られた。今後は、働くモデル図を活用した対話や資料にしてファイリングする、家族などに示してフィードバックをもらうなど、これまでの学習の振り返りとまとめを大事にしてほしい。また、校内・現場実習との関連を図り、健康管理や対人関係、基本的な生活習慣などの観点から、自分の課題解決について考える機会をつくるとよい。対象生徒については、グループ内の生徒からの確にフォローをもらい、付箋に書く、付箋に貼る、自分の意見を述べるなど、自分の役割を果たしていた。今後、自分が困ったときに自分から相談できる力を身に付けるよう練習を重ねてほしい。

【指導助言：相場教頭】

働くモデル図のシートは、生徒が自分の思考を整理し意見を出すためのよい手立てとなっていたが、本時のねらいを達成するための方法としてはウェイトが重すぎて、ねらいが希薄になってしま

った。今回の働くモデルは家族など身近な大人だったが、生徒たちが真摯に取り組んでいた。今回の題材を通して、個々の生徒の将来につなげてほしい。

4) まとめ

今回の授業研究会では、課題解決に向けて生徒同士が活発に意見交換をし、自己の思考の深化を促すための協働的な活動や場の組立について検討し、実際の生徒の学びの姿につながったであろう効果や改善案を学部職員で共有することができた。

4 まとめ

(1) 協働的な学びの充実に向けて (・成果/△課題・改善案)

①活動グループの工夫

- ・生徒主体の活動の導入段階として、学級や小グループで役割分担する活動を設定した。生徒同士で互いに自他のよさやできることを発揮できるような役割を分担するようになった。(1年)
- ・生徒の意見交換や役割が円滑に遂行するためのペアリングやグループ編成を意識するようになった。
- ・学習や活動の流れに見通しをもって意欲的に学習に向かえるよう、通年の単元を軸に各教科等横断的に学習を組み立てたり、学級や活動グループ等の役割や編成を工夫したりした。

△生徒同士の相互理解を広げるために、意図的に生徒への対応を控えて、生徒同士の関わりの機会を増やす。相手を尊重し友好的に関わる態度が育まれるよう、教師が積極的に手本を示す。

②個と集団での相乗効果を期待した活動の工夫

- ・集団の場で、自分の役割を遂行する生徒を即時評価し他生徒に見せた。
- ・実習の事後学習で、一人一人の実践と評価について意見交換する活動を設定した。
- ・集団の場で「体力」「コミュニケーション」の力が共通の課題であることを繰り返し取り上げた。
- ・生徒同士の行動が影響し合い、生徒の主体的な行動で学習が展開していくよう、生徒の興味・関心に即した活動や反復的な活動で授業を組み立てた。
- ・意欲的な活動を中心にした役割を任せ、そこに集団と同じ課題を付加して遂行する経験を重ね、また、任せられるものを「1人で→2人で」行い、個人から協働へ広がりのある流れを設定した。

△自己理解、自分の頑張りどころを知る学習の積み重ねが残る工夫。

△生徒同士が互いに高め合う経験ができるよう、学習グループ(同程度の発達段階)ごとのルールやマナーの設定と、定着を目指した一貫した指導の充実を図る。

△課題解決を目指し、生徒と教師が捉え方を共有して活動できるよう、授業で扱う言葉を精選する。

△生徒が達成を積み重ねて自己肯定感を高めるため、小さなことでも頑張り認めたり、前向きな言葉掛けをしたりする。責任感や思考の一貫性にもアプローチできるよう、思考の道筋が見える支援(フローチャート等)を行う。

③ICT機器の活用

- ・客観的な自己評価や他者評価で、正しい自己理解や互いの認め合いにつながるよう、学習の様子を記録した映像を使った振り返りを行った。

(2) 生徒の変容（協働的な学びの姿→他の生活や学習で生かされた姿）

- ・話し合いの中心となり、友達の意見や互いのよさ、できることを取り上げることが増えた。
- 経験の積み重ねにより学級での生徒主体の話し合い活動に慣れ、議題の視点が定まったり自分の意見を譲ったりする力が付いてきた。他の小集団の話し合いでも同じように行動できた。
- ・緊張感や不安感が強いが、友達の誘いに助けられながら発表の場に立てるようになった。
- ・役割がある場面で、欠席や場に向かえない友達の代役を進んで行う姿が増えた。
- 友達の存在やよさを認めた。支援を必要とする友達の実態や心情を考慮した発言、行動が増えた。
- ・教師から称賛や注意を受ける友達の姿を参考に行動する生徒が徐々に増え、集団全体に広がった。
- 生徒の実態に応じて、教師が具体的に行いの善悪をはっきり示すことで、生徒の社会的な知識、態度についての理解が進み、実践に結びついた。
- ・今、必要とされる資質・能力を意識して様々な学習に目的的に臨んだり、生徒同士が団結して集団の技術向上を目指し自主的に鍛錬のための活動に向かったりした。
- ・他者と経験の共有をして、自己の実践や考えについて意見交換をしたことで、「自分なりの考え」をまとめ、自己の経験の意味付けや自己理解につながった。

(3) 次年度に向けて

①目指す資質・能力を基に「協働的な学び」を視点にした授業づくり

学年ごとに検討した育成を目指す資質・能力を基に、「協働的な学び」に重点を置いた授業づくりを視点にした検討をすることで、より意識して授業計画や実践に生かすことにつながった。また、生徒同士が関わる場面を積極的に取り入れた授業づくりができ、生徒同士で意見を伝え合う姿や友達から学ぼうとする姿、周囲から影響を受けて自分から学習に向かう姿が見られた。一方、学習グループの構成メンバーによっては、協働的な学びになるように教師が介入する割合が多くなり、「教師対生徒」の状況になりかねないと危惧する意見も出された。

以上のことから、授業を組み立てる際の観点に「協働的な学び」を置くことで、生徒同士の話し合いの機会が充実し、生徒は様々な考え方や周囲の人の姿から「よりよい自分」を見付け、その実現を目指して「自ら考え行動する」ための資質・能力を育むことが期待できると考察できた。したがって、「協働的な学び」の充実を通じた授業づくりを積み重ねて効果的な取組を整理したい。

②授業づくりの充実に向けた効率的に話し合う研究体制の構築

今年度の「協働的な学び」の充実に向けた研究を通して、様々な内情をもった生徒がいる集団だからこそ、協働の力で生徒一人一人の情緒面を底上げし、よりよい自分に向かって自ら考え行動する力の育成が期待できると考察できた。また、事前授業検討会を経て授業研究会を行い、単元計画や授業づくり、生徒の見取り方、協働的な学びの実現に向けた効果的な教師の指導や教材の工夫について様々な意見を得て、授業者の授業実践に生かすことができた。そのために、学部の実情に合わせた研究の進め方や授業検討会のもち方を整備し、生徒の目指す姿に迫る効果的な授業づくりの充実や教師の指導・支援についての実践的で建設的な話し合いの機会を充実させたい。

高等部普通科 1 学年 D グループ 職業科学習指導案

日 時：令和 4 年 9 月 7 日（水）10:45～12:25
 場 所：高等部普通科 1 - 4 教室
 生 徒：男子 7 名、女子 4 名、計 11 名
 指導者：門間陽子（T1）、加藤真理子（T2）

1 題材名

働く人から学ぼう①

2 生徒と題材

(1) 生徒について

本グループは、本校中学部から進学した生徒が 1 名、その他 10 名は近隣の中学校から進学してきた生徒であり、高等部卒業後は全員が一般就労を希望している。中学生活では半数程度が不登校傾向にあり、自己肯定感が低く自信がもてないことから、自分の考えはあるが伝えることに消極的な生徒が多い集団である。将来に関しては、「〇〇関係の仕事に就きたい」「結婚したい」等の思いを話すか、「できれば働きたくない」と思っていたり、様々な活動に対して「面倒だ」という気持ちがあったりと、現在の自分と将来が結びついていない様子が見られる。

これまでの学校生活では、学習時に不安定になった際に、教師とのやりとりを通して、自己の困り感と向き合い、学習に向かう習慣づくりや継続して活動する経験を重ねてきている。また、学級では互いのよさや頑張りを紹介し合ったり、集団の中での役割を期待されたりする機会を通して、主体的に友達の活動を助ける姿が見られるようになってきた。話し合い活動では、4～5人の小集団で、目的が単純で具体的に提示されていると話しやすく、友達の発言に相づちをうったり友達の意見を参考に異なる意見や付け加えた意見を述べたりする様子が見られる。

(2) 題材設定理由

本題材は、高等部に入学し、自己理解や職業に関わる初めての学習である。6月の初めての校内実習では、働き続けることのたいへんさを実感したり、自己の頑張りや任された役割を達成できたことに喜びを感じたりと、働く力を試して自分を知る機会となった。

本題材では、校内で働く人や家族に仕事や生活に関するインタビューを行い、働くモデルとして得た情報を友達と一緒に整理する。学校生活や家庭生活を共にする身近な人から話を聞くことは、仕事、生活の実際や考え方に共感しやすく、自分の理想の将来の姿や生活を思い描きやすい。また、インタビューや情報をまとめる活動では、身近な大人や友達と自分の意見を交える機会を重ね、自分の思考を深化させることができると考える。活動を通して、進路実現や自己理解に向けた進路に関する情報収集と進路選択の幅を広げることをねらっている。後期は、地域で働く人を訪ね、見聞を広げたい。将来の自分の在り方や進路の見通しができれば、基礎的生活習慣や望ましいコミュニケーション能力等の必然性が芽生え、生活意欲や学習意欲が喚起されて、自ら学ぼうとする態度の育成が期待できると考える。

(3) 指導について

- ・課題の達成に向かって、役割を分担したり互いに安心して自分の考えを表現したりできるよう小グループやペアを組み、反復的に行う「働くモデル図」づくりでは、ペアを固定する。
- ・各々のインタビューで得た情報を視点を絞って整理したり、他者の意見を参考に自分の将来について考えたりできるよう、共通して使用できるシートを準備する。
- ・前時までの学習の成果物の提示や ICT 機器を活用し、各グループ、個人が得た情報を共有して生徒同士が意見や考えを活発に交流できる工夫をする。
- ・他者の様々な考えに触れ、楽しく自分の将来について考えを深めることができるよう、ペアでの活動の後に、更に全体で理想の働くモデルについて話し合う活動を設定する。

- ・生徒が自分の学習の成果を実感できるよう、題材の最初と最後の時間に、生徒が自己の思考の変化や学んだことを振り返る機会をつくる。

3 題材目標 知：知識及び技能 思：思考力・判断力・表現力等 学：学びに向かう力・人間性等

- (1) 身近で働く人がもつ仕事に対する考えや生活の実際について知る。知
- (2) 働くことについて、友達と互いに気付いたことや考えたことを言葉にして伝え合う。思
- (3) 身近で働いている人や友達と意見を交えることを通して、働くことについての考えを広げる。学

4 題材計画（総時間数 14 時間／本時 10. 11 時）

時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力 (知 思 学)
1 2	働くことの意義 ・ 自己理解 （自分の能力や適性） ・ 将来の希望 [職Aア(イ)]	将来に向かって頑張ることを考えよう ・ 自分の進路実現のために必要な力のうち、既存の力や高等部で高めたい力を考える。	・ 自分の将来を思い描き、進路実現に向けて努力しようとする気持ちをもつ。 思 学
3 4	働くことの意義 ・ 身近な仕事 ・ 働くことへの興味と関心 ・ 職業に関する基礎的な知識 [職Aア(イ)]	校内で働く人に聞こう ・ 自分のよさや将来の希望をもつことのよさを考える。 ・ 校内で働く人や職種を挙げ、仕事や生活に関する質問を考える。	・ 自分のよさや将来の希望が進路現や現在の自分の在り方と結びつくことを知る。 知 ・ 活動の目的を理解し、校内で働く人への仕事や生活に関する質問を考える。思 学
5 6	職業に関連する事項 ・ 働く場所と職種 ・ 場面に合った挨拶や言動 [職Aイ(ア)㊦、(イ)㊧]	校内で働く人に聞こう ・ 友達と話し合い、インタビューの役割を分担する。 ・ 校内で働く人を訪ね、質問したり要点をメモしたりしてインタビューする。	・ 自分の役割を遂行するためのやり方を自分から教師や友達に聞き、活動の準備をする。学 ・ 働く人の仕事内や生活に関することを知る。知
7 8	働くことの意義 ・ 職種や仕事内容の理解 ・ 労働と報酬の関係 健康管理・余暇 ・ 卒業後の生活 ・ 計画的な過ごし方（健康、お金、余暇の大切さ） [職Aイ(ア)(イ)、Cア]	働く人のモデルを集めよう ～校内編～ ・ 友達と一緒に校内で聞き取った内容を「働くモデル図」に書き込む。 ・ 働くことについて友達と意見交換し、理想の働くモデルを考える。	・ 働いている人の仕事に対する考えや生活の実際を知る。 知 ・ 働くモデルや友達との意見交換をもとに、理想の将来の姿について考えたことを述べる。思
9	働くことの意義 ・ 職種や仕事内容の理解 ・ 労働と報酬の関係 健康管理・余暇 ・ 卒業後の生活 ・ 計画的な過ごし方（健康、お金、余暇の大切さ） [職Aイ(ア)(イ)、Cア]	働く人のモデルを集めよう ～卒業生編～ ・ 友達と一緒に卒業生から聞き取った内容を「働くモデル図」に書き込む。 ・ 働くことについて友達と意見交換し、理想の働くモデルを考える。	・ 働いている人の仕事に対する考えや生活の実際を知る。 知 ・ 働くモデルや友達との意見交換をもとに、理想の将来の姿について考えたことを述べる。思

10 11	働くことの意義 ・職種や仕事内容の理解 ・労働と報酬の関係 健康管理・余暇 ・卒業後の生活 ・計画的な過ごし方（健康、お金、余暇の大切さ） [職Aイ(ア)(イ)、Cア]	働く人のモデルを集めよう ～家庭編～ ・友達と一緒に家族から聞き取った内容を「働くモデル図」に書き込む。 ・働くことについて友達と意見交換し、理想の働くモデルを考える。	・働いている人の仕事に対する考えや生活の実際を知る。 知 ・働くモデルや友達との意見交換をもとに、理想の将来の姿について考えたことを述べる。思
12 13	働くことの意義 ・自己理解 （自分の能力や適性） ・将来の希望 ・働くことへの興味と関心 [職Aア(ア)(イ)、イ(イ)㊦、Cア]	自分の将来の姿を考えよう ・働く人や友達の様々な考えを参考にして、自分の将来の理想像を「働くモデル図」に表す。 ・学習を振り返っての感想について意見交換する。	・身近で働く人をモデルにし、将来の自分の在り方について想像を広げる。思 学 ・学習を通して理解したことや気持ちの変化に気づき、自分の学びを知る。学

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近で働く人たちが抱いている仕事や生活に対する様々な考え方、在り方を知るとともに、それらが、心身共に健康な生活を支えていることを理解している。	・自己の将来の希望や高めたい力を基に、進路実現に必要な情報として働く人への質問内容を考える。 ・働くことについての身近な大人や友達の考えと自分の考えを擦り合わせて、自分の将来に参考にしたい内容を見付ける。	・働く人の考えや生活について興味をもってインタビューしたり、身近な大人をモデルにして自分の将来の姿を考えたりしようとしている。 ・「働くモデル図」の完成に向けて友達と協働したり、理想の働き方や考え方について友達に伝えたりしようとしている。

6 本時の計画（13時間中の10.11時）

（1）本時のねらい

- ①インタビューしたことをモデル図にまとめることで、働く人がもつ仕事に対する様々な考えや生の実際を知る。知
- ②働くモデルや友達との意見交換をもとに、理想の将来の姿についての考えを述べる。思

（2）生徒のねらいと手立て

※太枠は対象生徒

No.	氏名・性別	実態	個別のねらい	手立て
1	A (男)	・父親のように働きたいと考えている。 ・話し合いの場で自分から話すことは少ないが、機会を与えると自分の考えをみんなの前で話す。	・選んだ理由を伝えるなど話し合いながら、友達とおすすめポイントを決める。	・論点となるよう、事前に選んだ理由を述べることを伝える。 ・話がまとまらないときは、意見の共通点や相違点などを示す。
2	B (女)	・将来や働くことに、まだ具体的なイメージをもてずにいる。 ・指示理解は高く、慣れた	・いろいろな働き方があることを知り、まとめたモデル図から、自分がいいと感じたコメン	・話しやすい友達とペアにしたり、選んだコメントに同調したりする。 ・働き方についての様々

		友達には自分の考えを話し、活動を進める。	トを選ぶ。	な考え方が分かるよう、友達の発表に注目するよう言葉掛けをする。
3	C (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・世間一般的に働いて結婚したいと考えている。 ・考えたことを文章に表すことが、例示や聞き取りをすると、言葉にして書いたり話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のおすすめポイントを選び、友達に選んだ理由を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉にできるように、どんな所がいいと思ったのかなどを問い掛ける。
4	D (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望や自己実現に必要な力については漠然としたイメージである。 ・様々な活動や自分なりに考えて意見を出すことに関心が低い。友達の意見で参考にできるものをまねする等して、様々な考えに触れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見や話し方を参考にして、モデル図からおすすめポイントを選んで述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して活動できるように、モデル図作成の手順として、やるべき活動を1つずつ指示する。 ・モデル図の付箋から選択したり、その理由を考えたりするよう個別に問い掛ける。
5	E (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について具体的なイメージはまだない。 ・課題解決に意欲をもち、自分から友達に関連する話題を出して話し合いを進めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が選んだおすすめポイントやその理由に関心をもって聞いたり、自分のこととして考えたことを述べたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「関心をもって聞く」「じっくり考える」ことができるよう、ペアの活動の手順を示す。
6	F (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路や将来についてはまだ漠然としたイメージである。 ・自分の考えに当てはまらないと選択できないことがある。少しずつ周りの意見を取り入れるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、質問の項目を分けたり、おすすめポイントを決めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目分けがあいまいなインタビューの答えを取り上げ、話し合うように促したり、どうしてその項目になったか理由を問い掛けたりする。
7	G (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・動物関係の仕事に就きたいため、進学して資格を取りたいと考えている。 ・思ったことを素直に発言できるが、自分の意見を通そうとする所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を取り入れながら、おすすめポイントやベストワークマンを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見に注目するよう「○○さんは、どういう意見だった？」と問い掛ける。
8	H (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・車関係の仕事に就きたいと考えている。 ・言葉にして考えを伝えることが苦手で、話し合いの場で黙ることが多い。具体的例や選択肢から自分と近い意見を話すようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ理由を添えて、おすすめポイントについて考えたことを述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場で悩んでいる時は、友達の意見を聞くように促したり、自分が仕事をしているときにどれが参考になるのか問い掛けたりする。

9	I (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の希望はあるが、現在の自分とよりよい自分、将来の自分とのつながりへの意識が低い。 ・例示からの選択や本人の身近な状況を想定すると思考の視点が定まり、自分なりの意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成したモデル図の中から、関心をもった内容について理由や感想を添えて友達に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して活動できるよう、モデル図の作成の手順として「書く」「考える」など、やるべき活動を1つずつ指示する。 ・考えを整理できるよう、どんな所が良かったのかを問い掛ける。
10	J (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路実現に必要な力や高めたい力を学期や作業学習の目標に立てようとする。 ・問いの理解に時間を要するが、理由や次への展望を添えた考えを、自分の言葉で伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と自分の考えを擦り合わせて、ペアのおすすめポイントとしての意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と自分の意見をメモする時間を設ける。二人の意見の共通点や相違点に着目するよう言葉掛けし、意見を擦り合わせるポイントを示す。
11	K (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱い部分を克服したいとの意識が高く、教師に相談したり様々な学習の目標設定に生かそうとしたりする。 ・教師の助言を受けて、自分の意見を伝えたり友達に尋ねたりして話し合いを進めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が選んだおすすめポイントやその理由に関心をもって聞き、それを参考に自分なりの考えをまとめて述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やることを精選して友達と互いに協力して話し合いができるよう、モデル図の作成の手順を示す。 ・様々な考えがあることが分かるように、友達の意見に注目する言葉掛けをする。

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 囲み部分はねらいに対する手立て
10 5	1 前時の学習を振り返る。 ・「今日のベストワークマン」～校内、卒業生編～を振り返る。 2 本時の学習について知る。 めあて：働くモデルから理想の働き方や考え方を見付けよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への意欲を喚起できるよう、前時まで作成した「働くモデル図」や「今日のベストワークマン」を共有し、学習の成果や活動の見通しを伝える。 ・「働くモデル図」の作成の参考にできるよう、前時の活動の様子をペアごとに紹介し合う時間を設ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分にもできそう」「かつこいい大人」等の言葉を用いて、様々な働き方や考え方の中から共感できるものを探すことを伝える。 </div>
45	3 「働くモデル図」～家庭編を作成する。 ・インタビューの内容を「働くモデル図」に書く。 ①インタビューしたメモを付箋に書き写す。 ②付箋の内容を見合う。 ③付箋を4項目に分ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くモデル図」の完成に向けて役割分担や意見交換がスムーズにできるよう、前時までと同じペアで行う。 ・各々のインタビューで得た情報を視点を絞って整理できるよう、4項目(働き方/お金/余暇/心)を設けたシートを共有して使用する。 ・どの生徒も意欲的に活動できるよう、机間巡視し、ペアの進捗状況を称賛したり、効率のよい整理の

	開	④「おすすめポイント」を話し合う。	仕方があれば全体に紹介したりして、よいところを共有する。
15		4 「働くモデル図」を紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くモデル図」の中から共感できるものはないか、個々の進路実現に必要な力は何か等を尋ねて、話し合いのための生徒間の視点を共有する。 ・自信をもって発表に臨めるよう、ペアの話し合いの内容について共感したり称賛したりする。
15		5 「今日のベストワークマン」について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換する。 ・シートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の様々な考えに触れながら楽しく自分の将来について考えることができるよう、各ペアの「おすすめポイント」への賛同を表したり、個々の生徒の自由な見方で意見交換したりできる場を設定する。
10	まとめ	6 これまでの「今日のベストワークマン」を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル図の内容や生徒の思考を振り返る。 ・次時の学習活動を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ベストワークマン」の内容が自分のこれからの生活や学習で頑張ることにつながげると意識できるよう、個々の理想の将来の姿を想像して導いた成果であることを振り返る。 ・次時の学習のつながりがわかるよう、次時は「理想の働く自分図」を作成することを伝える。

(4) 評価

<生徒の評価>

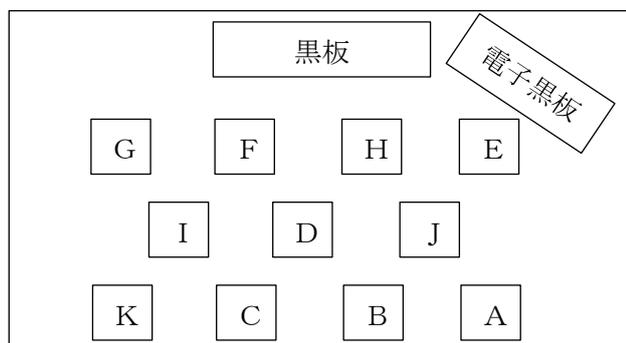
- ・モデル図のまとめ方が分かり、インタビューの内容を項目分けしながら記述できたか。
- ・インタビューの内容をもとに、友達と意見交換し、自分の進路選択に参考にしたい点についての考えを述べたか。

<教師の手立ての評価>

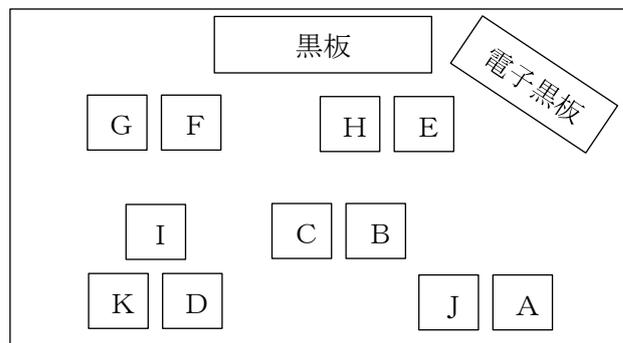
- ・学習のねらいにせまる活動展開と、生徒がやるべきことを理解し積極的に活動するための発問や教材を提示できたか。
- ・生徒同士が協働して活動し思考を広げられるような学習場面の設定やグループ編成ができたか。

(5) 配置図

<導入、まとめ時>



<展開時>



令和 4 年度 学部授業研究会（高等部普通科）授業概要シート

学年・学級	単元・題材名	場 所	指導者
高等部 普通科 1 年 Dグループ	職業科 働く人から学ぼう①	高等部普通科 1 年 4 組	門間 陽子 (T 1) 加藤真理子 (T 2)

<本時の授業について>

本時は、働くことについての知識を広げることが目的に、①インタビューしたことを「働くモデル図」にまとめることを通して、働く人がもつ仕事に対する様々な考えや生活の実際を知る、②働くモデルや友達との意見交換をもとに、理想の将来の姿について考えを述べることをねらっている。「働くモデル図」の作成は 2～3 人の小グループで行い、聞き取った情報の整理や友達と意見交換する中で、互いの話に共感したり自分の考えに取り入れたりしながら見識を深めていきたい。

生徒同士の話し合いがスムーズに進むための手立てとして、「仕事」「心」「お金」「余暇」の項目を立てて考える視点を絞ったり、身近な場面を取り上げて「自分なら…」と想定させたりする。また、考えることが難しい生徒がいた場合は、意見を述べた生徒からその考えに至った理由を聞く場面を設定し、友達の意見を参考にしたり取り入れたりして、協働的な学びを目指したい。生徒が自分の考えに自信をもてるよう、教師は生徒の考えに共感したり称賛したりしながら授業を進めていく。

<対象児童生徒について>

(1) 対象生徒の実態

- ・将来は他県に移住し、働きたいと考えている。本校に入学し陶芸班での作業学習を通して陶芸への関心が高まっている。現在の自分と将来像とのつながりは弱く、就労先や生活の仕方についての具体的な見通しはまだない段階である。
- ・課題達成までの過程に苦手な活動が入ると、やる気を欠いたり不穏な態度をとったりすることがある。自分の不調を教師に伝え、学習に向かうための気持ちの安定を図ろうとする姿勢が芽生えつつある。
- ・相手が話し終わらないうちに発言したり、自分の話をとめどなく話したりすることがある。
- ・板書の視写をはじめ、自分の考えを文章化して書くことに抵抗があり、課題に対してその場で思ったことを口頭で伝えようとしたり、書くことに集中できず教師の助言を聞き入れられなくなり課題を早く終わらせようとしたりすることがある。

(2) 本単元における育みたい資質能力

学びに向かう力・人間性等

- ・自分の将来を考える活動で、働く人や友達の意見に興味をもって聞いたり、互いの考えを交えたりして、自己の思考を広げようとする。
- ・単元の前後の自分の考えや学習に対する興味の程度を振り返り、自身の思考の変化や学んだことを知る。

知識及び技能

- ・身近で働く人の仕事に対する考えや生活の実際について知る。
- ・身近で働く人の働き方や考え方が、心身共に健康な生活を支えていることを理解している。



思考力・判断力・表現力等

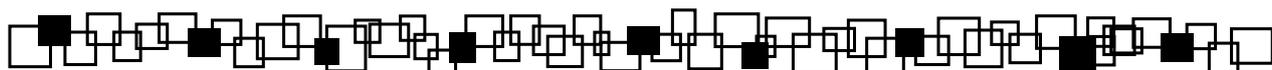
- ・聞いた内容を簡単な文章で表し、読みやすさを意識して丁寧に記述する。
- ・話の最後まで聞いたり友達の意見を参考にしたりして、気付いたことや考えたことを表現する。

(3) 対象生徒のこれまでの学習の様子と本時の期待する姿（本時のねらいを達成した姿）

これまでの学習の様子	期待する姿
<ul style="list-style-type: none"> ・具体例を挙げて自分の考えと近いものを選択させたり、本人の身近な状況を取り上げたりすることで思考の視点が定まり、自分なりの意見を表現できる。 ・苦手なことを言えるが、学習や生活の目標を立てることに苦戦した。現在の自分とよりよい自分の在り方や将来の自分とのつながりが弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くモデル図」の作成では、インタビューの内容を読み上げるなどして、友達が付箋に書く活動を手伝おうとしている。 ・身近な大人の働き方や考えの中から、自分の将来に参考にしたい理想の姿を見付け、理由を添えて友達に伝えている。

高等部

総合サービス科研究



<高等部総合サービス科 研究テーマ>

学びをよりよい思考、行動に生かす生徒の育成を目指した授業づくり ～専門教科「流通・サービス」での取組を通して～

1 学部研究テーマ設定理由

高等部総合サービス科では、昨年度、「職業科を中心とした系統性・発展性のある教育課程の工夫・改善～学びを活用して思考・行動する生徒の育成を目指した授業づくり～」を研究テーマに、職業を研究対象授業に設定し取り組んだ。成果として、職業科の指導内容を整理し、系統性・発展性のある計画となったことで、専門3教科の学習内容についても生徒のねらいの達成状況や進路希望に応じて、学習時期や学習内容が見直された。課題として各教科同士を関連付けながら、年度途中での見直しと改善を図ること、「学び」を自信につなげ、活用する場を意図的に設けることが挙げられた。

本学科の生徒は全員一般就労を目指している。自分の意見を伝えたり、他者の意見を受け入れたりを苦手としたり、経験不足な生徒も多い。また、「自分はできる」と認識していることが何度も課題として挙げられたり、同じ失敗を繰り返してしまったりと学びの定着が課題となっている。さらに、学習して覚えたことに自信をもって取り組めないという様子も見られる。

そこで、今年度は、知識・技能、学びの定着や、学習活動への目的意識の高揚、さらには思いやりのある言動や態度の育成を本研究の目的として考えた。生徒一人一人の職業的自立に向けて必要な力を育むことができるよう、取り上げる指導の形態は専門教科「流通・サービス」とし、縦横様々な他者との関わりが生じるように学習グループの設定を工夫したいと考えた。

2 研究仮説

育成を目指す資質・能力を基に、流通・サービス科での学習内容や学習活動の工夫を行い、協働的な学びを充実させることで、学びを活用し、よりよい思考・行動に生かす生徒の育成が図られるだろう。

3 取組の実際

(1) 資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と児童生徒の姿を通した目指す資質・能力の評価・改善

①学年ごとに「育成を目指す資質・能力」を作成

今年度は年度初めに、学年ごとに話合いの場を設け、学校教育目標やキャリア教育の観点から「学年で育てたい資質・能力表」(資料1)を作成し、学年で育てたい力を明確化し、その力を育むために、どの教科でどのような学習内容を取り扱うかを検討した。学期ごとに、設定した資質・能力がどの程度身に付いたか、学習活動や手立ては効果的だったか、再考すべきものはないか等を評価し、次の学期への改善点を話し合った。改めて資質・能力を見て評価することで、成果や2学期に向けての新たな取組の必要性や手立ての再考の機会になった。

(2)「キャリア教育で育成したい資質・能力」の視点から学年間・学部間の指導内容のつながりの確認

①年間学習計画表」の作成

総合サービス科では、「年間学習計画表」（資料2-1、2）を作成している。これは、学科で実施している全教科の1年間の学習内容、学習時期を一覧にし、見通しをもてるようにしたもので、これをもとに他教科と関連付け、他学年の学習内容を確認しながら学習計画を立てられる。昨年度の反省を基に見直された内容を、今年度の「年間学習計画表」に反映し、学科職員に配付し、年間指導計画の立案の参考にしている。また、今年度の取組を基に評価、改善していく。

(3) 協働的な学びの実現に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善

①学部内授業研究会（資料3-1、2、3）

第1・2学年 流通・サービス科

第3学年 流通・サービスA科

題材名「中高食堂清掃」 10月13日(木)

1) 学部内事前授業検討

本題材では、クルーとして清掃を行う食堂清掃を通し、1年生は「先輩から教えてもらいながら、資機材の正しい使い方や清掃手順を覚え、安全を意識した清掃をする」、2年生は、「1年生に教えることを通して、清掃手順を再確認し、質の高い清掃について考える」、3年生からは、全体を把握する大切さを学び、今後にかかそうとする」、3年生は、「1・2年生にどのように伝えるとよいのか、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、効率的な清掃について考え、実践しようとする」ことをねらいとしている。また、全体としては、「安全に気を付けながら、きれいに、時間内に清掃する」というめあてを清掃クルーで共有し、状況を見ながら、丁寧な言葉遣いで意思伝達をしたり、他者と協力したりすることをねらいとした題材である。



写真1 事前授業検討の様子

事前授業検討では、以下の点について検討し、共有した。

○「生徒同士で協力できるように生徒と生徒をつなぐ発言」について

- ・専門用語を覚えるだけでなく、言葉遣いを意識したコミュニケーションも覚えられるよう、上級生から下級生、友達同士でも丁寧な言葉遣いを意識する。今のレベルよりも上げていけるように、生徒同士の関わりをつなぐことを教師が意識すること。
- ・言語力が上がることは働く力につながる。文章の表面的な理解だけでなく、行間の理解につながる。「聞いたつもり」、「分かったつもり」にならず、この後の般化、自信につながるように、言葉の意味を理解できたかどうかを確認したり、分かる言葉が増えるような手立てを講じたりすることが必要。

○役割分担について

- ・一人ではやり遂げられない題材であり、連携が求められる。他学年との交流、グルーピングの工夫や言葉の伝わりを確認することも教師がつなぐ役割の一つである。
- ・役割分担では生徒一人一人が技術向上できるよう、苦手なことにも挑戦できるようにする。

○対象生徒について

- ・資機材の使い方について基礎基本をしっかりと身に付けられるようにしてほしい。本人が分かるように目標化をする。

2) 授業提示

授業では、それぞれが手順と役割分担表を参考に確認しながら食堂清掃を行い、時間内に食堂清掃を終えた。対象生徒が何をやっていいか迷っている場面があったが、先輩からのアドバイスを聞いたり、先輩の様子を見て同じようにやろうとしたりする姿が見られた。振り返りの改善会議では成果と課題を出し合い、効果的な役割分担について考えたり、次回に向けて対象生徒が「狭い箇所の清掃のやり方を知りたい」と話したりしていた。



写真2 先輩からのアドバイス

3) 授業協議と指導助言

【協議の概要】

協議では、「繰り返しの活動で、必要な知識や技術が定着し、自分たちで相談したり教え合ったりしながら作業を進めていた。」「生徒が、どの工程でどのように道具を使用して作業しているかを教師側で正しく見極めて課題を設定する必要がある。」「道具の使い方について生徒が納得する形で説明する場をもち、生徒自身が説明できるようになれば作業の効率も上がるのではないか。」などの意見が出た。また、振り返りの場面で、自分の動きを動画で見る、先輩からの助言をもらうなど、映像を用いて客観的に自分の姿を見る機会を設定してみてはどうかという改善案が出た。



写真3 授業研究会の様子

【指導助言：相場教頭】

活動がシステマ的で生徒が予想以上にやるべきことを理解していて、教師が声を掛けなくても自分たちで動ける段階にあると感じた。その中で一人一人の課題を正確に把握し、指導案の個別のねらいを適切に設定する必要がある。2、3年生に気付きを促す手立てとして動画等で振り返る時間があるとよいのではないか、自分のことを評価する、客観視する機会をもってほしい、入退室の挨拶の意味や、発する責任感を理解できるようにしてほしい。

【指導助言：齋藤小学部主事】

声掛けなど、活気があり、工程に沿って、2、3年生がリードして1年生がそれに従って、自分たちで考え、助け合いながら動いていた。誰かのために働く、自分たちが企画したことを試行錯誤して成功させる、という経験から挨拶がよくなったり、動きが速くなったり、授業を楽しみにしたりと活動を通しての生徒の心の成長が大事である。学校でしか教えられない力として「やる気」と「素直さ」をどのようにして付けていくかを考えていきたい。

4) まとめ

今回の授業研究会を経て、知識・技術を定着させるための手立てや1～3年生の合同学習時の協働的な学びにおける効果的な手立て、ねらいの設定の大切さについて学部職員で考える機会に

なった。

4 まとめ

(1) 協働的な学びの充実に向けて

協働的な学びの充実に向けて、流通・サービス科の学習に焦点を当て、次のような活動や手立ての工夫が挙げられた。

①学んだ知識や技術を集団の中で十分に活用するための単元計画や学習活動の工夫

知識や技術が定着するように、清掃で使用する資機材を一つ一つ取り上げ、基本的な使い方を覚えるために校内で個別に繰り返し練習する時間を設けることや外部講師を利用したり他学年の様子を見学したりして、資機材の使い方や清掃の手順等の知識や技術を確認する場を設けた。また、仲間と協力してこれまで学んだ知識や技術を使って場所や状況に応じた適切な方法で作業することをねらい、校内清掃実習や外部清掃実習で、繰り返しの活動場面を設定した。このことから、個別で学んだことを多様な人と場を活用して深められるように、単元計画を立てたり学習活動を工夫したりすることが効果的であることが分かった。また、知識や技術の定着や単元の目標に沿った個々のねらいを定期的に評価していくことが大切であると確認した。

②目標に沿って集団の中で自分の活動を振り返る機会の設定

活動中や活動後に他学年同士でペアやグループになり、お互いの様子を見たり意見を伝え合ったりする機会を設定した。その中で、先輩が自分の体験を基に後輩に教える、後輩が先輩に質問するなど、学年間での交流や同学年同士でも課題を解決し合う姿が見られた。また、個々の生徒の意見をまとめるツールとして「流サノート」の記入を行った。毎回の清掃後、今回の活動を通して学んだことや課題解決のポイント、次回の目標となる内容を記録するようにした。このことから、全員が主体的に振り返り活動に参加できるように画像などの ICT を活用することや、意見を出し合えるように、個々の実態に応じた話し合いの方法を工夫することが効果的であることが示された。また、生徒の言葉の意味理解を確認しながら、活動に対するめあてを生徒自身がしっかり意識していることが大切である。

(2) 生徒の変容

①多様な立場の人との関わりの中で

・新しい技術を身に付ける際に外部講師の方に基本的な使い方や手順等を教わった。定期的に来校してもらい、技術の評価、改善を行った。

→道具の使い方や体の動かし方が分かり、自分から質問するようになった。

・先輩が清掃の様子を見学したり、動画で見たりした。見る対象を絞り、何をしているか、話しているかをメモするようにした。

→清掃の進め方のイメージをもった。「道具の動かし方が速い」等技術の他にも「友達同士で声を掛け合っている」「協力して素早く正確な作業だ」「作業後に必ず報告している」等に気づき、「自分もできるようになりたい」と意欲を高めた。

・清掃の仕方を見たり教わったりするため、先輩と後輩でペアを組み、縦割りグループで活動を繰り返し設定した。



写真4 外部講師からの指導

- 分からないことを先輩に質問するようになった。自分の担当箇所が終わったら片付けるなど、先輩の動きを見本にして自分で考え、行動するようになった。
- 後輩に清掃のポイントを伝えたり、実際に清掃の仕方を演示したりすることを通して、清掃手順や点検方法を再確認した。
- 後輩に教えることで、伝え方や言葉遣いなど、コミュニケーションの取り方、相手に聞こえる声量の大切さや具体的に伝えるための手立てを学んだ。

②多様な場での経験を通して

- ・これまで学習してきた技術を使い、学級で食堂清掃に取り組んだ。毎回の清掃終了後に1日の成果と課題、次の目標設定を話し合う活動を繰り返した。
- よかったことや不安なことを友達に伝えたり、目標達成に向けて次の清掃への意識を高めたり、自分にできることを考えたりするようになった。友達の様子に目を向け、手伝う様子も見られ、「自分は難しいと感じたところを、先輩はどうやっているのだろう」とさらに自分の技術を高めることにつながる新たな課題を見付け出した。



写真5 外部清掃の様子

- ・毎時間外部清掃の目標や成果、課題をグループごとに話し合う場を設けた。

- 目標を意識した清掃につながった。話し合いでは、「水滴が残ってしまった」「挨拶や返事の声が小さかった」「資機材がお客様の邪魔になった」等、意見を出した。
- 成果と課題を明確にし、課題に対しての具体的な対処方法について考え、発表した。



写真6 改善会議で意見交換

- 友達と互いに評価し合うことで、気付いたことを述べたり、アドバイスされたことを意識して改善したりした。

- ・食堂清掃後は、振り返りと次時頑張ることを生徒同士で話し合う改善会議の時間を設定した。
- 先輩の動きを参考に「先輩から効率のよいモップの掛け方を教わったから実践したい」と次時への意欲を高めた。「確認が足りなかった」「声が小さかった」「ゴミが落ちていた」等、積極的に意見を出し、新たな課題を見つけた。

(3) 次年度に向けて

①「年間学習計画表」のさらなる活用

協働的な学びが充実したことで、個人の学びによって基本的な知識や技術を得た後、他者との関わりによって自分では気付かなかったことに気付いたり、さらに力を伸ばすために新たな目標を設定したりする等の変容が見られた。教科の学習では、物事の基本的な「見方・考え方」を学ぶことができる。教科で学んだ知識や技術が直接的に使われないとしても、このような学びを基礎にして生活や仕事の中で使える、思考力、判断力、表現力の基盤がつくられていくと考える。専門教科は、他学年の生徒と一緒に学習ができ、先輩や後輩との関わり、外部講師との関わり、地域との関わり等、多様な立場の人と関わる機会がある。年間学習計画表を活用してこの成果を他の専門教科にも広げていきたい。

②「育てたい資質・能力」の学科全員での共有

「学年で育てたい資質・能力」について学年の職員で話し合う時間を設けたことで、生徒一人一人について年度初めの実態や指導による成果や課題を共有し、長期休業中、年度末などに話し合いを重ね、授業づくりに生かすことができた。しかし、学科での共有には至らなかった。また、授業や生徒一人一人の目標や課題について教師同士で話し合う時間の確保が課題として挙げられた。生徒一人一人の目標や課題について、生徒の将来をイメージしながら学科職員で共有することで、それぞれの授業における個々のねらいだけでなく、各教科の授業を通して生徒にどんな資質・能力を育てていくか、より横断的な視点で捉えることができると考える。

学年で育てたい資質・能力 <総サ2年>

学部目標	学年で育てたい資質・能力		1 学 期 の 評 価
健康に生活する力と最後まで根気強くやり遂げる力を培い、働く体力を高める。	①心身の健康の保持 ②目的意識の明確化 ③継続する力	○ △ ○	①よくなりつつある。現在の指導を継続していきたい。欠席が減った。 ②できている人とそうでない人がいる。「就職したいから（お金がほしい）～する」と目的をもって学習に取り組んでいる生徒もいる。 ③朝清掃や1時間の中での集中力など継続に課題のある生徒もいる。
	2学期に向けて ①継続 ②意味をもたせる。「やってみてできなかつたらやめたら」と提案する。 ③就職のために、実習評価から必要性を伝え、チェックする。朝清掃や凡事徹底について、目的を確認する、時間を決めて全員でやるのはどうか。自分で気付いて行動できるような手立ての工夫（ランキング等）		
互いのよさを認め合い、協力しながら活動する態度を育てる。	①思いやりのある言動、態度 ②礼儀やルールやマナーを守る。 ③様々なグループでの活動	○ ○ ○	①1年生に対する態度が強めな生徒がいる。 ②自分がやらないのに、人がやらないとすぐ言う。 ③どのグループになっても授業の中では協力しながらできている。たてわりの活動、グルーピングに配慮が必要。
	2学期に向けて ①HRで話題にする。友達や他のTから称賛される場の設定 ②学年の道徳の実施。いくつか空きに向けて準備する？ ③今後も継続。たてわりのグループをちょいちょいいじるか。 流サ等、得意なことを教える状況ではできる。		
主体的に考え判断して行動し、自分の思いや考えを相手に伝える力を育てる。	2学期に向けて ①自分の気持ちを伝える。 ②相手の思いや考えを受け入れる。 ③卒業後を意識した言動、態度	◎ ○ ○	①自分の考えや感じたことを話せるようになってきた。(長く話してしまうこともあるが) ②自分が疲れていると相手にきつくしてしまいますこともある。 ③意識はしている。
	①継続 ②健康とも関連して自覚させる指導（相談）する。 ③継続		

◎できた ○よくなりつつある、今の指導を継続 △指導の再考や教科が必要か

令和4年度 高等部総合サービス科 専門教科年間学習計画表

■ 題材名 ・ 学習内容

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
主な行事	入学式	高等部体育祭	校内実習・現場実習	障害者技能競技大会	夏季休業	特総体・宿泊学習、修学旅行	職業教育フェア	栗田祭・現場実習		冬季休業、雪まつり		卒業式	
1年	■家庭に関する仕事 ・家庭の意味 ・家族に関する仕事 ・ランチクリの見学 ■掃除に関する仕事(4月～6月) ・身だしなみ(手洗い、消毒、エプロン、髪、爪等) ・8大接客用語・テーブルセッティング ・水の準備 ・グラスの持ち方 ・トレンチの持ち方 ・水の提供・テーブルの片付け	■接客に関する仕事(4月～6月) ・オーダーの伝え方 ・食事の提供 ・コーヒーの提供 ・ソフトドリンクの提供 ・下膳 ・接客通し練習	■調理に関する仕事(6月～8月) ・身だしなみ(厨房着の着方、手洗い、消毒、手袋の装着) ・調理台の消毒 ・湯消毒 ・ダスターの使い分け ・調理器具の使い方(包丁、計量スプーン、計量カップ、はかり等) ・食材の切り方	■調理に関する仕事 ・お米の研ぎ方 ・食器、調理器具の洗い方、熱湯消毒 ・食器の拭き方 ・シンクの洗い方 ・厨房着の洗濯、干し方			■接客に関する仕事 ・接客通し練習 ・ランチクリの見学(体験)	■調理に関する仕事 ・調理実習					
	■オリエンテーション ・飲食、提供コースの学習について ・目標設定 ■安全と衛生 ・手洗い ・正しい身だしなみ ・安全、衛生的な調理(食中毒) ・厨房の清掃 ・ホール、トイレの清掃 ■態度と言葉遣い ・正しいあいさつと言葉遣い ・正しい姿勢や振る舞い方 ■校内飲食店実習 【厨房業務】・食器、調理器具の場所、基本的な扱い・食器洗浄、片付け・炊飯、ご飯の盛り付け・オーダー票の見方 【ホール業務】・野菜的の洗浄・包丁を扱う際の姿勢、持ち方・盛り付け 【ホール業務】・ホール清掃・テーブルセッティング・オーダーの取り方 ・注文品の提供・後片付け・接客用語、表情	■技能競技大会に向けて ・競技課題と注意事項 ・ウェイトングの姿勢 ・グラスの運び方と提供の仕方 ・注文の取り方 ・テーブルの片付け、セッティング ■基礎実習 I ・包丁技術 I (半月切り、いちよう切り、千切り、小口切り) ・軽量器具の使い方(軽量スプーン、カップ、はかり) ■基礎調理検定 I ①	■オリエンテーション ・飲食、提供コースの学習について ・目標設定 ■安全と衛生 ・手洗い ・正しい身だしなみ ・安全、衛生的な調理(食中毒) ・厨房の清掃 ・ホール、トイレの清掃 ■態度と言葉遣い ・正しいあいさつと言葉遣い ・正しい姿勢や振る舞い方 ■校内飲食店実習 【厨房業務】・食器、調理器具の場所、基本的な扱い・食器洗浄、片付け・炊飯、ご飯の盛り付け・オーダー票の見方 【ホール業務】・野菜的の洗浄・包丁を扱う際の姿勢、持ち方・盛り付け 【ホール業務】・ホール清掃・テーブルセッティング・オーダーの取り方 ・注文品の提供・後片付け・接客用語、表情	■基礎実習 I ・包丁技術 I (半月切り、いちよう切り、千切り、小口切り) ・軽量器具の使い方(軽量スプーン、カップ、はかり) ■基礎調理検定 I ②			■校内飲食店実習 【厨房業務】・調理計画表に沿った調理 ・高す、蒸る、炒める、焼く等の基本的な調理法と調理道具の扱い 【ホール業務】・店舗前業務表に沿った清掃、準備・安全な接客 ・お客様の立場に立った接客		12月～1月 ■基礎実習 II ・包丁技術 II (みじん切り、サイの目切り、短冊切り、リンゴの皮むき、玉ねぎの皮むき) ■基礎調理検定 II ①	12月～1月 ■校内飲食店実習 【厨房業務】・調理計画表に沿った調理 ・高す、蒸る、炒める、焼く等の基本的な調理法と調理道具の扱い 【ホール業務】・店舗前業務表に沿った清掃、準備・安全な接客	■校内飲食店実習 【営業に向けた実務】 ・火曜日の日房清掃・メニュー決め ・在庫チェック・発注書の作成、送信 ・調理計画書の作成・技術向上講習 ・産学(衛生講話、消毒液の作り方など) 【厨房業務】 ・営業前の厨房清掃 ・メニュー作成 ・材料表の作成 ・営業後の厨房清掃 ・接客 ・衛生管理記録表への記入 【ホール業務】 ・ホール清掃 ・パントリーの準備、片付け ・テーブルの在庫チェック ・衛生管理記録表への記入 【トイレ業務】 ・営業中の会計 ・氏名住所記入の案内 ・営業後の会計処理 ・作業製品の販売 ・営業日の貼り替え ・メニュー表の貼り替え・看板の作成 ・スタンプカードの作成・来店者名簿の作成 ・A型看板の作成・営業記録(廊下掲示)の作成 ・縫製作業(スタンプの裏面)		
	■オリエンテーション ・家庭の学習について ・目標設定 ■安全と衛生 ・安全、衛生的な調理(食中毒等) ・厨房の清掃 ・洗剤の種類 ・ホール、トイレの清掃 ■調理計画 ・メニューの決め方 ・調理計画の立て方	■技能競技大会に向けて ・競技課題と注意事項 ・ウェイトングの姿勢 ・グラスの運び方と提供の仕方 ・注文の取り方 ・テーブルの片付け、セッティング ■基礎実習 I ・包丁技術 I (半月切り、いちよう切り、千切り、小口切り) ・軽量器具の使い方(軽量スプーン、カップ、はかり) ■基礎調理検定 I ①	4月～2月(営業がない週の水、金) ■調理技術講習 ・包丁技術(半月切り、いちよう切り、大根、にんじん、千切り、ちくわ、小口切り、長ネギ、小ネギ、皮むき等)・玉ねぎ、にんじん、大根等										
■流通・サービスに関する仕事 ・「流通」「サービス」の意味 ・「流通」に関する仕事 ・「サービス」に関する仕事 ・挨拶の動作と5S環境 ・ラジカセ実習 ■タオルの使い方 ・タオルのたたみ方 ・タオルの折り方 ・机の拭き方 ・タオル検定	■ゲストクロスを使った床面清掃 ・用具の名称と機能 ・用具の取り扱い方と留意点 ・モップの扱い方(手作業) ・モップの扱い方(電動モップ) ・モップの扱い方と片付け方 ・床面の除菌方法 ・ダストクロス検定	■室内清掃 ・用具の名称と機能 ・用具の取り扱い方と留意点 ・ウォンナーの準備と片付け方 ・ウォンナーの扱い方 ・モップの扱い方と片付け方 ・床面の拭き上げ方法 ・モップ検定	■モップを使った床面清掃 ・用具の名称と機能 ・用具の取り扱い方と留意点 ・モップの扱い方(手作業) ・モップの扱い方(電動モップ) ・モップの扱い方と片付け方 ・床面の拭き上げ方法 ・モップ検定	■夏季清掃実習(常置制) ・椅子とテーブルの運搬作業の留意点 ・食室内のテーブル、椅子等の運搬方法 ・床面の除菌と拭き上げ ・ワックスの塗布の仕方	■前回の学習のまとめ ・事務所清掃に必要な資機材と準備方法 ・事務所清掃の手順と留意点 ・事務所清掃検定	■自在ぼうきを使った床面清掃 ・用具の名称と機能 ・用具の取り扱い方と留意点 ・自在ぼうきの使い方と片付け方 ・床面の除菌方法 ・トイレ清掃検定	■トイレ清掃 ・用具、洗剤の名称と機能 ・用具、洗剤の取り扱い方と留意点 ・準備の仕方と片付け方 ・トイレ清掃の方法と手順 ・トイレ清掃検定	■掃除機を使ったカーペット清掃 ・掃除機の種類と機能 ・掃除機の取り扱い方と留意点 ・掃除機の扱い方と片付け方 ・床面の除菌方法 ・掃除機検定	■ポリッシャーの使い方 ・用具の名称と機能 ・用具の取り扱い方と留意点 ・ポリッシャーの移動の仕方 ・ポリッシャーの機能とハンドルの種類 ・ポリッシャーの操作(位置移動) ・ポリッシャーの操作(横移動) ・ポリッシャー検定	■フロアスクワイジーの使い方 ・用具の名称と機能 ・用具の取り扱い方と留意点 ・フロアスクワイジーの移動の仕方と片付け方 ・フロアスクワイジーの機能とハンドルの種類 ・フロアスクワイジーの操作(横移動) ・フロアスクワイジー検定	■卒業式に向けて ・校長室、面談室の窓清掃とカーペット清掃 ・体育館裏下りの窓清掃 ・生徒用玄関、職員玄関の窓清掃 ・その他依頼箇所に応じた清掃		
■洗剤の取り扱い方 ・清掃用洗剤の種類と性能 ・洗浄効果を高めるための洗剤の選定 ・洗剤と漂白剤の性能 ・洗剤等取り扱い上の留意点 ■1回(1回) ■校内清掃実習～校内定期清掃～ ・校内清掃の目的 ・校内の廊下、トイレ、階段の配置 ・清掃指示書の見方と資機材の準備 ・各清掃場所の清掃方法と清掃手順	■技能競技大会に向けて ・競技課題と注意事項 ・使用する資機材 ・強性床清掃及び机上清掃の作業工程 ・各工種における作業方法と作業手順 ■4月～10月 ■校外清掃実習 ・北都銀行 ・日新児童館 ・日新児童館 ・つしんぼ学童 ・ローン大川町店、日吉町店 ・ファミマ町店、日吉町店 ・マックスパリュEX	4月～10月 ■校外清掃実習 ・北都銀行 ・日新児童館 ・日新児童館 ・つしんぼ学童 ・ローン大川町店、日吉町店 ・ファミマ町店、日吉町店 ・マックスパリュEX	■夏季清掃実習(常置制) ・食室内のテーブル、椅子等の搬出方法 ・食室内のテーブル、椅子等の搬入方法 ・床面洗浄の清掃手順と役割分担 ・必要な資機材と準備方法 ・効率的な作業手順 ・床清掃時の効果的な塗布方法 ・安全と効率を意図した意思伝達	■夏季清掃実習(常置制) ・食室内のテーブル、椅子等の搬出方法 ・食室内のテーブル、椅子等の搬入方法 ・床面洗浄の清掃手順と役割分担 ・必要な資機材と準備方法 ・効率的な作業手順 ・床清掃時の効果的な塗布方法 ・安全と効率を意図した意思伝達	5月～11月 ■車間清掃実習 ・車間清掃の意義 ・必要な資機材と準備方法 ・車間の特長と留意点 ・清掃カードの見方、役割分担の仕方 ・作業工程と清掃手順 ・それぞれの役割と作業内容 ・安全に配慮した作業方法	■栗田祭に向けて ・校長室、面談室の窓清掃 ・体育館裏下りの窓清掃 ・生徒用玄関、職員玄関の窓清掃 ・その他依頼箇所に応じた清掃 ・用具の運搬と片付け ・安全に配慮した勤続と声掛け ■カーペットのしみ抜き ・水性汚れの取り方 ・油性汚れの取り方	5月～2月 ■客室清掃実習 ・客室清掃の意義 ・アメニティの準備(タオルたたみ) ・清掃前の点検と片付け ・仕上がりや効率を意図した作業方法 ・ユニットバスの清掃方法 ・安全と効率に配慮した作業方法	5月～2月 ■客室清掃実習 ・客室清掃の意義 ・アメニティの準備(タオルたたみ) ・清掃前の点検と片付け ・仕上がりや効率を意図した作業方法 ・ユニットバスの清掃方法 ・安全と効率に配慮した作業方法	月に1回(1回) ■校内清掃実習～ランチクリポリッシャー清掃～ ・ランチクリ清掃の目的 ・必要な資機材と準備方法 ・手順書の見方、役割分担の仕方 ・それぞれの役割と作業内容 ・ポリッシャーの操作(位置移動) ・ポリッシャーの操作(横移動) ・安全に配慮した作業方法	月に1回(1回) ■校外清掃実習～ボンカフェ清掃～ ・ボンカフェ清掃の意義 ・状況に応じた資機材の準備 ・効率のよい搬出と搬入の仕方 ・ポリッシャーの操作(反時計回り) ・仕上がりや効率を意図した作業方法 ・安全と効率を意図した意思伝達	■事務作業 ・資機材管理 ・事務用品管理 ・図書管理 ・学校報の丁合い・配		
■洗剤の取り扱い方 ・清掃用洗剤の種類と性能 ・洗浄効果を高めるための洗剤の選定 ・洗剤と漂白剤の性能 ・洗剤等取り扱い上の留意点 ■1回(1回) ■校内清掃実習～校内定期清掃～ ・校内清掃の意義 ・状況に応じた資機材の準備 ・仕上がりや効率を意図した作業方法	■技能競技大会に向けて ・競技課題と注意事項 ・使用する資機材 ・強性床清掃及び机上清掃の作業工程 ・各工種における作業方法と作業手順 4月～10月 ■校外清掃実習 ・北都銀行 ・日新児童館 ・日新児童館 ・つしんぼ学童 ・ローン大川町店、日吉町店 ・ファミマ町店、日吉町店 ・マックスパリュEX	4月～10月 ■校外清掃実習 ・北都銀行 ・日新児童館 ・日新児童館 ・つしんぼ学童 ・ローン大川町店、日吉町店 ・ファミマ町店、日吉町店 ・マックスパリュEX	■夏季清掃実習(常置制) ・食室内のテーブル、椅子等の搬出方法 ・食室内のテーブル、椅子等の搬入方法 ・床面洗浄の清掃手順と役割分担 ・必要な資機材と準備方法 ・効率的な作業手順 ・床清掃時の効果的な塗布方法 ・安全と効率を意図した意思伝達	■夏季清掃実習(常置制) ・食室内のテーブル、椅子等の搬出方法 ・食室内のテーブル、椅子等の搬入方法 ・床面洗浄の清掃手順と役割分担 ・必要な資機材と準備方法 ・効率的な作業手順 ・床清掃時の効果的な塗布方法 ・安全と効率を意図した意思伝達	5月～11月 ■車間清掃実習 ・車間清掃の意義 ・必要な資機材と準備方法 ・車間の特長と留意点 ・清掃カードの見方、役割分担の仕方 ・作業工程と清掃手順 ・それぞれの役割と作業内容 ・仕上がりや効率を意図した作業方法	■栗田祭に向けて ・校長室、面談室の窓清掃 ・体育館裏下りの窓清掃 ・生徒用玄関、職員玄関の窓清掃 ・その他依頼箇所に応じた清掃 ・用具の運搬と片付け ・安全に配慮した勤続と声掛け ■カーペットのしみ抜き ・水性汚れの取り方 ・油性汚れの取り方	5月～2月 ■客室清掃実習 ・客室清掃の意義 ・アメニティの準備(タオルたたみ) ・清掃前の点検と片付け ・仕上がりや効率を意図した作業方法 ・ユニットバスの清掃方法 ・安全と効率に配慮した作業方法	5月～2月 ■客室清掃実習 ・客室清掃の意義 ・アメニティの準備(タオルたたみ) ・清掃前の点検と片付け ・仕上がりや効率を意図した作業方法 ・ユニットバスの清掃方法 ・安全と効率に配慮した作業方法	月に1回(1回) ■校内清掃実習～ランチクリポリッシャー清掃～ ・ランチクリ清掃の目的 ・必要な資機材と準備方法 ・手順書の見方、役割分担の仕方 ・それぞれの役割と作業内容 ・ポリッシャーの操作(位置移動) ・ポリッシャーの操作(横移動) ・安全に配慮した作業方法	月に1回(1回) ■校外清掃実習～ボンカフェ清掃～ ・ボンカフェ清掃の意義 ・状況に応じた資機材の準備 ・効率のよい搬出と搬入の仕方 ・ポリッシャーの操作(反時計回り) ・仕上がりや効率を意図した作業方法 ・安全と効率を意図した意思伝達	■事務作業 ・資機材管理 ・事務用品管理 ・図書管理 ・学校報の丁合い・配		
■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	■1年間のまとめ ・身に付いた技術と知識 ・自分に合った学び方、身に付け方	
■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について		
■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について		
■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について		
■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について		
■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目) ■電話対応 II ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(2回目) ■顧客管理(外部講師) ・データベースの活用について	■電話対応 I ・電話のかけ方 ・電話対応の評価(1回目							

高等部総合サービス科 1・2年 流通・サービス科 学習指導案
3年 流通・サービスA科 学習指導案

日 時：令和4年10月13日（木）13:20～15:00

場 所：中高食堂、流・サ実習室

生 徒：男子5名、女子1名、計6名（食堂清掃担当）

指導者：中野貴洋（T1）、竹場久美（T2）

1 題材名

中高食堂清掃

2 児童生徒と題材

(1) 生徒について

本学習グループは、後期から、3年生の流通・サービスAの授業として2名、2年生の流通・サービスの授業として5名、1年生の流通・サービスの授業として6名、合計13名で構成される。

1回ごとに、生徒のねらいに応じて、クルーの組み合わせを変更し、おおよそ6～7名編成で食堂清掃、残りの生徒は校内清掃を分担して行っている。

食堂清掃については、1年生は5月の校内実習で行った。2・3年生は、毎週金曜日に行っており、毎回、生徒構成は変わるが、お互いに意思疎通をしながら協力して清掃している。

食堂清掃における各学年の実態は以下のとおりである。

- 1年生 食堂清掃の手順について、自分が担当した工程は理解している。2、3年生と一緒に食堂清掃するのは初めてとなる。
- 2年生 食堂清掃の手順について、全ての工程を理解しており、3年生の指示を受け入れるなど協力しながら清掃してきた。1年生との食堂清掃は初めてとなる。
- 3年生 食堂清掃の手順について、全ての工程を理解しており、臨機応変な対応もでき、2年生に指示を出すなど協力しながら清掃してきた。1年生との食堂清掃は初めてとなる。

(2) 題材設定理由

食堂清掃は、一人で行う清掃ではなく、クルーとして清掃を行うため、

1年生は、先輩から教えてもらう経験を積み重ね、清掃手順を覚え、安全を意識した清掃をしようとする態度を育てる。また、資機材の正しい使い方を身に付ける。

2年生は、1年生に教えることを通して、清掃手順を再確認し、質の高い清掃について考える態度を育て、3年生からは、全体を把握する大切さを学び、今後に生かそうとする態度を高める。

3年生は、1・2年生にどのように伝えようか、コミュニケーションの能力の向上を図るとともに、効率的な清掃について考え、実践しようとする態度を育てる。

全体としては、「安全に気を付けながら、きれいに、時間内に清掃する」という目的を清掃クルーで共有し、状況を見ながら、丁寧な言葉遣いで意思伝達をしたり、他者と協力したりする、今後の企業就労実現に向けて、他者と協働しながら仕事を進める態度や仕事への責任感を育むことができることを考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

- ・ 食堂清掃の手順と役割が分かるよう、作業計画表（食堂清掃の【手順】と【役割】）を準備する。
- ・ 生徒が主体的に清掃するよう、作業計画表の役割について2・3年生が中心となって話し合いするとともに、生徒のねらいに応じた役割を計画する。
- ・ 今日の目標「安全に作業する」を意識して清掃できるよう、具体的な行動（言葉を掛け合う、音を出さない等）は何かについて、生徒に問い掛け、確認する。
- ・ 生徒同士で言葉を掛け合いながら清掃できるよう、清掃手順の間違いや遅れがあった場合は、主に3年生に伝えたり、今日の目標を全体に問い掛けたりする。
- ・ 清掃後の振り返りができるよう、清掃中に適宜、成果について理由を付けて称賛したり、なぜ課題となったのかを問い掛けたりする。
- ・ 振り返りにおいて、成果と課題、改善点を明確にすることができるよう、意見交換しやすい雰囲気

気を作ると共に、板書を工夫する。

・校内清掃を担当する生徒は、1・2年生縦割りの3グループに分かれ、小学部棟等の清掃を行う。

3 題材目標 知：知識及び技能 思：思考力・判断力・表現力等 学：学びに向かう力・人間性等

(1) 食堂清掃に必要な資機材の名称やその正しい使い方、自分の役割が分かる。知

(2) 自分や周囲の安全、衛生に気を付け、意思疎通を図りながら、効率よく清掃する。思

(3) クルー内での役割を理解し、意見交換をしながら、解決策を考え、実践しようとする。学

4 題材計画（総時間数 12 時間／本時 1・2 時）

時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力(知 思 学)
2	食堂清掃 ・目標設定 ・資機材準備 ・除塵、洗浄、拭き上げ、点検作業 ・資機材片付け 改善会議 ・成果と課題、解決策	・2クルーに分かれ、役割分担をしながら、食堂清掃する。 ・「安全」、「効率」、「質」を意識して清掃する。 ・意見交換をしながら、成果と課題を明確にし、解決策を話し合う。	・自分から必要な資機材の準備、片付けを行う。知 ・食堂清掃の手順を守り、互いに言葉を掛け合いながら清掃する。思 ・次時において、解決策を生かして清掃しようとする。学

※2時間を1回とし、6回実施する。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・必要な資機材を準備したり、元の場所に片付けたりする ・食堂清掃の手順、役割が分かる。	・清掃状況に応じて、自分の役割を調整する。 ・自分の考えをまとめ、相手に伝えるように話したり、相手の発言を受け入れたりする。	・「安全な作業」を意識して、言葉を掛け合う等して清掃しようとする。 ・解決策を考え、次時の清掃に生かそうとする。

6 本時の計画（12時中の1・2時）

(1) 本時のねらい

①「安全な作業」を意識しながら、食堂清掃の手順や役割を守って清掃する。知

②生徒同士で協力しながら清掃したり、改善会議で意見を発表したりする。思

(2) 生徒のねらいと手立て（太枠は対象生徒）

No	氏名・性別	実 態	個別のねらい	手立て
1	A	・ダストクロスやモップの基本の使い方が分かり、清掃できるようになってきている。	・担当クルーや役割が分かり、手順通りに清掃したり、先輩からのアドバイスを聞いたりしながら清掃する。	・清掃手順を問い掛けたり、困ったら先輩に聞くよう促したりする。
2	B 1年男	・ダストクロスやモップの基本の使い方が定着してきている。 ・分からないことを自分から質問することが増えてきた。	・資機材の基本の持ち方や操作の仕方を守りながら清掃する。 ・分からないことをすぐに聞いたり、質問したりする。	・清掃手順を問い掛けたり、分からないときに確認する担当の先輩を決めたりする。 ・事前に、何が、どのように等、具体的に質問するよう確認する。
3	C 2年男	・自分の役割が分かり、周りの状況に応じた対応ができてきている。	・先輩に進行具合を確認したり、後輩の良い点を発表したりする。	・清掃状況を問い掛けたり、後輩の良い点を問い掛けたりする。

4	D 2年女	・自分の役割が分かり、周りの状況に気付くようになってきている。	・後輩に清掃手順を教えたり、手助けしたりする。	・担当する後輩を決め、清掃手順を確認するよう促す。
5	E 3年男	・清掃状況に応じて、後輩に指示を出すだけになることがある。	・質の高い清掃を意識できるよう、後輩と一緒に清掃する。	・清掃の見本を提示するよう促したり、理由を問い掛けたりする。
6	F 3年男	・周りの状況にいち早く気付き、率先して清掃する	・後輩に清掃の指示を出したり、助言したりする。	・事前に具体的な指示の出し方や声量について確認する。

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動		教師の働き掛け、指導上の留意点 囲み部分はねらいに対する手立て
13:20 (15)	導入	1 中高食堂に移動する。 2 本時の目標について確認する。	・「安全な作業」を意識できるよう、具体的な行動（音を出さない、走らない、言葉を掛け合う等）は何かについて、生徒に問い掛ける。
13:35 (60)		3 中高食堂清掃 ※別紙1参照	・自分で作業手順と役割を適宜確認できるよう、作業計画表を出入口に掲示し、適宜確認するよう促す。 ・生徒同士で協力して清掃できるよう、どうすればよいか問い掛ける、理由を付けて説明する、生徒と生徒をつなぐ発言をする。 ・清掃後に振り返りできるよう、成果について理由を付けて称賛したり、なぜ課題となっているのかを問い掛けたりする。
14:35 (5)	展開	4 第2校舎に移動する。	・各活動内容の作業時刻、全体の作業時間について計測する。
14:40 (10)		5 資機材を片付ける。	・2年生が中心となって片付けするよう、事前に片付けリーダーを設定する。
14:50 (10) 15:00		6 振り返りをする。 ・改善会議 ・流サノートへの記入	・成果と課題、改善点を明確にすることができるよう、意見交換しやすい雰囲気をつくる。 ・次時への意欲を高めることができるよう、流サノートへのコメントは、称賛と助言を中心とした記載をする。
15:00	まとめ		

(4) 評価

<児童生徒の評価>

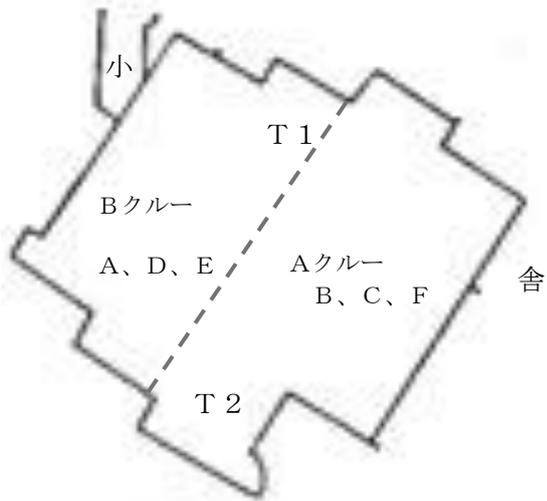
- ・椅子の音を立てない、自分の役割を果たす等、「安全な作業」を意識して作業できていたか。
- ・生徒同士で言葉を掛け合いながら清掃したり、次時の清掃に向けて建設的な意見交換をしたりしていたか。

<教師の手立ての評価>

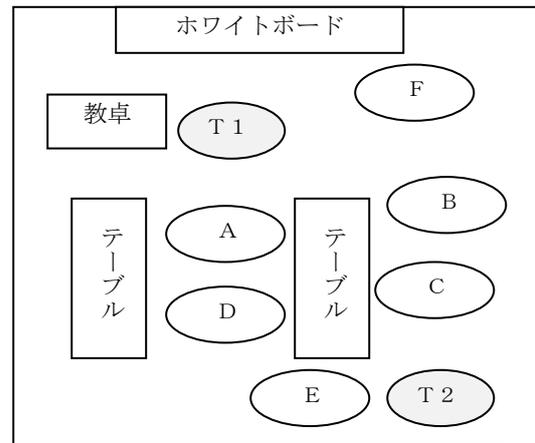
- ・「安全な作業」を意識して清掃するための言葉掛けや掲示物は適切であったか。
- ・生徒同士で協力しながら清掃したり、意見交換したりするための言葉掛けや教師の役割分担は適切であったか。

(5) 配置図

【清掃時】中高食堂



【振り返り時】流・サ実習室

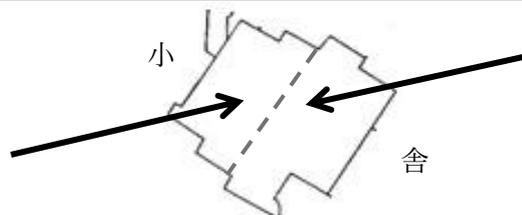


食堂清掃の【手順】と【役割】 10/13 (木) 実施

時間	活動内容と役割	メモ
手順 ①	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、ごみ箱出し (E) 13:26~13:27 台車を出す (C) 13:26~13:28 資機材、作業表示板 (D) 13:26~13:31 椅子上げ (全員) 13:26~13:36 <p>【コツあり】 両側を交互に上げる。</p>	<p>※準備は全員で行う。 13:26 始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> 消毒用バケツ 2つ、ごみ袋準備 タオルも濡らして準備 みんなが確認できるよう、「手順と役割」表を壁に掲示。
手順 ②	<ul style="list-style-type: none"> 小ぼうき (A F、B A) 13:27~13:31 <p>※大きいごみをひろう</p>	<p>※食堂出入りの声出しが大切</p> <ul style="list-style-type: none"> 手の空いている人がダストクロス
手順 ③	<ul style="list-style-type: none"> ダストクロス (A B、B E) ※^{わく}枠にそってからの、S字 2周 13:33~13:39 ダストクロス (A C、B D) ※テーブルの下 13:35~13:40 	<ul style="list-style-type: none"> ダストクロス S字 2周目に入ったら、テーブル下が入る。 ハンドルが机に当たらないようにする。
手順 ④	<ul style="list-style-type: none"> モップ (A F、B E) ※^{わく}枠にそってからの 1周 13:39~13:47 モップ (A B、B D) 13:43~13:54 ※テーブルの下 	<ul style="list-style-type: none"> ダストクロス (テーブル下) が最後の列に入ったら、モップの枠が入る。 モップ (枠) が後ろ向きでテーブル 2つ目に入ったら、モップのテーブル下が入る。
手順 ⑤	<ul style="list-style-type: none"> 椅子おろし (全員) 13:45~14:56 広げすぎずにおろす 椅子の拭き上げ (A F、B E→全員) 13:50~14:15 ※黄色クロスで消毒 テーブルふき (A B、B D) 14:55~14:20 ※緑タオルで消毒 机半分ずつ拭く 【コツあり】 両方の列のイスを交互に拭く。 台車ふき×5台 (C) 13:56~14:06 <p>※緑タオル、ビニール手袋 ★竹刀しぼり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 椅子の吹き上げは、基本クルーで場所を担当しているが、どちらかが遅れている場合は協力必要。 椅子は 6~8 席で再洗い 1脚毎にタオルの面を変える テーブルは列で再洗い 椅子を強く入れると反対が出るので、優しく入れる。
手順 ⑥	<ul style="list-style-type: none"> 床面の強いよごれの拭き上げ (A) 14:00~14:07 ※白タオル 床用洗剤水 手洗い場・石けんの量確認 (E) 14:06~14:16 台車をしまう (C) 14:08~14:11 資機材の片付け (全員) 14:10~14:14 ゴミ箱の点検→ (E) 14:10~14:12 	<ul style="list-style-type: none"> 手の空いている生徒が臨機応変に役割を担当、片付けをする。 第二校舎に帰ってからも素早く動く。 片付け→手洗い→振り返り→着替え <p>【今日の Good Point】 声掛け、気付いて行動!!</p>
手順 ⑦	<ul style="list-style-type: none"> 仕上げ・窓確認 (A F、B D) 14:10~14:13 挨拶・消灯・指示書 (E) 14:18~14:20 	<p>14:20 終わり 54分</p> <p>※ちりとりの中のゴミ捨て</p>

(図)

★小学部側は、
Bクルーが担当
(A、D、E)



★寄宿舍側は、
Aクルーが担当
(B、C、F)

補助：なし

対象生徒について

(1) 対象児童生徒の実態（障害特性や得意なこと、学習面や生活面で困っていることや、その背景にあること、自立活動の目標など）

真面目な性格で根気強く活動に取り組む。新しいことを覚えたり、手先が不器用だったり、物を操作するときの体の使い方に苦手を感じることもあるが、繰り返し練習を積み重ねることで、徐々に正確に作業することができるようになってきている。また、清掃が好きで進んで物の準備や作業を行ったり外部講師の方の手本をじっくり見て真似をしたりする。

入学時は分からないことや困ったことを自分から聞くことができず、「これでいいのかな」等、大きな独り言を話すことで気付いて欲しいという感じでしたが、作業を繰り返す中で、資機材のつけ方や清掃の手順を声に出して確認したり、先輩の清掃する姿を見たり、一緒に清掃することで先輩のようにかっこよく清掃したい憧れが強くなり、自分から分からないことや疑問、不安に感じたことを「持ち方は合っていますか、足と手が一緒になってしまいます」など伝えるようになってきた。

(2) 本單元における育みたい資質能力

学びに向かう力・人間性等

- ・先輩の働く、作業する姿勢(態度や技術)を見たり、分からないことを聞いたりして今後の清掃作業や実習に生かそうとする。

知識及び技能

- ・食堂清掃の手順や役割を覚え、清掃する。
- ・担当する清掃の資機材を正しく使い、安全に清掃する。



思考力・判断力・表現力等

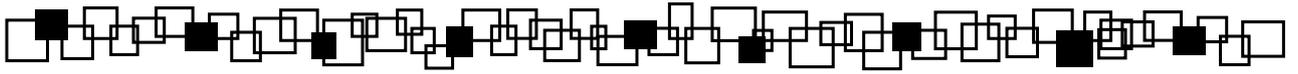
- ・担当する清掃の始まり、終わりをクルーに聞こえるよう言葉を掛ける。
- ・分からないこと、聞きたいことを具体的に考え伝える。

(3) 対象児童生徒のこれまでの学習の様子と本時の期待する姿（本時のねらいを達成した姿）

これまでの学習の様子	期待する姿
1年生の校内実習で5回食堂清掃を行った。初めての食堂清掃のため、ダストクロス(枠に沿ってS字2周)、モップ(テーブルの下)など、同じ作業を5日間繰り返し行っている。時間を計測しているため、「きれい、正確」よりも「早く」が先になってしまい、資機材を正しく使ったり、正確な作業ができなかったりした。モップやダストクロスの練習を積み重ねたり、外部講師からのアドバイスをもらったりすることで正しい資機材の使い方が定着してきている。	①資機材の基本の持ち方や操作の仕方を守りながら清掃する。 ②分からないことをすぐに聞いたり、質問したりする。

参考：4～8月の期間中、友愛ビルサービスの方が7回来校し、タオル、ダストクロス、モップ、窓清掃の仕方を指導

寄宿舎研究



<寄宿舍 研究テーマ>

学んだことを自分の力として活用できる生徒の育成を目指した生活指導の実践 ～生徒同士の学び合いや体験的な活動を通して～

1 寄宿舍研究テーマ設定理由

昨年度は、個々の実態に応じた学習会や指導体制・手立ての工夫と改善を積み重ねることで、知識や技能の向上と習慣化を図ってきた。今年度は、昨年度有効だった指導方法を生かしつつ、本校の特色ある教育活動の一つである「地域学習」を取り入れた体験的な活動や生徒同士の学び合いの場を多く設定していくことで、生活技術の習得、活用、探究の機会がより増え、生徒のさらなる深い学びへとつなげていくことができるのではないかと考え、この研究主題を設定した。

生徒同士の学び合いには、教える側と教わる側がいる場面や、友達の姿を見たり、先輩への憧れから自分も同じように頑張ってみようと模倣したりする場面などがある。学んだことを友達に教えることで学びの反復や定着が図られ、教わったり模倣したりすることで自分のやりやすい方法の探究や習得へとつながり、それらを繰り返していく中で学んだことを自分の力として様々な場面で活用できるようになるのではないだろうか考える。

また、体験的な活動では、学習会や交流の他に地域資源を活用した活動を取り入れることで、卒業後の生活を意識した生活技術の習得やさらなる生活力向上が図られるだけでなく、新たな知識を増やしたり、学んだ知識を活用できる場を広げたりすることにもつながると考える。

2 研究仮説

生徒同士の学び合いや体験的な活動の積み重ねにより、他者の考えや様々な場面における生活技術を学ぶことができ、それらを活用していくことで生活力の向上や学んだ知識を自分の力として活用できる生徒の育成を目指すことができるであろう。

3 取組の実際

(1) 生徒同士の学び合いと体験的な活動の場の設定

- ①生徒同士の学び合いや体験的な活動の場を1年目は「洗濯」と「アイロン掛け」に焦点化した。
- ②学び合いや体験的な活動は、寄宿舍内でできるところから始め、徐々に地域資源の活用を取り入れた。

友達同士で技術（自分に合った方法やコツ）を見合う・模倣する・教え合う場面の設定



目的別生活実習・集会：同じ目標同士の学び合い・習得した技術を友達の前で披露する場面の設定



衣類畳み



洗濯干し



アイロン掛け

交流：地元クリーニング店の店主を招いてのクリーニング教室



プロの技を見る



プロの技を模倣する



地域資源の活用を含めた体験的な活動の場の設定



交流先クリーニング店の
場所確認・お礼状を渡す



洗濯洗剤売り場と
価格の確認



洗濯洗剤購入



コインランドリーの
利用（ズック洗い）

(2) 指導体制と記録シートの工夫

- ①研究グループは個別の生活指導計画を話し合うグループと統一する。（全3グループ）
- ②研究対象生は個別の生活指導計画の目標とリンクさせることで、職員間だけでなく、学部や保護者との連携と情報共有の円滑化を図る。
- ③研究グループは月ごとに実践記録シートをまとめ、寄宿舍研究会で報告する。研究会で指導内容と方法を全体共有し、今後の指導方法を話し合う。今後の指導方法も実践記録シートに入力することで共通理解を図る。



④実践記録を基にした研究対象生の変容とまとめ

学 年	中学部 3年	氏 名	K・K
実 態			
<ul style="list-style-type: none"> ・身辺処理は概ね自立しているが、集中力に欠け全般的に雑になりがちである。私物の整理整頓も苦手である。 			
目 標			
<ul style="list-style-type: none"> ・衣類の整理をする。 			
手立て・指導内容		生徒の様子・変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・種類別に収納できるよう、仕切りや箱を活用し、整理の仕方を本人と確認する。 ・集中して取り組めるよう自習時間に整理の時間を設ける。 ・部屋の友達と衣類整理について見合う時間を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き出しの中を仕切りや箱で分けたことで何を何処に入れるかが分かりやすくなったように衣類を収納するだけでなく、自分で足りない衣類を確認するようになった。 ・おやつや遊ぶことが気になり衣類整理を早く済ませたくて雑に行っていたが、整理の時間を自習時間に設定したことで他のことに気を取られずに、集中して取り組めるようになった。 ・舎監からのコメントや友達と衣類整理について見合うことが意欲につながった。 	
まとめ			
<ul style="list-style-type: none"> ・種類別に収納ができるようになると、枚数などもチェックでき不足分を確認するようになった。 ・集中して取り組める工夫として時間の設定、やる気を引き出す工夫として友達と一緒に教え合う場や舎監に披露する場の設定をし、取り組む回数を重ねることで、基本の畳み方を覚えて友達に畳み方のポイントを教えてあげられるようになった。 			

学 年	高等部 2年	氏 名	T・K
実 態			
<ul style="list-style-type: none"> ・身辺処理はおおむね自立し、何事にも意欲的であるが、手先が不器用なため、全般的に雑になりがちである。 			
目 標			
<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物の干し方と衣類の畳み方を覚え、収納する。 			
手立て・指導内容		生徒の様子・変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ハンガーの中央に目印を付けて上衣のタグを目印に合わせ、肩の線をハンガーに合わせる。 ・衣類に応じた畳み方について資料を基に演示し教える。 ・集中して取り組めるよう自習時間に衣類整理の時間を設ける。 ・部屋の友達と衣類整理について見合う時間を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・手先が不器用なため、洗濯した衣類にハンガーを通すことが難しかったが、ハンガーの中央部と上衣の襟のタグを合わせ、上衣の肩の線をハンガーに合わせることを覚え、回数を重ねることでバランスよく干すことができるようになった。 ・衣類の畳み方は、形が崩れることが多かったが、手アイロンで広げた上衣にバインダーを置いて形を整えて畳めるようになってきた。 ・自習時間、衣類整理について友達と見合うことにより、意欲につながった。 	
まとめ			
<ul style="list-style-type: none"> ・干し方については、実際に干しながらどうすればいいのかを一緒に考え本人が分かりやすい方法を模索した。一人でバランスよく干せるようになると自ら見てくださいと話すようになり自信をもてるようになった。 ・畳み方については、手アイロンで衣類を上手に広げてから畳むことを覚えることができた。 			

学 年	中学部 2年	氏 名	N・T
実 態			
<ul style="list-style-type: none"> ・こだわりが強く、納得するまで時間が掛かることがあるが、覚えは早い。 ・洗濯の一連の流れはできるが、アイロンは未経験。 			
目 標			
<ul style="list-style-type: none"> ・アイロンの掛け方を覚える。 			
手立て・指導内容		生徒の様子・変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・アイロン掛けの必要性を本人と一緒に考える。 ・準備から後片付けまでの手順表を提示し自習時間を利用してアイロン掛けの練習を職員と一緒にやる。 ・平面的なハンカチやバンドナから始めて徐々にエプロンやワイシャツなど、レベルアップを目指していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・アイロン掛けの必要性については「きれいに見えるから」と話す。また、自分から制服のズボンのアイロン掛けを希望したため、本人のやる気を優先し、ズボンに焦点化して行った。 ・手順表を見るよりも、実践しながら一緒に確認していく方が早く覚えることができた。 ・アイロンを掛ける前と後の違いを見比べることで、ズボンの折り目やアイロンの向きに気を付けて掛けることができるようになった。 	
まとめ			
<ul style="list-style-type: none"> ・部屋担当との練習から始め、慣れてきたら同室の友達や、同じ目標をもった者同士での学び合いへと移行することで、自信をもって友達に披露したり、相手を見て自分のやり方を振り返ったりできていた。 ・次年度は交流や見学等を通してプロの技を見る機会を設けたり、友達に披露する場を増やしたりすることで、さらなる技術の習得を目指したい。また、制服のズボン以外の衣類へのアイロン掛けにも挑戦していきたい。 			

学 年	中学部 3年	氏 名	K・R
実 態			
<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラム ・自分の興味ある事柄について、周りの人に何度も質問することがある。 ・洗濯機を使う、洗濯物を干す、洗濯物を畳むなど洗濯に関連することは、家庭では未経験 			
目 標			
<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯の仕方を覚える。 			
手立て・指導内容		生徒の様子・変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯日や取り入れる日が分かるように部屋に掲示する。 ・洗剤の投入（ジェルボール）を一緒に確認し慣れてきたら側で見守るようにする。 ・洗濯機に操作の順番が分かるようにシールで目印を貼り、終了時間を一緒に確認する。 ・角ハンガーの中央に下着を干せるようにピンチの色を変える。 ・先輩の干し方を手本にできるよう一緒にやる機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯日が分かり、自ら取り組むようになった。 ・全ての洗濯機に操作の順番が分かるシールを貼ったことで、どの洗濯機でも使うことができるようになった。 ・終了時間を一緒に確認することで、自分で時計を見て洗濯物を取り出せるようになった。 ・角ハンガーの中央に下着を、外側にタオルや靴下を干して、下着が外から見えないように干すことができるようになった。 	
まとめ			
<ul style="list-style-type: none"> ・先輩と一緒にやったことで、自他の干し方について、具体的に好ましい点とそうでない点に気付けるようになり、ハンガーの使い方が上達した。 ・現時点では、職員と一緒に確認することで洗濯の一連の流れに取り組んでいるが、今後は一人で時間を確認して行動できるように進めていきたい。 			

学 年	中学部 2年	氏 名	T・A
実 態			
<ul style="list-style-type: none"> ・明るく素直な性格だが、自分で納得のいかないことにこだわる傾向がある。 ・洗濯に関しては未経験だが、様々なことに挑戦しようと意欲がある。 			
目 標			
<ul style="list-style-type: none"> ・乾き具合を確認して洗濯物を取り込む。 			
手立て・指導内容		生徒の様子・変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯を取り込む時間帯を本人と確認する。 ・実際に衣類を触って乾きにくい箇所や乾き具合を確認する時間を設ける。 ・自分で乾き具合が判断できないときは職員に相談するよう伝え、必要に応じて乾燥機の操作について説明し一緒に行く。 ・一人で行えるように段階的に支援を減らす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の洗濯物の取り込みと自習時間を活用した衣類整理が定着した。 ・衣類に応じて乾きにくい部分を覚え、一枚一枚触って確認するようになり、乾き具合が曖昧で自信がないときは、職員に確認の依頼をするようになった。 ・乾燥機の使用について、職員の見守りは必要だが、操作方法を覚え、衣類タグの洗濯表示を確認しながら使用できるようになってきている。 	
まとめ			
<ul style="list-style-type: none"> ・自習時間を活用したレディースデイで、生徒同士でやり方を紹介したり教え合ったりしながら学び合うことで定着に繋がった。また、舎監の先生からのアドバイスや友達から教えてもらったことを実践し、自分のやりやすい方法を見付け、進んで取組むことができた。 ・今後もレディースデイを継続し、様々な内容の学習会を実施しながら、アイロン掛けなど次の段階に移行していきたい。 			

学 年	高等部 1年	氏 名	Y・N
実 態			
<ul style="list-style-type: none"> ・広汎性発達障害 ・基本的な生活習慣や身辺処理は自立している。 ・家では洗濯の経験はないが、手伝いとして衣類の畳み方を行ったことがある。 			
目 標			
<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯の乾き具合を判断して衣類を取り込み、畳み方や収納の仕方を覚える 			
手立て・指導内容		生徒の様子・変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に衣類を触って乾きにくい箇所や乾き具合を確認する時間を設ける。 ・自分で乾き具合が判断できない時は職員に相談するよう伝え、乾燥機の使用方法も教える。 ・衣類の畳み方や収納の仕方を一緒に行い徐々に確認の回数を減らす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生乾きの衣類は、乾燥機の使い方を覚え一人で使えるようになってきた。自分で洗濯表示を確認し、乾燥機使用できるかどうかも分かるようになった。 ・収納の仕方は、仕切りを作ったり、友達が使っている物を見たりしてきれいに収納するようになった。 ・衣類の畳み方は、友達の畳み方を見ることで丁寧に行うようになってきた。 	
まとめ			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分ではできていると思っていることも、生徒同士で教え合ったり舎監からのアドバイスをもらったりしたことで、他の方法もあることを知り受け入れて行うことができるようになった。 ・自習時間を活用したレディースデイでは、友達同士で学ぶことができたため内容を工夫して継続実施していきたい。 			

(3) 学部、保護者との連携

- ①授業参観や寄宿舎見学等を通して指導内容の共有を図ることで、生徒の、場所や場面が変わっても身に付けた知識や技能を発揮する力の育成を図った。
- ②舎監からのアドバイスやメッセージを掲示することで、生徒のさらなるやる気につながった。
- ③生徒の様子を個別の生活指導計画や寄宿舎通信で発信し、情報の共有を図る。また、保護者からのメッセージを寄宿舎通信で紹介した。

授業参観・寄宿舎見学



指導方法の共有

生活の様子を見た舎監からの アドバイスやメッセージ



寄宿舎通信



生活の様子・保護者の声を掲載

4 まとめ

(1) 生徒同士の学び合いや体験的な活動の充実に向けて

- ・同じ目標をもつ生徒同士や、寄宿舎における先輩から後輩へなど、自分が習得した知識や技能を友達の前で披露したり、やり方を説明したりといった学び合いの場面を多く設定してきた。他者のやり方を見たり模倣したり、また教え合ったりすることで、自分にあったやり方の振り返りや習得へとつなげることができた。
- ・学校と寄宿舎の指導方法を職員間で共有し、場所や場面が変わっても身に付けた知識を発揮できる環境設定をしてきたことで、学校で学んだことを寄宿舎の友達に教える場面が多く見られた。
- ・卒業後を意識した生活技術の習得を目指した地域資源の活用においては、まずは職員が新屋の街を知るための情報収集するところから始めた。生徒の活動としては、交流先のクリーニング店の場所確認、スーパーで自分が使っている洗剤の値段調べと購入、コインランドリーで内ズックを洗うなどの活動を行った。

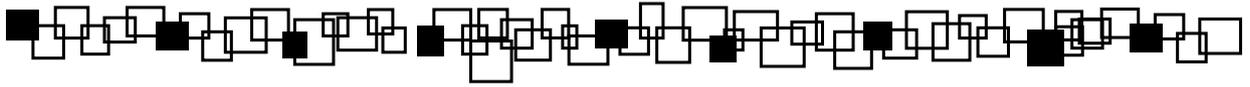
(2) 生徒の変容

- ・友達に教える際、どのように話せば相手に伝わりやすいか、相手のことを考えながら教える姿が見られた。また、頭では分かっている言葉に出して表現することの難しさも併せて感じていた。教わる方も質問をして真剣に話を聞いていたが、教える側の学びの反復と定着の方が顕著だった。
- ・地域資源を活用した体験的な活動などの学校外に出る活動は生徒の興味や意欲につながりやすく、楽しみながら生活技術を習得することができた。

(3) 次年度に向けて

- ・今年度有効だった指導内容と体制を基に、指導内容の拡充を図っていく。
- ・集会や目的別生活実習など、習得した知識や技能を友達の前で披露する場を増やす。
- ・授業参観や寄宿舎見学に加え、寄宿舎の施設や寄宿舎職員の提供の場を増やし、学部との連携を深める。
- ・寄宿舎通信を通し、生徒の頑張りや舎監メッセージ、保護者の声を発信する機会を増やす。

資料



- 研究のあゆみ

研究のあゆみ

昭和	56年度	生活単元学習、遊びの学習
	57年度	合同遊び、作業学習
	58年度	日常生活の指導、作業学習
	59年度	日常生活の指導、作業学習
	60年度	ことば（国語）・かず（数学）の要素表の作成
	61年度	ことば（国語）・かず（数学）の年間指導計画の作成、自作教具集の作成
	62年度	音楽・図工・美術・体育
	63年度	養護・訓練

児童生徒の障害の重度化・多様化に伴い、これまでの指導内容や方法だけでは子どもたちの発達要求に十分応えることができないという状況が多く見られるようになってきた。また、基礎集団としての学級での指導を基本としながらも、子どもたちの発達段階と各教科の課題を考慮しつつ、「質」と「量」の違う複数の集団での活動を保障しながら「個」への配慮が必要だという意見が出るようになった。このことから平成元年度に研究テーマを設定し、「個別学習」についての研究・実践を進めた。

これが、「研究くりた」の始まりである。

「研究くりた」 研究主題

平成	元年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究 ～一人ひとりを生かす指導の形態と個別指導のあり方～
	2～3年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究 ～一人ひとりを生かす指導のあり方～
	4～7年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究
	8～10年度	生き生きと豊かに生活していく力を育てるために ～日常生活の指導の実践をとおして～
	11～12年度	「生活する力」を育てる指導実践 ～生活単元学習を中心として～
	13～15年度	個別の指導計画の効果的な活用 ～よりよい授業づくりを目指して～
	16年度	障害の特性に応じた指導の在り方 ～専門性の向上及び環境の整備を軸に児童生徒の伸長を目指す～
	17～18年度	障害の特性に応じた指導の在り方 ～自閉性障害の障害特性に適切に対応した教育内容・方法の充実を目指して～
	19～20年度	一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりを目指して ～4つの観点（主体性、知識・技能、生活への般化、社会性）から～
	21～22年度	一人一人の願いを生かした授業づくり
	23～24年度	一人一人の自立と社会参加を目指した一貫性のある指導の在り方 ～働く意欲を育てる授業づくりを通して～
	25～26年度	自立と社会参加を目指して、主体的に学習する姿を求めた授業づくり ～「考える」「活かす」に焦点を当てて～
	27～28年度	自分のよさに気付き、もてる力を発揮できる児童生徒を育てる授業づくり
	29～30年度	「合わせた指導」の基本を徹底した授業づくり ～「授業改善プロジェクト」の検証と成果を踏まえて～
令和元～2年度		児童生徒が学びを実感できる授業づくり ～学ぶ姿に着目した授業研究を通して～（元年度） ～単元・題材の構成及び配列の工夫・改善を通して～（2年度）
令和3年度		一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善＜1年計画＞ ～学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して～
令和4年度		自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり＜3年計画＞ ～協働的な学びの充実を通して～

おわりに

今、児童生徒の学びのためには何ができるか、職員全員で考え、実践を重ねながら進んでまいりました。一年の締めくくりを迎えるこの時期に、本校の実践研究の記録を紀要としてまとめ上げることができました。併せて、今年度新たに研究概要としてリーフレット版を作成し、研修実践の成果を発信しております。

本年度から研究主題「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり～『協働的な学び』の充実を通して～」を掲げ、児童生徒の学び続ける姿を目指した協働的な学びの充実を図るための授業改善に取り組んでまいりました。

研究スケジュールの中に、学年会を定期的に位置付け、「育成を目指す資質・能力」について、具体的な児童生徒の学ぶ姿を取り上げて評価・改善したことで、児童生徒の変容する姿と有効な手立てを教師間で共有することができました。児童生徒の協働的な学びを追求する話し合いの中で、教師間における協働的な学びの深まりを実感し、専門性の向上に結び付いた一年間となりました。

目指す姿を明確化したことにより、児童生徒にとっても自身の課題が分かり、学んだことを実際に生かして考えたり、伝えたり、新たなことに挑戦する意欲が高まったりなどの変容が見られました。課題解決に向かって頑張る自分が好きになり、頑張る友達の姿を認め、互いに高まり合う学級運営につながっています。

また、キャリア発達の視点で「育成を目指す資質・能力」について、学部縦割りの教師グループ内で繰り返し協議したことにより、各学部における年間指導計画を横断的な視点で見直すことや各学部間で連続した学びを保証するための具体策について、学部の枠を超えて共有する仕組みが強化されました。自ら学び続ける児童生徒の姿は、本校の特色ある教育活動の一つである地域学習においても、関わり合う双方のねらい達成に向けた協働的な学びが深化できると捉えております。

高等部普通科の生徒から「話し合える仲間ができてうれしい。もっと分かりたいし、伝えたいと思うようになった。」という言葉を聞きました。一人一人の児童生徒が、仲間や周囲と関わる中で確かな学びを続けていることを実感し、より深い学びとして実を結ぶことを願い、今後とも研究実践に努めてまいります。

お届けいたしました本研究紀要に対し、御意見・御感想をお寄せいただければ幸いに存じます。

最後に、本校の研究推進に対し、御指導・御助言くださいましたすべての皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも御指導を賜りますようお願い申し上げ、結びといたします。

副校長 諸岡 美佳

研究同人

校長 佐藤 博司 副校長 諸岡 美佳 教頭 相場 力 伊藤 潤
事務長 真田 郁朗 教諭(兼)教育専門監 石垣 徹 菅原 文彦 研究主任 杉渕 陽子

小学部

齊藤 理香	京屋 庸子	佐藤 尚人	渡辺 舞子	秋元 仁美	藤原 真美
梅田 季和	堀田 聡弥	菅原 尚子	柳田 智子	篠田るり子	会場 友美
大塚亜紀子	畑 美貴子	筒井 清子	渡部 大樹	宮野佳代子	高久 貴子
熊谷 好	高橋 遥	鷺谷 武彦	小嶋美智子	栗津 綾乃	大山万里子
佐々木江利子	齋藤 彩夏	菊池 良一	村上世生子	海道 史子	尾山 優子
田中 明美	岩田 祝子	磯邊 千春	高橋あゆ子	岩谷 桜	長谷部 元
佐々木千春	佐藤 緑	中村麻希子	藤原 忍		

中学部

黒澤 正子	照井真紀子	菅原 文彦	田中 亜希	高橋 裕子	五十嵐智子
鈴木 暁子	阿部 泰雄	大友 信	熊谷理香子	太田 清子	高橋ひな子
信太真喜子	市川奈津子	藤井 優香	目黒 雄悦	工藤 達矢	小笠原なおみ
千葉 隆之	杉渕 陽子	葛西亜樹子	柴田 壮紀	越後 楓	柳 祥子
佐藤 雅子	畠山 千紗	三浦 弥	原 和馬	渡部 恵	加賀奈津子
高橋 学	長谷部優子	中川 朋美	森本 芹果		

高等部

【普通科】					
菊地 武	安藤 一敏	石垣 徹	渋谷 真二	東谷 秀昭	田中 正之
加藤真理子	小林 哲	沖口 祥子	小川 華佳	伊藤 俊彦	工藤 彩
門間 陽子	高橋 俊英	加藤 秀幸	大友 祥子	大友 良江	佐藤 洋子
佐藤 美幸	和泉 緑	小田野 陵	鈴木 崇	小野 直子	大野 藍
播摩友紀子	田近礼津子	後藤真紀子	笹渕 幸廣	能登屋 弥	千葉 翠子
伊藤ひとみ	長谷川舞子	熊谷 彩	大門真理子	大山 等	成田 ゆか
富岡 雅江					
【総合サービス科】					
工藤 思郎	佐々木 幸	佐藤あゆみ	中野 貴洋	菅原 智子	加藤真依子
相澤 晶	菊地奈都子	竹場 久美	田中佑可子	長谷川節子	永澤 正太
近藤 文晴					

寄宿舎

篠塚 朋子	佐藤 明子	佐藤 光子	坂本 香織	荻原 雅子	柏谷 典子
藤田志穂子	佐々木晶子	岩澤 佑一	加賀 瞳	堀江 千里	加藤 郁恵
保坂 康子	菅原ルリ子				

令和4年度 研究 くりた

発行年月 令和5年3月発行

発行所 秋田県立栗田支援学校

〒010-1621 秋田市新屋栗田町 10-10

TEL 018-828-1162

018-888-8171 (第2校舎)

018-828-1170 (寄宿舍)

FAX 018-828-4720

ホームページ <http://www.kurita-s.akita-pref.ed.jp/>

メールアドレス kurita-s@akita-pref.ed.jp